

小山崎遺跡群
反田遺跡

長野県佐久市下小田切反田遺跡発掘調査報告書

2008.3

社会福祉法人 里仁会
佐久市教育委員会

小山崎遺跡群
反田遺跡

長野県佐久市下小田切反田遺跡発掘調査報告書

2008.3

社会福祉法人 里仁会
佐久市教育委員会



『曾利V式土器』（縄文中期後半）H1号住居址出土

反田遺跡の発掘調査について

反田遺跡が所在する佐久市小田切は鎌倉時代に時宗開祖の一派上人が『踊り念仏』を初めて踊った地として知られています。そのような歴史深い地において調査面積が1765m²におよぶ本格的な遺跡の発掘調査が初めて行われました。

その結果、縄文・弥生・平安時代と繋がる人々の生活した痕跡が発見され、調査地周辺には縄文時代と平安時代の集落が広がっていた事がわかりました。また、出土品の中にも数多くの調査成果がありました。中でも平安時代の住居から出土した『竈形土器』は東信地域で初めて、長野県下でも6例目となる希少な発見となりました。竈形土器は出土例が非常に少ないとから祭祀等の特別なときを使われたと考えられています。また、古代の国によって铸造された皇朝十二銭の一つ『富壽神寶』や、平安時代としては高級食器と考えられる中国産の『白磁碗』も出土しました。これらも白田以南の南佐久地域では初めての発見です。

このように、貴重な発見が相次いだ遺跡調査ですが、新たな疑問も提示されました。例えば『竈形土器』です。佐久地域では現在までに500箇所以上の発掘調査が行われ、1箇所で1000軒を越える古代の住居跡が調査された遺跡もあります。しかし、竈形土器が出土したのは当遺跡のみです。「なぜ佐久平で唯一、下小田切で使われていたのか。」という疑問です。発掘調査ではこの疑問に答えられる具体的な祭祀の姿はわかりませんでした。しかし、一つの糸口として反田遺跡からは奈良・平安時代に山梨県で使われていたものと酷似する土器が多く出土しました。山梨県は東海や関東地方の中で神奈川県と並び竈形土器の出土例が多い地域です。或いは古代における信濃佐久と甲斐との交流が大きなヒントとなるのかもしれません。

いずれにしてもこの反田遺跡周辺は古代の佐久地域にとって重要な役割を担う地域であった事がおぼろげながら見えてきました。今後周辺の調査が進めばそれらの資料と関連し、今回の調査成果はより一層「佐久地域の歴史」解明に寄与できるものと考えられます。



反田遺跡調査区全景（南より）



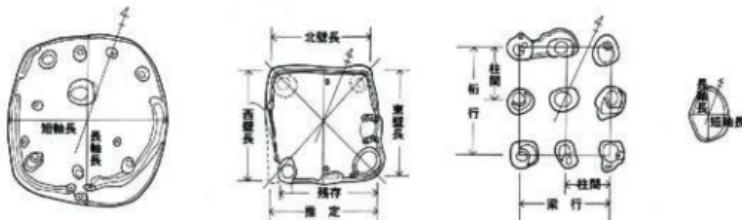
例　　言

1. 本書は、社会福祉法人里仁会が行う特別養護老人ホーム建設工事に伴う反田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査原因者　　社会福祉法人 里仁会
3. 調査主体者　　佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地　　反田遺跡 (SKS) 佐久市下小田切字反田
5. 調査期間及び面積　　調査期間 平成18年7月3日～平成20年3月21日
調査面積 1,765m²
6. 本書の編集・執筆は記名のあるもの以外、富沢が行った。
7. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

本発掘調査にあたり雨宮久雄氏・新津眞澄氏には格別なご理解とご協力を賜った。また、本報告書作成にあたっては平野修氏・市川隆之氏・中沢道彦氏・藤森英二氏にご指導を頂いた。記して感謝いたします。

凡　　例

1. 遺構の略記号は、住居址(H)・掘立柱建物址(F)・土坑(D)・溝状遺構(M)である。
2. 掘図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については掘図中にスケールを示す。
竪穴住居址 1/80 カマド 1/40 土坑 1/80 土器 1/4 石器 1/4・1/3
3. 遺構の海抜標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層の色調は、1988年版『新版 標準土色鉛』に基づいた。
5. 遺構の計測は以下の通りである。また、遺物観察表「出土位置」の数値は、床面よりの遺物の高さを示す。



6. スクリーントーンの表示は以下の通りである。

	地山断面		焼土範囲		貼床・繊維含 羽口鉄分付着		灰　　釉
	黒色処理 石すり面		赤色塗彩		須恵器断面		緑　　釉

目　　次

例言・凡例・目次	
第Ⅰ章 発掘調査の経緯	
1.立地と経過	1
2.調査組織	2
3.遺構と遺物の詳細	2
4.基本手順	2
第Ⅱ章 遺構と遺物	
1.绳文時代の住居址	5
2.弥生時代の遺物	18
3.平安時代の住居址	23
4.掘立柱建物址	39
5.土坑	48
6.溝状遺構	50
7.ビット	50
8.遺構外遺物	59
9.調査のまとめ	59
付編 「反田遺跡出土の绳文土器について」	
「反田遺跡出土の甲斐型土器について」	
写真図版・抄録	

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過

反田遺跡は佐久市下小田切に所在する。遺跡は蓼科山麓から流れ出た片貝川により形成された小規模な沖積地上に立地する。遺跡の南方150mには片貝川が、北側には湯原より流れ出た中沢川がそれぞれ北に流れおり、横山地籍で合流する。この片貝川は南流してきた千曲川と400mにまで接近するが輪荷山や臼田市街地がのる微高地に阻まれ、野沢平の西よりを北に流れ約8km先の下県地籍で千曲川と合流する。

今回、特別養護老人ホーム建設のため社会福祉法人里仁会より予定地の遺跡有無について照会があった。佐久市教育委員会では開発対象地に小山崎遺跡群が存在することを回答し、試掘調査を行うこととなった。結果、試掘調査により遺構が発見されたため保護協議の末、遺跡の保存が不可能な部分については記録保存を目的とする発掘調査を行いう事となった。

周辺部の遺跡としてはこの沖積地を取り囲むように数多くの遺跡が存在するが、発掘調査された遺跡は少ない。

調査された遺跡としては反田遺跡の南方700mに勝間原遺跡がある。弥生後期の住居址2軒と溝状遺構が調査されている。次に近接して丸山遺跡がある。同じく弥生後期の住居址4軒と奈良時代の住居址1軒と掘立柱建物址が検出されている。また、当遺跡北方の淹地籍周辺では家浦遺跡が調査され平安時代の土坑や溝状遺構が調査されている。このように反田遺跡周辺では調査された遺跡も少なく、またいずれの遺跡も調査面積が極めて小規模で小田切地区の原始・古代像を具体的に示せる調査事例に乏しい。



2. 調査組織

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	三石昌彦(平成19年3月迄)	木内 清(平成19年4月より)
事務局	社会教育部長	柳沢義春		
	社会教育次長	山崎明敏(平成19年度より)		
	文化財課長	中山 悟(平成19年6月迄)	森角吉晴(平成19年7月より)	
	文化財調査係長	高柳正人(平成19年3月迄)	三石宗一(平成19年4月より)	
	文化財調査係	林 幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也 神津 格 富沢一明 上原 学 出澤 力 並木節子(平成19年10月より)		

調査体制

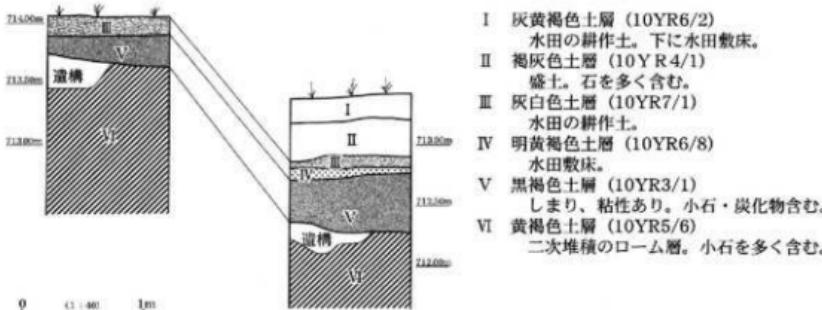
調査担当者	小林眞寿 羽毛田卓也 富沢一明 森泉かよ子
調査員	柏木貞夫 甘利隆雄 清水信一 阿部和人 碓水知子 加藤信一 菊池喜重 百瀬秋男 小林幸子 山本徳明 堀籠滋子 上原幸子 小林妙子 清水美恵 橋詰勝子 橋詰信子 佐藤瑞希 斎藤恵季 清水律子 井出孝子 白田真杉 茂木みどり 小林百合子 小林喜久子 柳澤千賀子 宮川百合子 花岡美津子 渡辺久美子 広瀬梨恵子 田中ひさ子 小林よしみ 林 美智子 堀 益子 市川 昭 小山 功 武者幸彦

3. 遺構と遺物の詳細

造構	竪穴住居址	19軒	遺物	繩文土器(加曾利EⅢ・曾利・佐久系) 弥生土器(中期中葉壇窪平行)
	(縄文2軒・平安17軒)			
土坑		50基	須恵器・土師器・甲斐形土器	
掘立柱建物址		4棟	灰釉陶器・綠釉陶器・白磁・龜形土器	
溝状造構		2本	富壽神寶・鐵製品・炭化材	
ピット		576個(古代~中世)		

4. 基本層序

今回の遺跡調査対象地は片貝川と中沢川が形成した沖積地に位置し、尚かつ周辺の土地利用状況をみると遺跡周辺は微高地を形成していると考えられる。このような事から遺跡の基本層序は6層に分かれ、第I~IV層は畑地及び水田耕作土。第V層に黒褐色土が薄く形成され遺物も混入するが、遺構確認には第VI層の黄色土で二次堆積のローム層であった。調査区の一部にはIV層下が小石の混ざる岩盤となり、いわゆる「相浜層」が露出していた。



第3図 標準土層図

ナ ト テ ツ チ タ ソ セ ス シ サ コ ケ ク キ カ オ

5

6

7

8

9

10

11

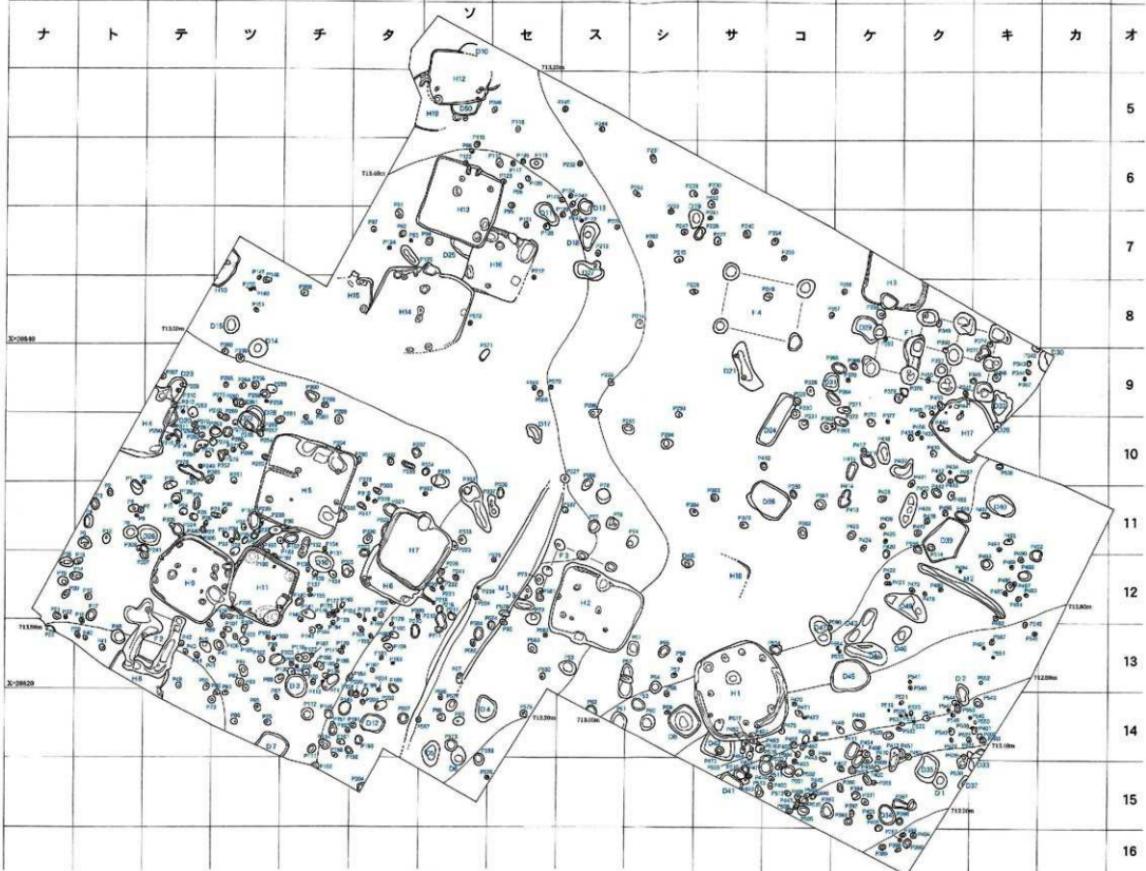
12

13

14

15

16



第4図 反田遺跡洞全体図 (1 : 200)

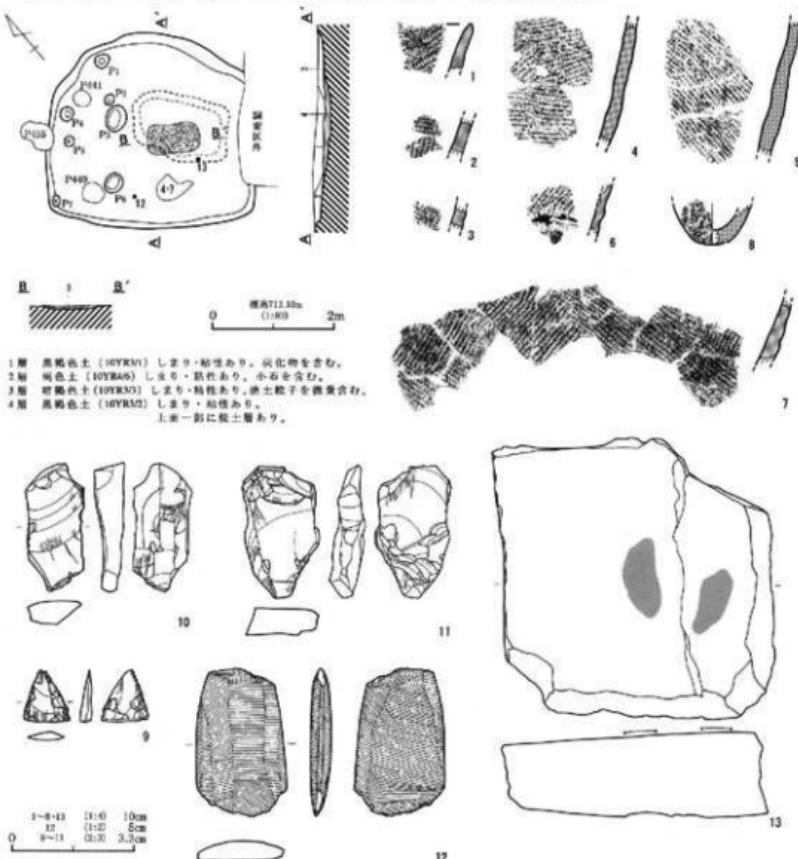
第Ⅱ章 遺構と遺物

1. 縄文時代の住居址

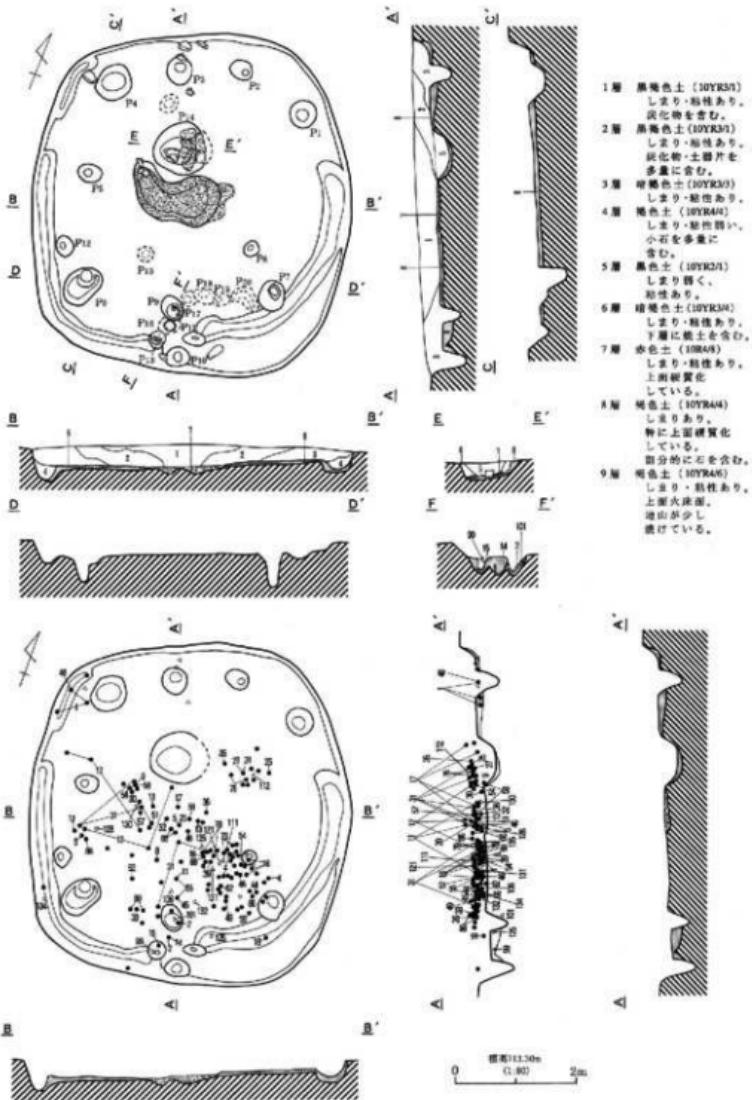
今回の調査では縄文時代の住居址が2軒検出された。時期は出土した土器の特徴からH17号住居址が前期初頭から前半、H1号住居址が中期後半に位置づけられる。各住居址の内容及び出土遺物の詳細については遺構計測表並びに出土遺物観察表を参照されたい。なお、縄文土器については付編に玉稿「反田遺跡出土の縄文土器について」を藤森英二氏より頂き掲載してある。

(1) H17号住居址 (第5図、写真図版六)

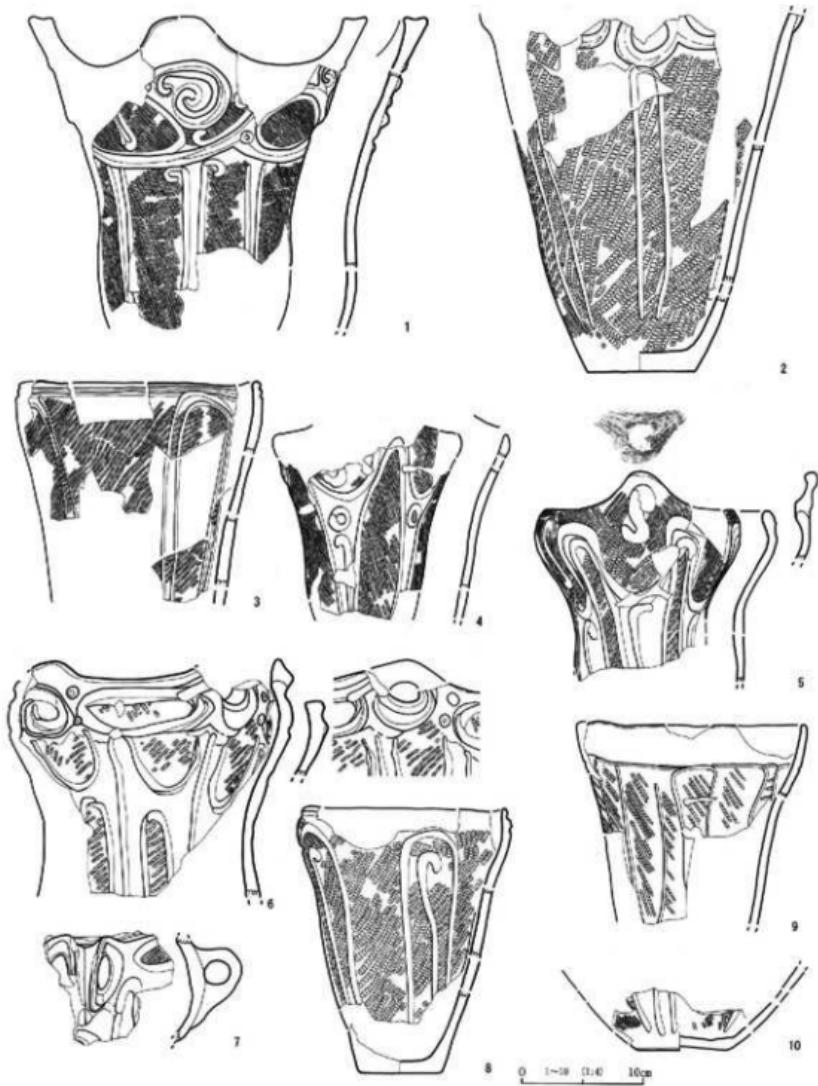
本址は調査区の北側に位置する。形態は方形で中央に炉址が確認された。



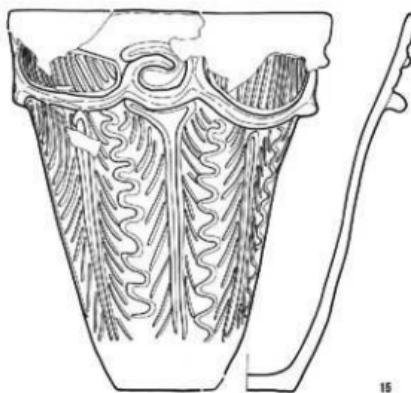
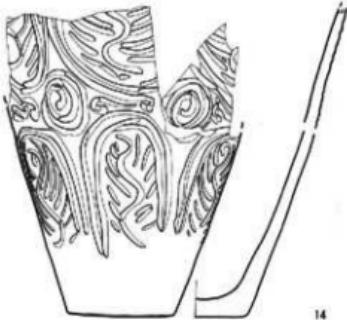
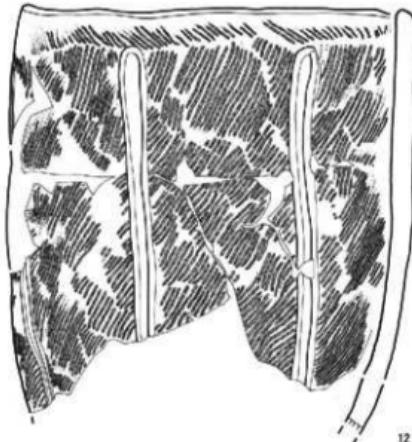
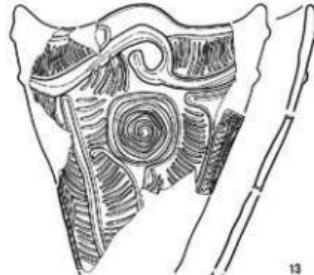
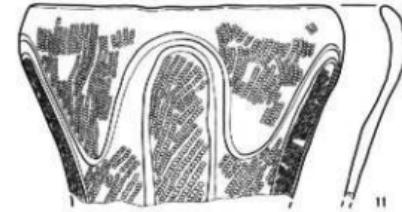
第5図 H17号住居址及び出土遺物実測図



第6図 H1号住居址実測図

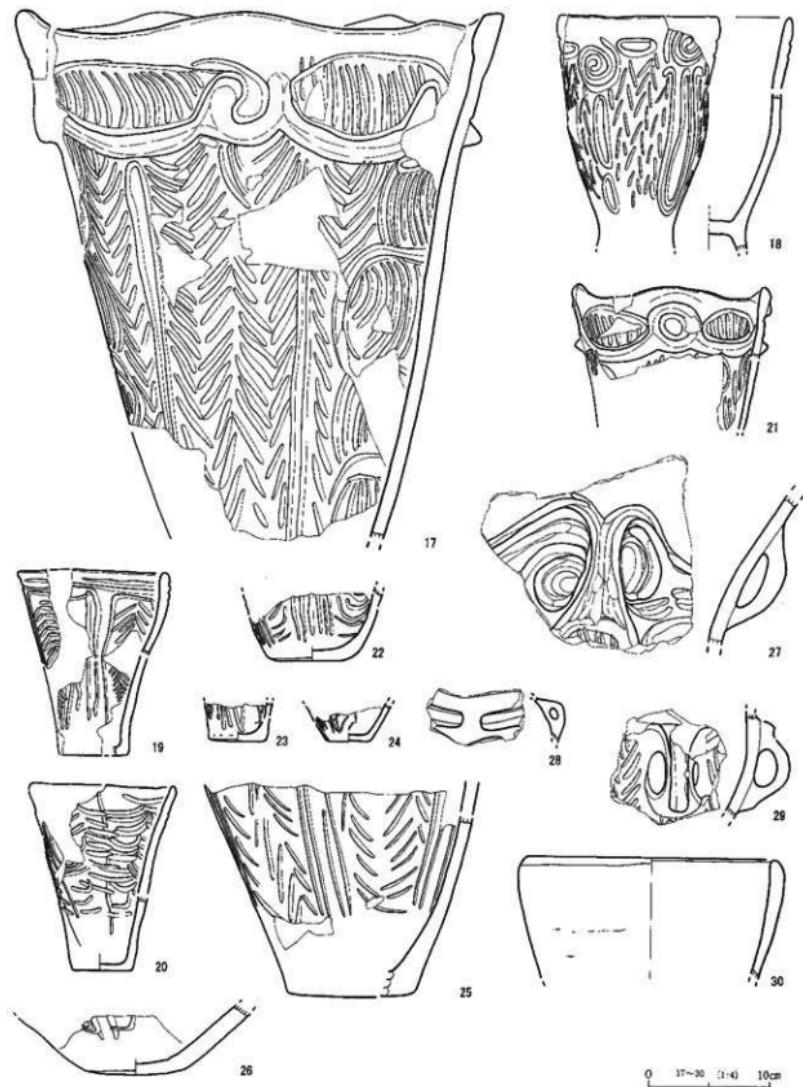


第7图 H1号住居址出土遗物实测图 (1)

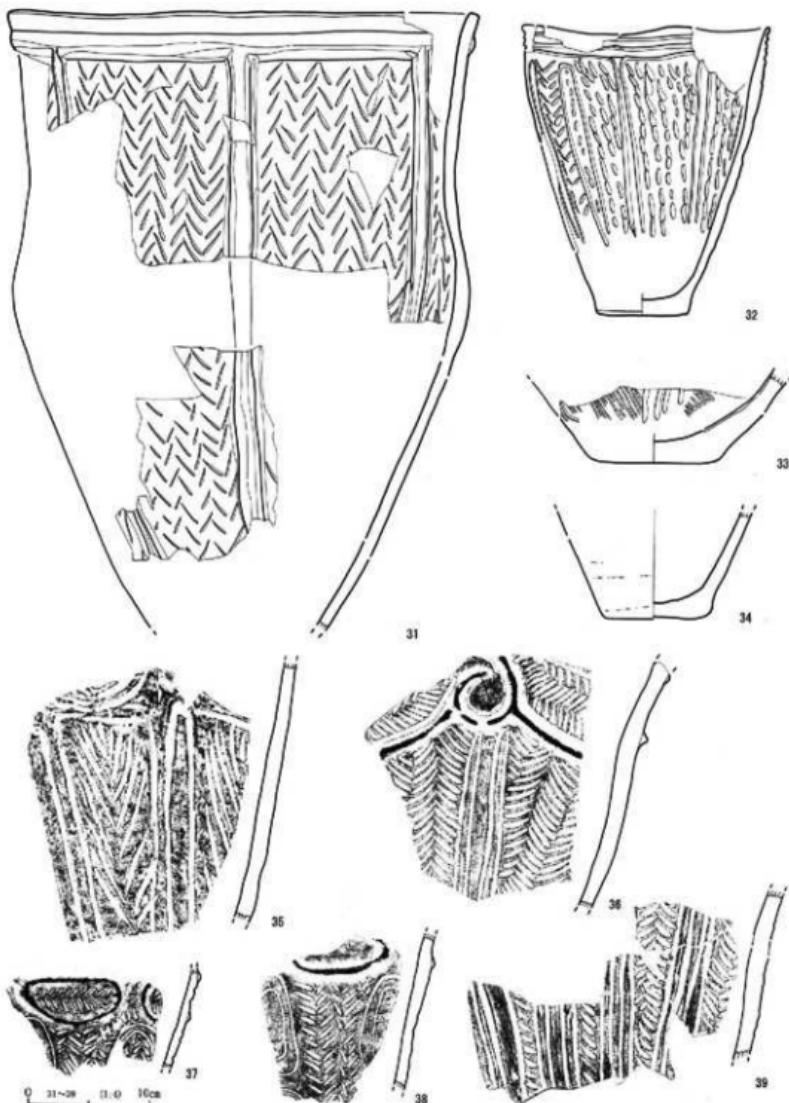


0 11~16 1:4 10cm

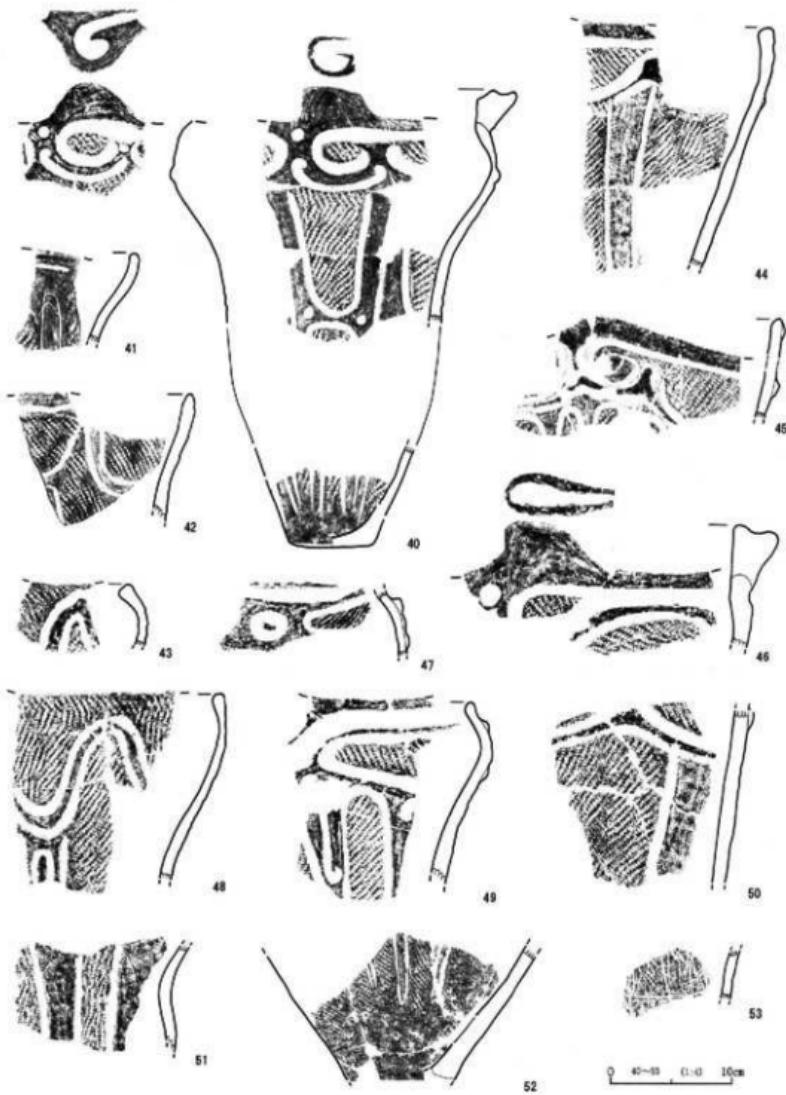
第8図 H1号住居址出土遺物実測図 (2)



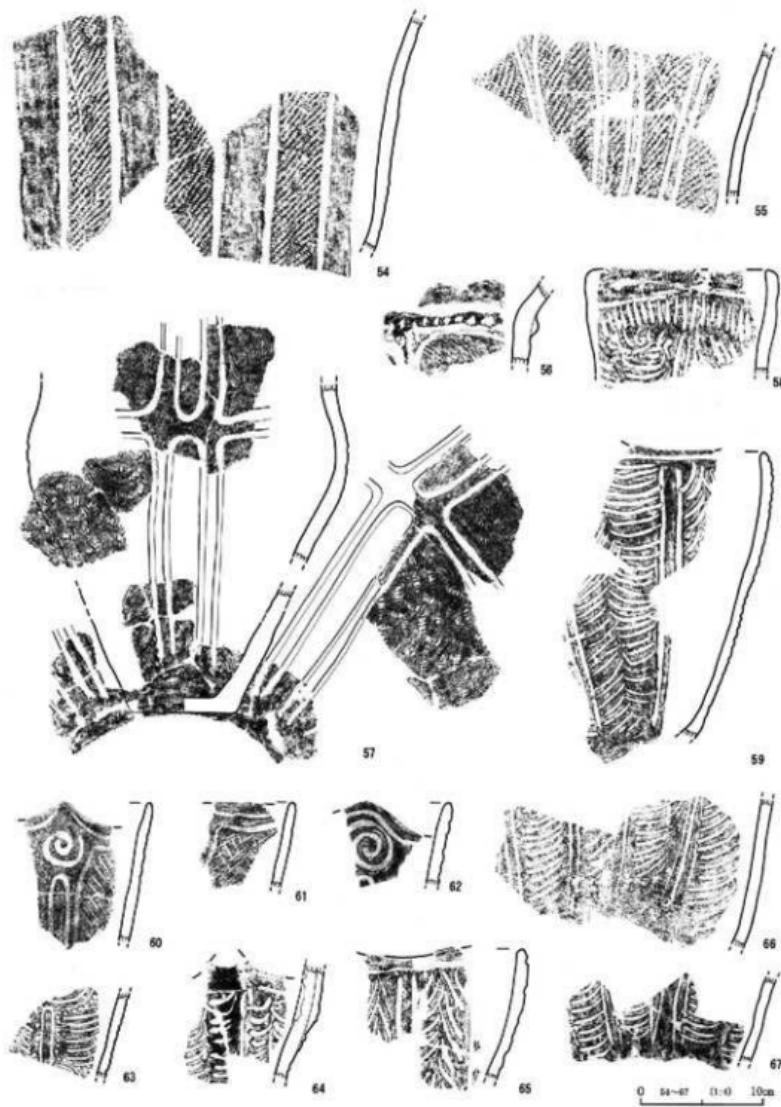
第9図 H1号住居址出土遺物実測図(3)



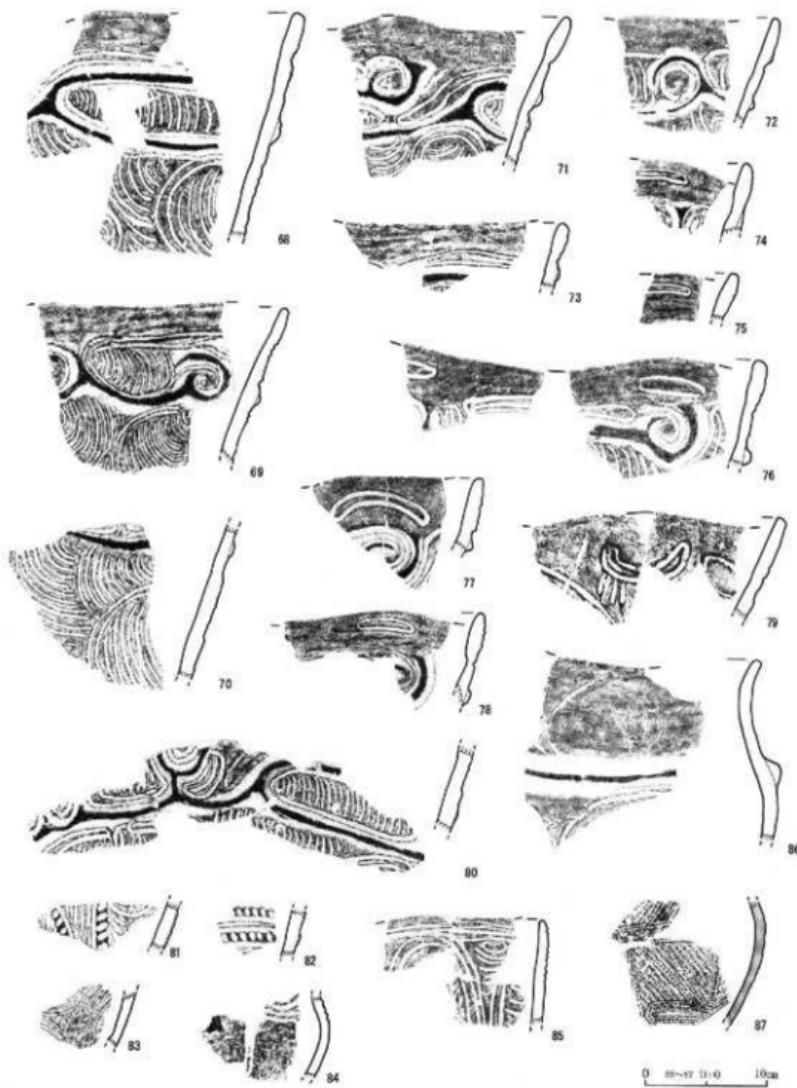
第10圖 H1號住居址出土遺物測量圖 (4)



第11圖 H1号住居址出土遺物實測圖 (5)



第12圖 H1號住居址出土遺物實測圖 (6)

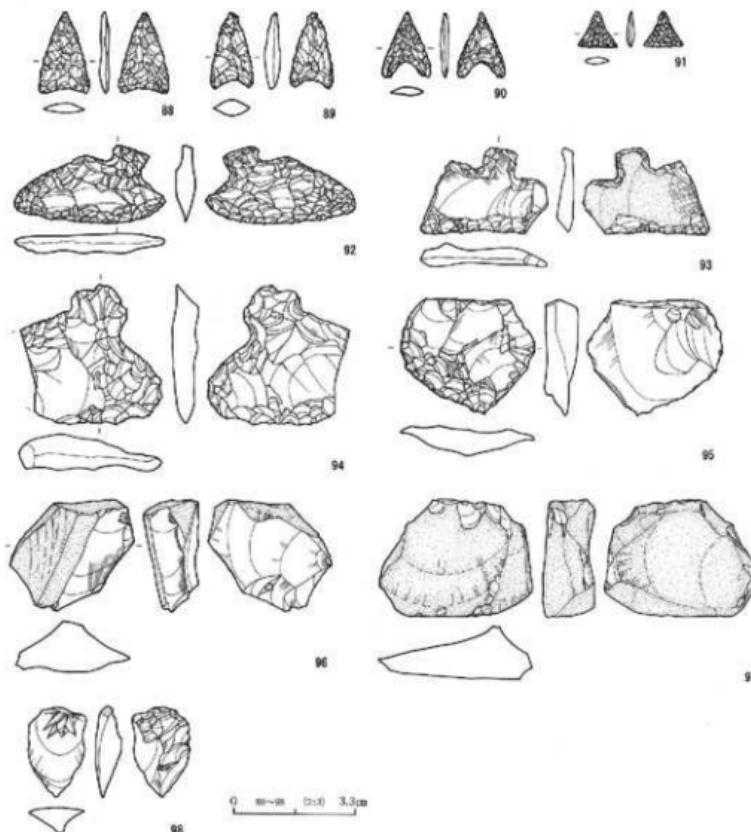


第13图 H1号住居址出土遗物实测图 (7)

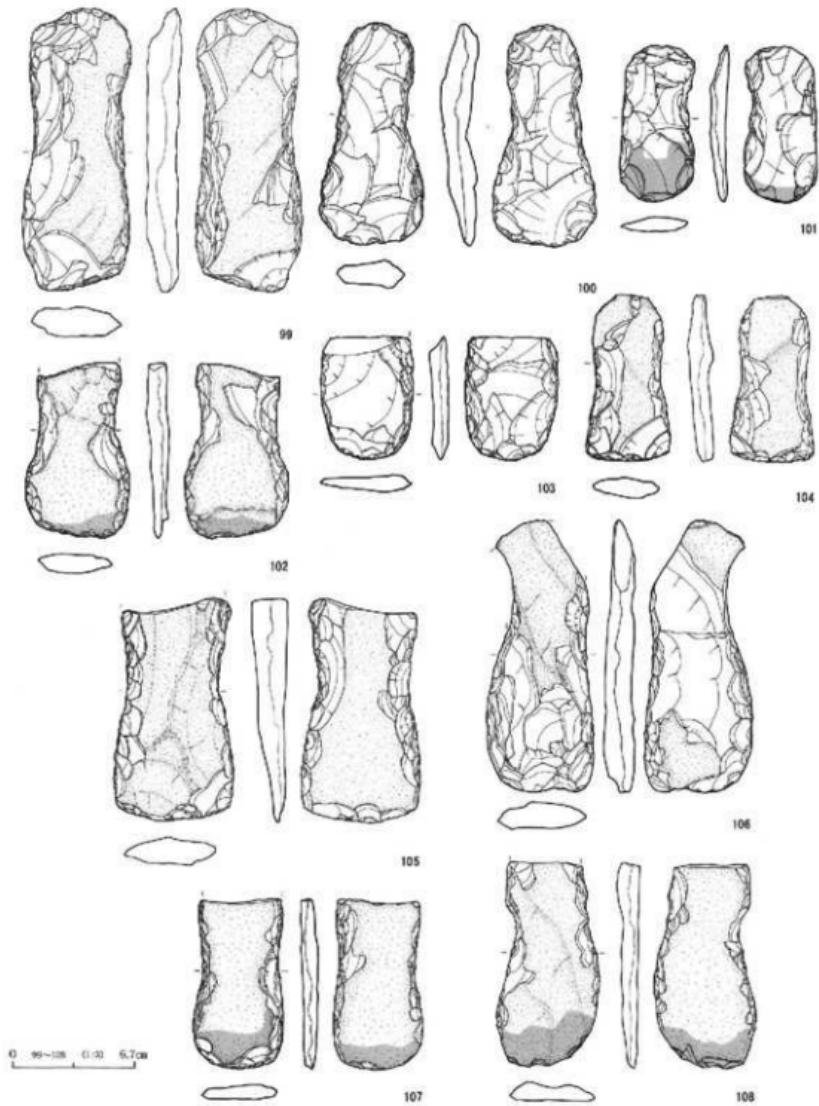
(2) H 1号住居址 (第6図、写真図版一)

本址は調査区東側の地形が片貝川側に落ち込む斜面に立地する。形態は円形で、壁際に柱穴が8本確認された。また南側の埋甕部分には入り口施設と考えられるP10が検出された。壁溝は南東と南西側に確認された。炉は住居址やや奥よりに検出された。形態は円形の土坑が掘り込まれ人為的に割られた川原石を配していた (写真図版1参照)。この川原石はすべて接合関係があり、大型の川原石1点に復元できた。この炉址は土坑内にも僅かながら焼土は検出されたが、図に示すとおり掘り込みの外側に大量の焼土が広がっていた。

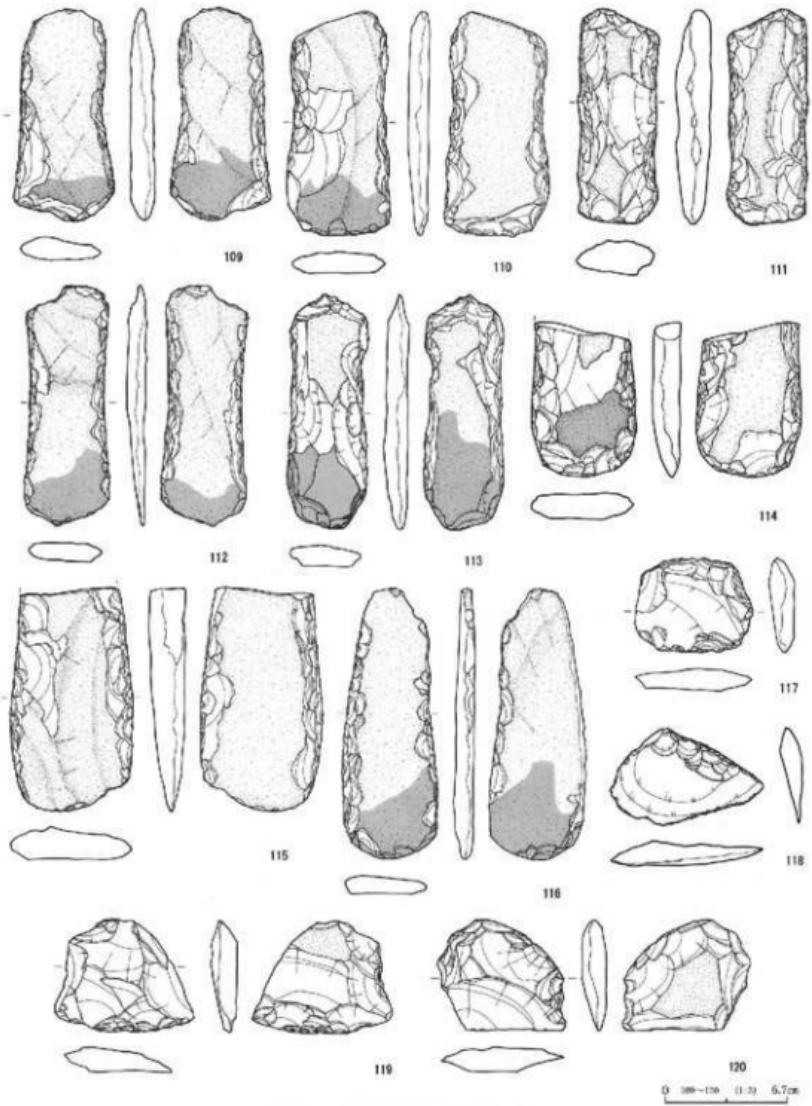
本址からの出土遺物は覆土上層から床面まで大量に出土したが、出土状態は住居址中心に向かってより鉢状に遺物が分布するため土器廃棄の可能性がある。埋甕は3点確認され、図示した2.14.15である。2と15のピット内には打製石斧が伴に出土した (写真図版1参照)。



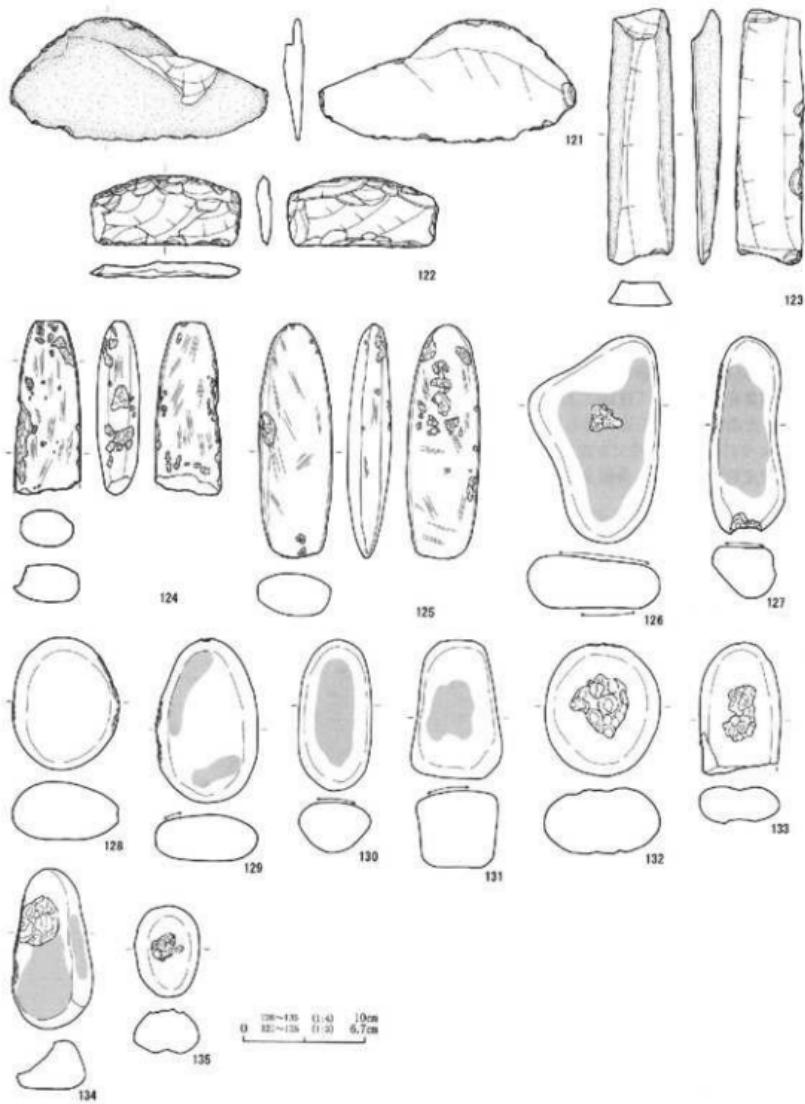
第14図 H1号住居址出土遺物実測図 (8)



第15圖 H1号住居址出土遺物實測圖 (9)



第16图 H1号住居址出土遗物实测图 (10)



第17圖 111號住居址出土遺物實測圖 (11)

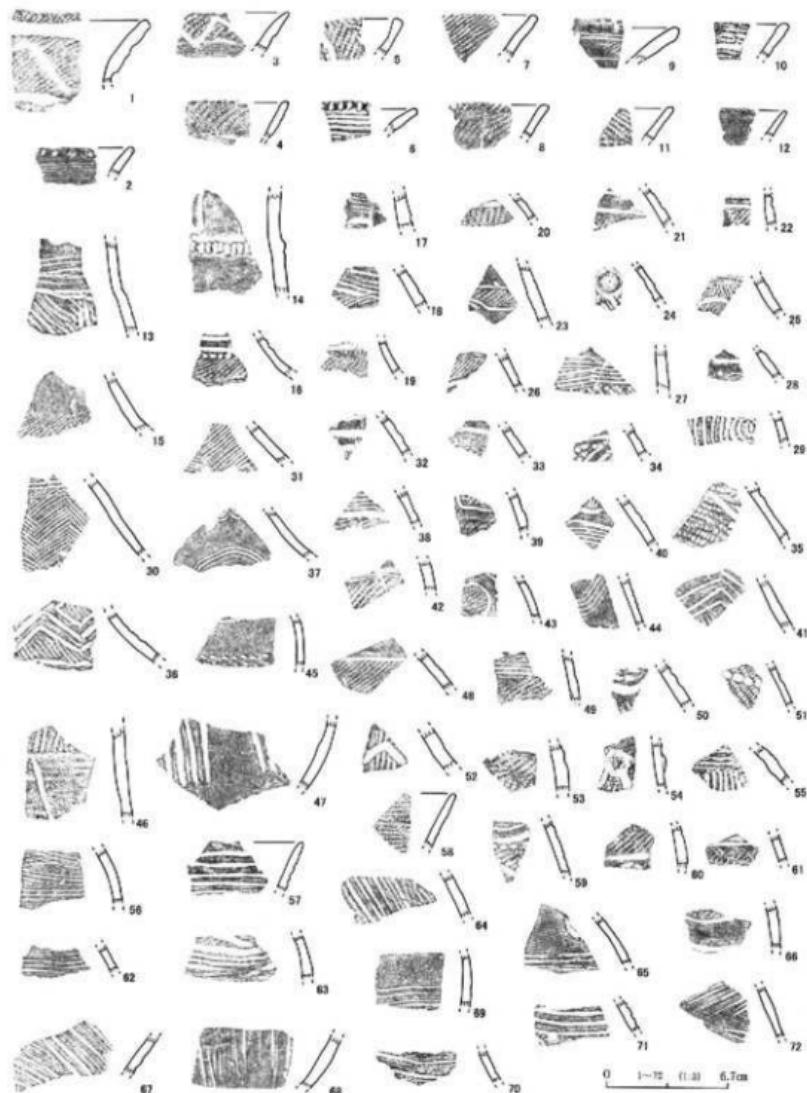
2. 弥生時代の遺物

今回の反田遺跡の発掘調査では、調査区全域から弥生時代中期中葉と考えられる土器が小片であるが出土した。弥生時代と認識できた土器片数は228点で、調査区内での出土位置は下の第18図に示し、内117点を図示した。出土位置は大きく2箇所の偏りがあり、1箇所は北東側であるF1号掘立柱建物址付近で特にF1号掘立柱建物址のピット内からの出土、もう1箇所は調査区南西側の平安時代の住居址群であるH5.7.9.11号住居址の覆土内より多く出土した。いずれも時期の異なる遺構からの出土であり弥生時代の土器片はいずれも混入と考えられ、確実に遺構に伴うものは確認できなかった。しかし、唯一P328～331からは当該期の土器片が多く出土した。D31号土坑を含むP328～331、P362～364は平面形態が円形のピットにより開まれる状態を示し、東隣のP413～418、P436.437も同様に円形の配列を示す。ピットはいずれも浅く柱穴とは断定にくく、又炉址等も検出されていないが、特にP371.372が「ハ」の字状に広がる点など、平面形態のみで考えると松本市境窪遺跡で検出されている弥生中期中葉の平地建物址と共通性も指摘でき、あるいは掘り込みとして確認しづらい同期遺構の存在も推定できるのではないだろうか。

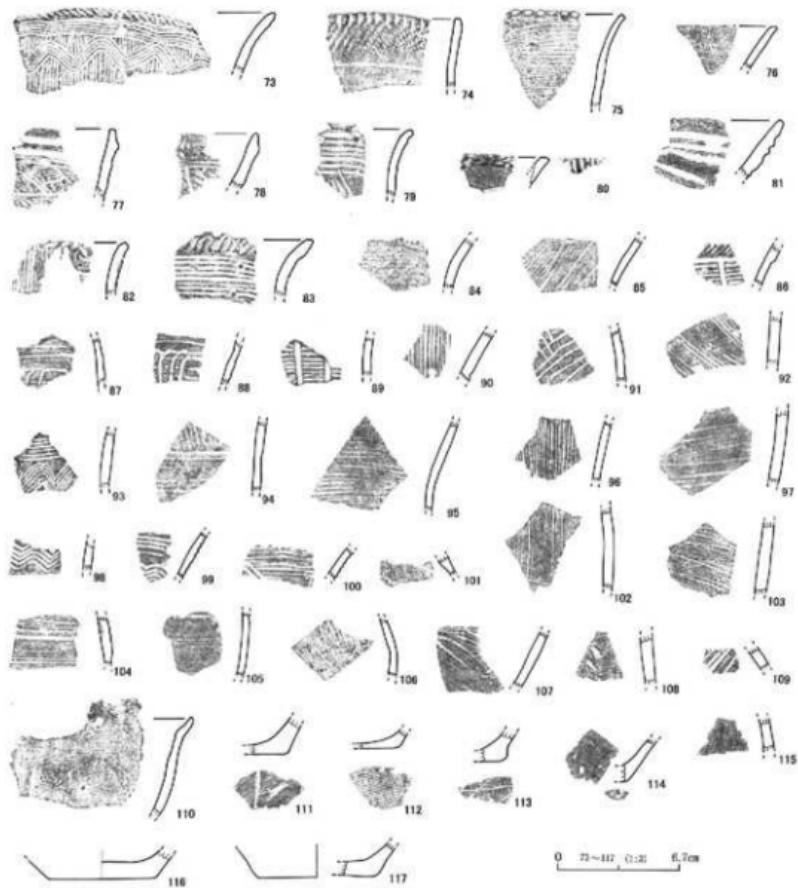
出土土器の特徴はいずれも細片であり土器全体を把握できるものはなかったが、その特徴から壺と甕に一応分類した。壺は口縁部と頸部と肩部がある。口縁部は逆「ハ」の字に聞くタイプのものが多く、縄文を地紋にして沈線による山形の区画を施すものがある。頸部や肩部の施文は地紋に縄文を施すものと条痕を施すものがあり、横方向の沈線で区画し、区画内に指突を施すものがある。また24.43のように円形の貼付文を施し貼付文内に縄文や指突を施すものもある。甕は柳条工具による横線文や波状文を施すもの、条痕文を施すものがある。口唇部は刻みを施すものが多い。底部に関しては壺



第18図 弥生時代土器片出土位置



第19図 新石器時代土器片実測図(1)



第204図 弥生時代土器片実測図(2)

か複か判断に苦しむが、底部には113の木葉痕や112の布痕等が観察できた。

本遺跡より出土したこれら土器群の位置付けであるが、その特徴より弥生時代中期中葉、境窓平行段階と考えられる。佐久平においては弥生前期後半として佐久市下信濃石遺跡、東五里田遺跡、仲田遺跡がそれぞれ調査され、また弥生中期初頭～前葉として佐久穂町館遺跡、中原遺跡、佐久市月夜平遺跡が知られている。今回の発見は佐久平においてこれら各時期の遺跡と中期後半栗林期の遺跡を時間的につなぐ資料であり、非常に貴重な発見と考えられる。

No.	器種	部位	器高	文様		出土位置
1	金	口縁	3	口唇形・施文、L R 錄文(横)→沈綱文(山形文)→横沈綱		H11-IV区1層
2	金	口縁	1.3	口唇部斜突・横条痕		H11-II区2層
3	金	口縁	1.7	口唇部押捺、L R 錄文(横位)→沈綱文(山形文)		H6
4	金	口縁	1.6	R L 錄文・横条痕		H11-I区2層
5	金	口縁	1.4	R L 錄文(横)→沈綱文(三角形)		7-14
6	金	口縁	1.4	口唇部刻目・横條文		H5-I区
7	金	口縁	1.9	L R 錄文(横)		I13
8	金	口縁	1.3	L R 錄文(横)→L R 錄文、L R 錄文(横)		D3
9	金	口縁	2.3	平行沈綱→L R 錄文(横位)?		P324
10	金	口縁	1.4	施綱文→横沈綱文		F1-P6
11	金	口縁	1.4	R L 錄文(横)?		F4-P3
12	金	口縁	1.1	L R 錄文刻突・無文		P229
13	金	新添		横条痕(丁字状)→斜条痕・縱条痕		† 10
14	金	頸部		縱状沈綱文(横)・突崩→連続刻突文(ヘラ状具)		H11-II区
15	金	頸部		L R 錄文(横)		F1-P6
16	金	頸部		機平行沈綱文・連綴刻突文→L R 錄文(横)?		3-9
17	金	頸部		L R 錄文(横)・施綱文(通弘?)		H5-IV区・刮
18	金	頸部		平行沈綱文→橫綱文→L R 錄文(横)		H11-I区・刮
19	金	頸部		沈綱文→L R 錄文(横)		H5-II区
20	金	肩部		沈綱文→L R 錄文		H5
21	金	肩部		平行沈綱文→L R 錄文		H9-好?
22	金	頸部		赤影貼付文→平行沈綱→L R 錄文		P373
23	金	頸部		L R 錄文→沈綱文(平行・逆折)		H11-IV区2層
24	金	頸部		沈綱文・円形貼付文		H11-IV区2層
25	金	頸部		R L 錄文・同心円沈綱文		H9-好?
26	金	頸部		L R 錄文?・施綱文		M1-II区
27	金	頸部		横条痕・L R 錄文		P127
28	金	肩部		横沈綱文・施綱文		F4-P4
29	金	肩部		綱文→同心円沈綱文		I13-49
30	金	頸部		羽状条痕・横条痕		F1-P6
31	金	頸部		羽状柔痕		P442
32	金	肩部		同心圓沈綱文?		P61
33	金	肩部		綱文→沈綱文		P521
34	金	頸部		三角形逆葉沈綱・刺突光痕		F1-P1
35	金	頸部		R L 錄文(横)→沈綱文		†-12
36	金	頸部		沈綱文(重山形文・菱形文)→R L 錄文		H11-III区・2層
37	金	肩部		波状文		試掘
38	金	肩部		沈綱文・橫綱文→L R 錄文		H5-II区
39	金	肩部		四角形沈綱文→綱文		†-13
40	金	肩部		赤影波狀沈綱?・被狀文・円形沈綱に短綱文		H11-III区・2層
41	金	頸部		沈綱文(重山形文)→R L 錄文(横)		H11-III区・刮
42	金	頸部		綱文・横条痕		H11-IV区1層
43	金	肩部		円状沈綱文→L R 錄文充填?		H9-I区
44	金	頸部		波状文		†-12
45	金	頸部		沈綱文→L R 錄文→付加文(淮純刻突文一段)		D7
46	金	頸部		縱条痕→三角形逆葉沈綱		P72
47	金	頸部		沈綱文(縫)		H11-III区2層
48	金	頸部		沈綱文→R L 錄文?		H4-I区
49	金	頸部		横綱文・L R 錄文・波状文?		P157
50	金	肩部		円形沈綱→刺突光痕		H11-II区・刮
51	金	肩部		L R 錄文→付加文(速純刺突)		F1-P9
52	金	頸部		縱条痕→山形沈綱		H11-IV区・2層
53	金	頸部		L R 錄文→沈綱		H7-II区
54	金	頸部		円形貼付文・綱文→沈綱文		H5-II区
55	金	肩部		横綱文・縱綱文		F1-P11
56	金	肩部		横条痕		H8
57	金	口縁		口縫部刻目・平行沈綱文		F1-P8
58	金	口縁		口縫部施文・L R 錄文		F1-P6

第1表 弥生時代土器片観察表(1)

59	壹	胸部	同心円?沈縞文・連続斜突文(弧状)→縞文	H11 - I区・2層
60	壹	胸部	沈縞文LR	H11 - I区
61	壹	頭部	沈縞文・縞文	H8 - P2
62	壹	肩部	横縞文	検出
63	壹	胸部	L.R縞文?・沈縞文・横縞文	H11 - II区・2層
64	壹	頭部	斜条痕	↑-12
65	壹	肩部	円形沈縞文・横条痕	H11 - II区・1層
66	壹	胸部	弧状?沈縞文・縞文	H7 - II区
67	壹	頭部	斜条痕	H5
68	壹	頭部	綴沈縞?	D7
69	壹	胸部	横条痕	M1 - II区
70	壹	頭部	沈縞文・横条痕	H11 - IV区
71	壹	頭部	平行沈縞文	H5 - II区
72	壹	頭部	斜条痕	H5
73	壹	口縫	2.5 II階部側状孔による連続斜欠・横縞文・縞縞文→波状文	H11 - II区・2層
74	壹	II縫	2.7 L.R縞文(横)→口縫上端連続斜欠・沈縞	H11 - I区・2層
75	壹	口縫	3.9 II縫連続斜欠・横条痕	P331
76	壹	II縫	2 橫条痕?	H2 - III区
77	壹	II縫	3 口縫部縞文・突帯・沈縞・縞文→斜沈縞文	↑-14
78	壹	口縫	2.3 口縫縞文・突帯・沈縞・縞文→斜沈縞文	↑-15
79	壹	口縫	2.7 極沈縞文→斜沈縞文	H7 - II区
80	壹	II縫	1.1 外面：平行沈縞、内面：綴沈縞・斜欠	H6
81	壹	口縫	2.4 平行沈縞・弧状沈縞	P549
82	壹	II縫	2.3 口縫部斜欠(形状異?)・綴条痕	H9 - I区
83	壹	口縫	2.7 口縫部斜口・L.R縞文(横)・綴縞文	↑-15
84	壹	口縫	横条痕	H5
85	壹	口縫	斜条痕→横条痕	検出
86	壹	頭部	L.R縞(×横)・綴沈縞・横縞文→綴沈縞	H11 - II区
87	壹	頭部	平行斜縞・重四角沈縞・横矩縞	H5 - II区
88	壹	頭部	重四角沈縞・横矩縞	H9 - P6
89	壹	II縫	横縞文・綴沈縞	H6 - III区
90	壹	口縫	綴条痕・斜突	P90
91	壹	胸部	羽状沈縞文	H11 - II区・I層
92	壹	頭部	斜条痕?	F1 - P8
93	壹	口縫	横縞文・波状文	H5 - II区
94	壹	口縫	綴余横縞文・横条痕文	M1 - II区
95	壹	口縫	横条痕文	D44
96	壹	口縫	綴条痕文	H11 - I区・1層
97	壹	胸沿	斜条痕?	D7
98	壹	II縫	横縞文・波状文	H5
99	壹	口縫	横縞文・波状文	H11 - IV区・2層
100	壹	II縫	横木筋・波状文	J-9
101	壹	頭部	沈縞文	H7 - I区
102	壹	胸部	綴条痕?	H5 - I区
103	壹	胸部	横縞文	P477
104	壹	頭部	横条痕?	D25
105	壹	胸部	柔軟文	H11 - III区・1層
106	壹	胸部	斜条痕	↑-9
107	壹	頭部	斜条痕	F1 - P8
108	壹	胸部	縞文	P1 - P8
109	壹	頭部	斜条痕?	P373
110	壹	口縫	II縫部突起あり、無文	H9 - P7
111	壹	頭部	底部木柾痕	H4 - I区
112	壹	頭部	底部布仔痕	H11 - III区・1層
113	壹	底部	外面：斜条痕、底部：木柾痕	P159
114	壹	底部	底部布仔痕	↑-16
115	壹	胸下部	無文	F1 - P8
116	壹	底部	木柾压痕→ナゲ 茶彩あり	H11 - II区
117	壹	底部	ミガキ	H11 - III区・1層

第2表 孫生時代土器片概観表 (2)

3. 平安時代の住居址

今回の調査では17軒の住居址が調査された。集落域は試掘調査の結果から台地の南側にもひろがっている事が判明しており、調査区西側の台地中央部も含めて地形から推定すると全体では50軒以上の住居址の存在が予想された。住居址群は一部重複もみられる。H4.5.7.2号住居址は東西方向に直線的に並んだような状況で検出され、計画的な配置が予想できる。各住居址は出土土器から9世紀後半～10世紀後半の所産時期が考えられた。以下、各住居の調査所見について述べる。

(1) H 2号住居址 (第21図、写真図版二)

本住居址は調査区南より中央に位置する。覆土は自然堆積で、貼床は全体に硬質で特にカマド前面は顕著であった。カマドは北壁中央に造られており、煙道部は外に飛び出さないタイプである。両袖は残存していないかったが、構築材と考えられる礫が1点出土した。火床部は良く焼けており硬質化していた。カマド東脇に貯蔵穴と考えられる掘り込みが確認され、落ち込んだ状態で土器類が出土した。

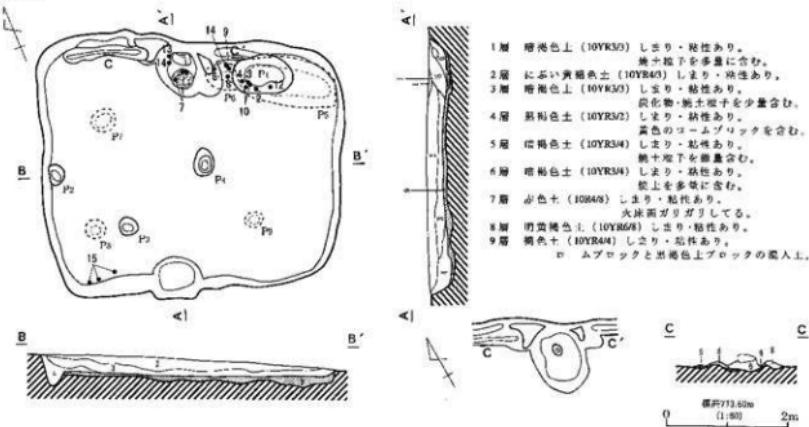
出土遺物は土師器壺で内面黒色処理されたものが多く、5と6には墨書が確認できるが判読不能である。また、5～10の内面は放射状あるいは十文字の幅広のミガキが施されている。甕は口縁部が「コ」の字になる武藏甕とロクロ甕が併存する。本址は9世紀後半に位置づけられる。

(2) H 3号住居址 (第23図、写真図版二)

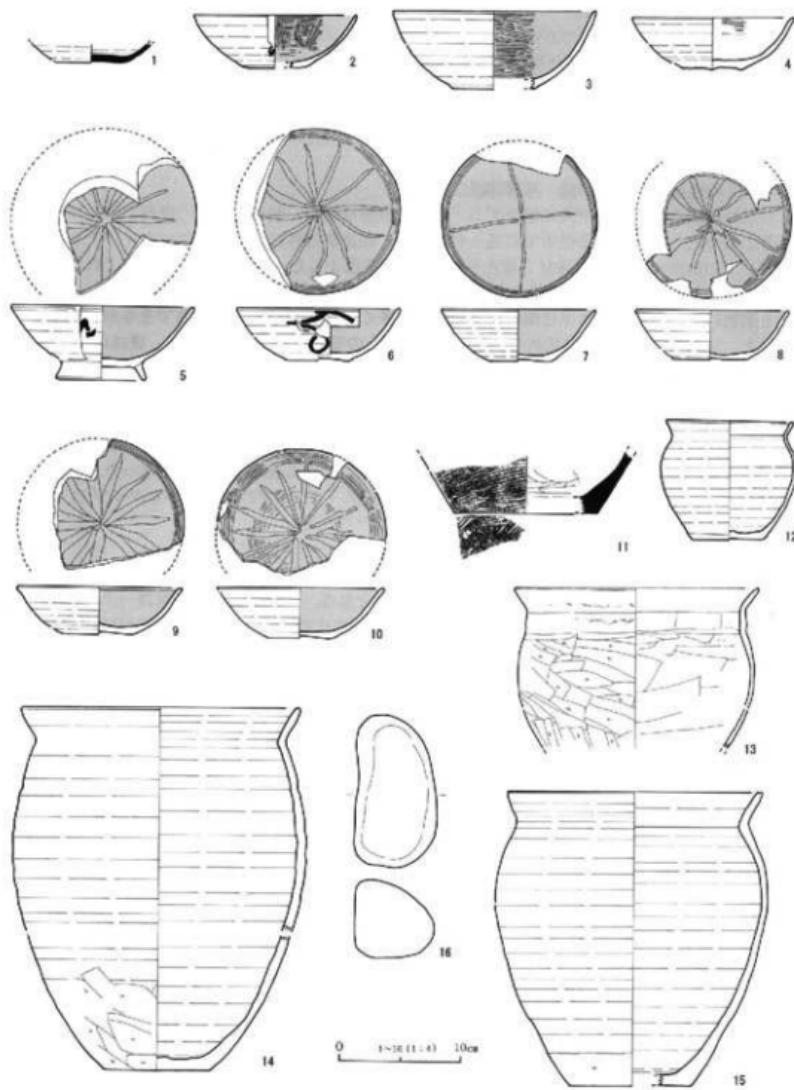
本址は調査区北側に位置し、北側半分が調査区域外となる。F 1号掘立柱建物址により一部削平されている。壁際に壁溝が巡り、床は地山を敲いたようないわゆる敲き床で硬質であった。出土遺物は少量で図示したものも覆土中のものである。6は口縁部が「く」の字に短く曲がるタイプで、甕というより鍋と呼ぶべき形態か。本址は10世紀前半に位置づけられる。

(3) H 4号住居址 (第23図、写真図版三)

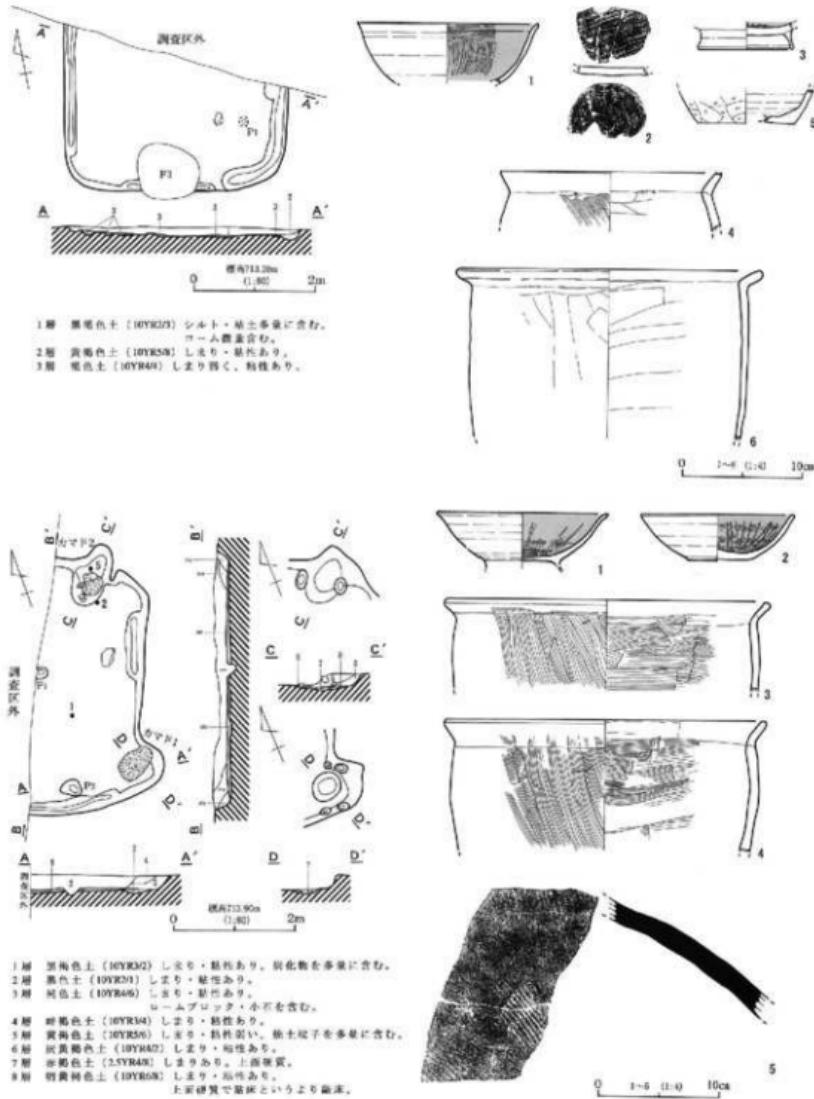
本址は調査区西側に位置し、西側半分が調査区域外となる。北壁東よりと南東コーナーにそれぞれカマドが検出された。南東側がNo.1カマド、北側がNo.2カマドである。いずれも袖部分は残存していないかったが、北のカマドは拳大の礫が散乱しており、袖部の構築材と考えられる。火床部は良く焼けていた。



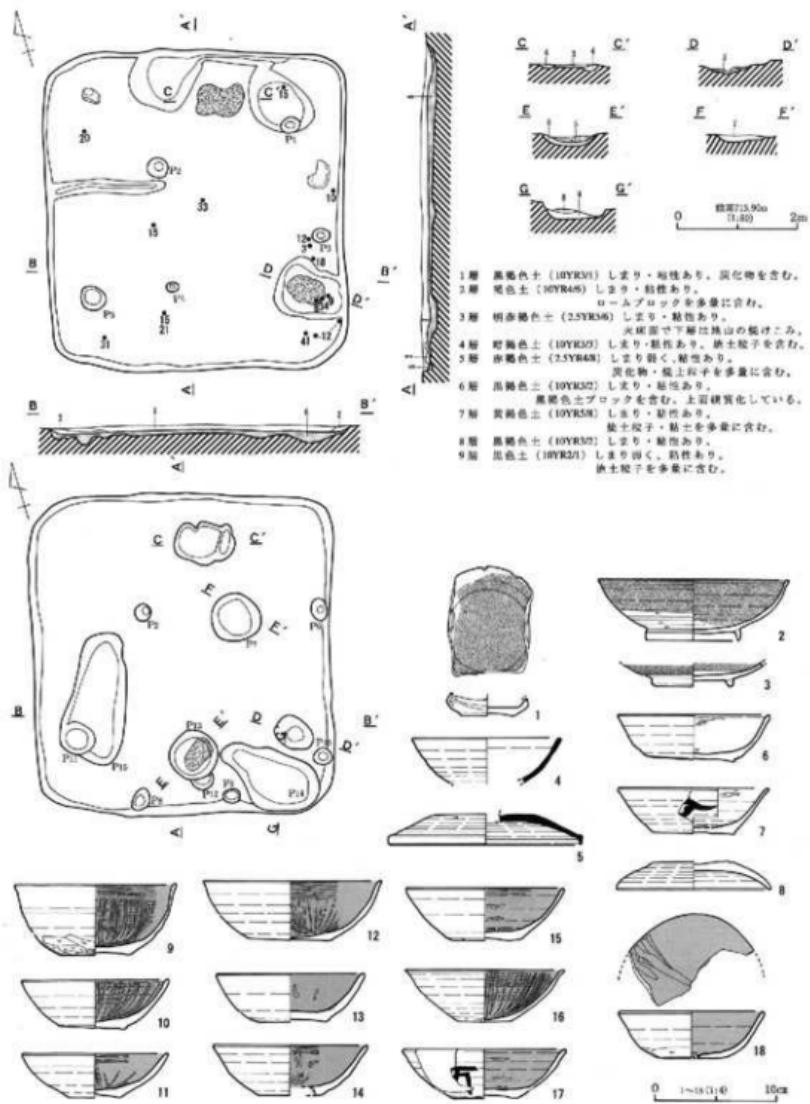
第21図 H2号住居址実測図



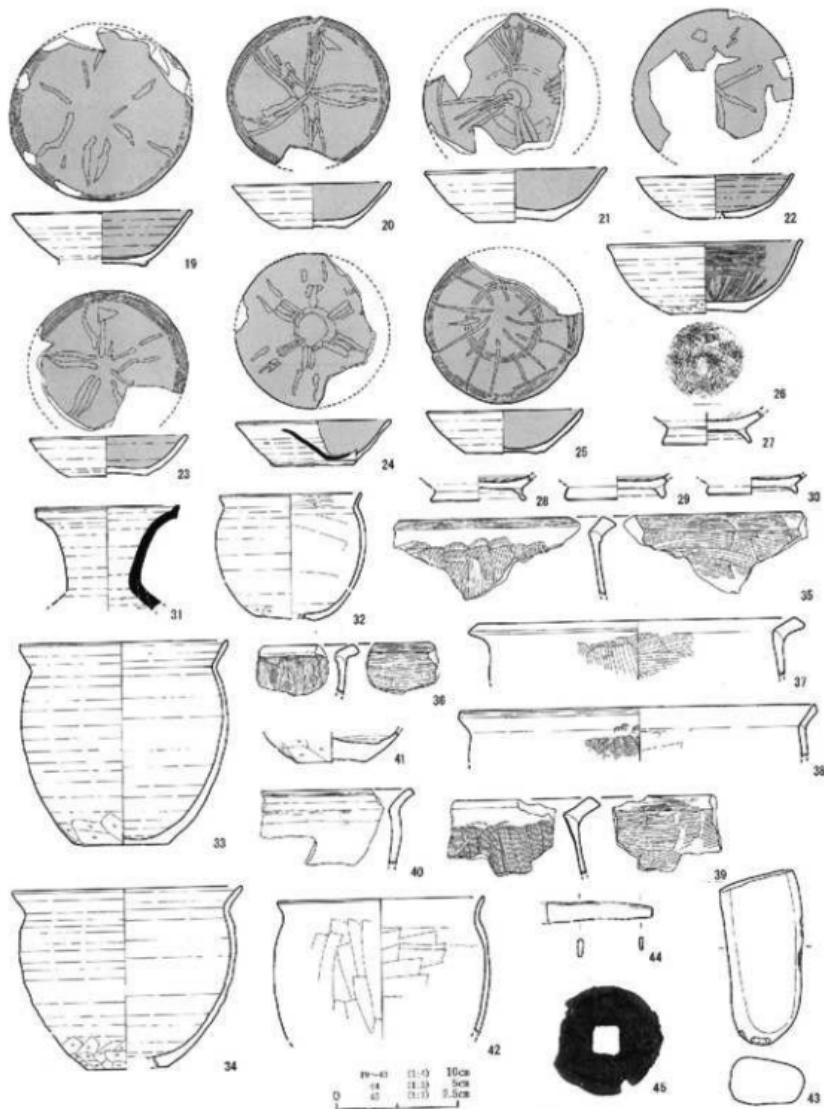
第22圖 H2號住宅址出土遺物素描圖



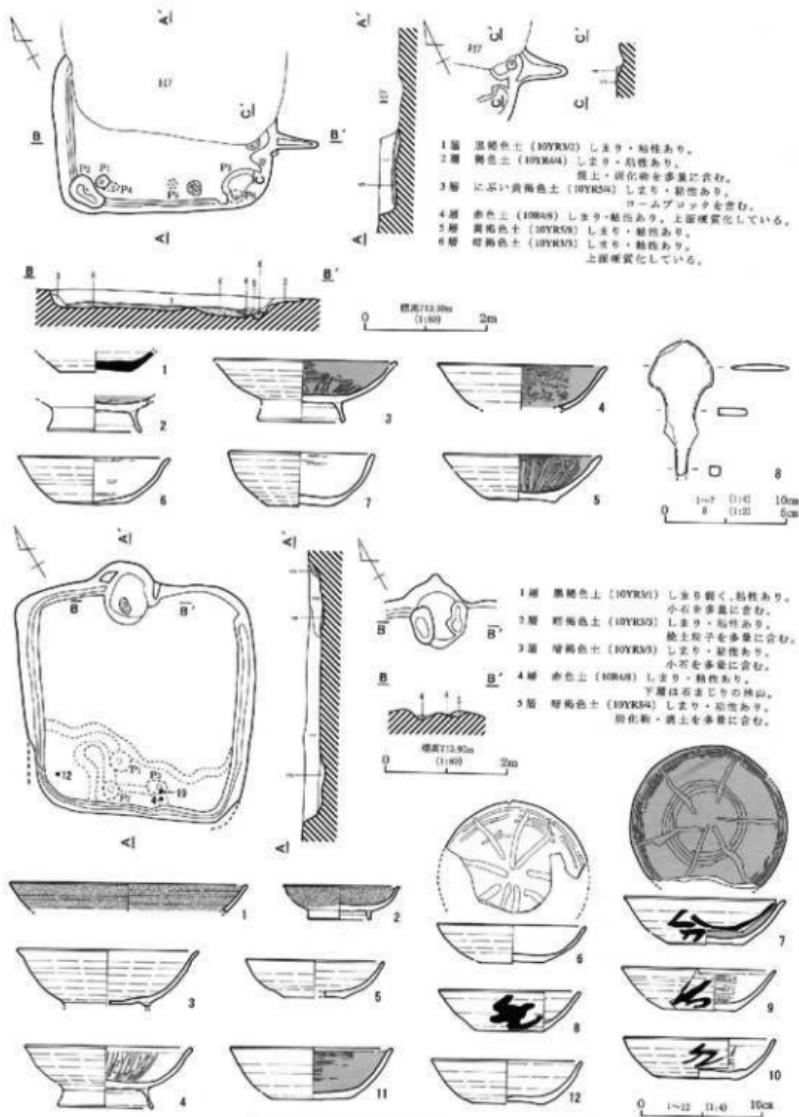
第23図 H3.H4号住居址及び出土遺物実測図



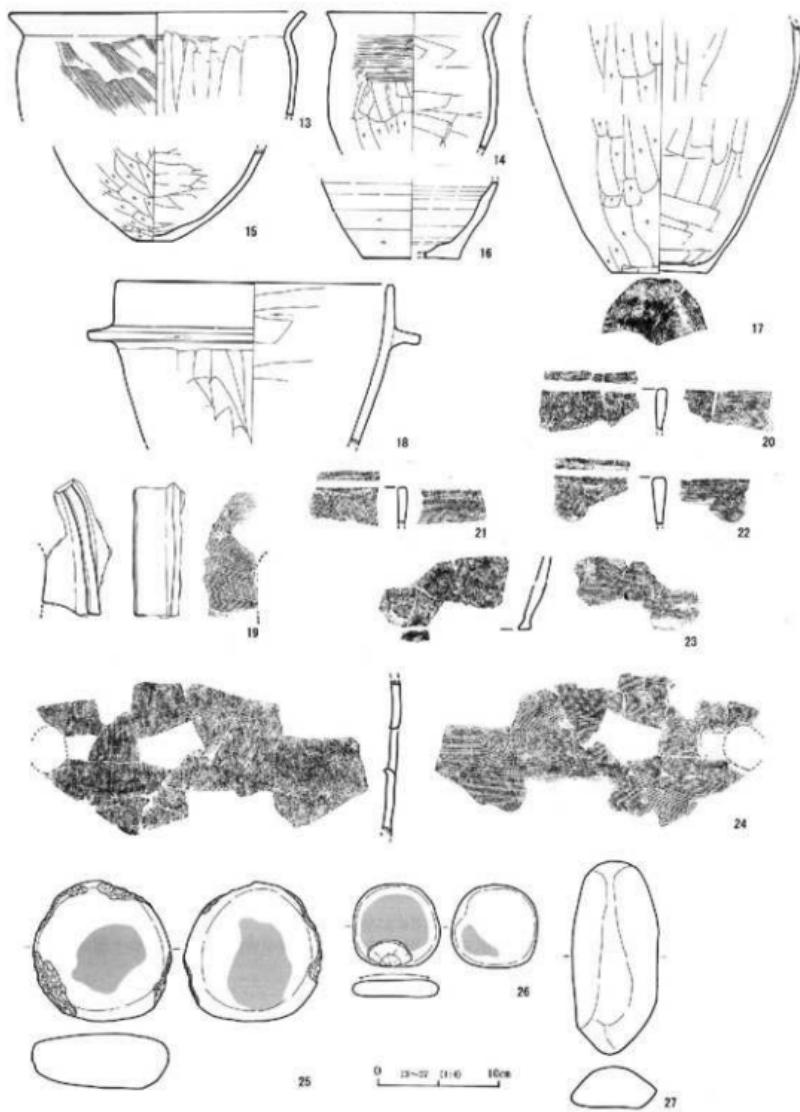
第24図 H5号住居址及び出土遺物実測図



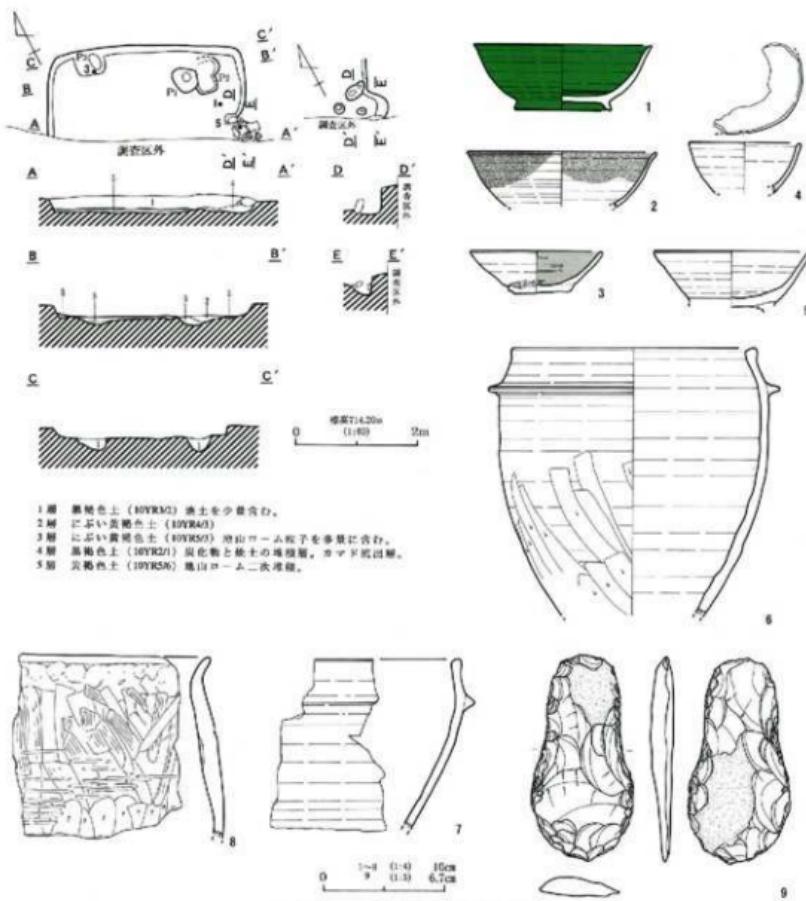
第25圖 H5号住居址出土遺物実測図



第26図 H6.H7号住居址及び出土遺物実測図



第27图 H7号住宅址出土遗物实测图

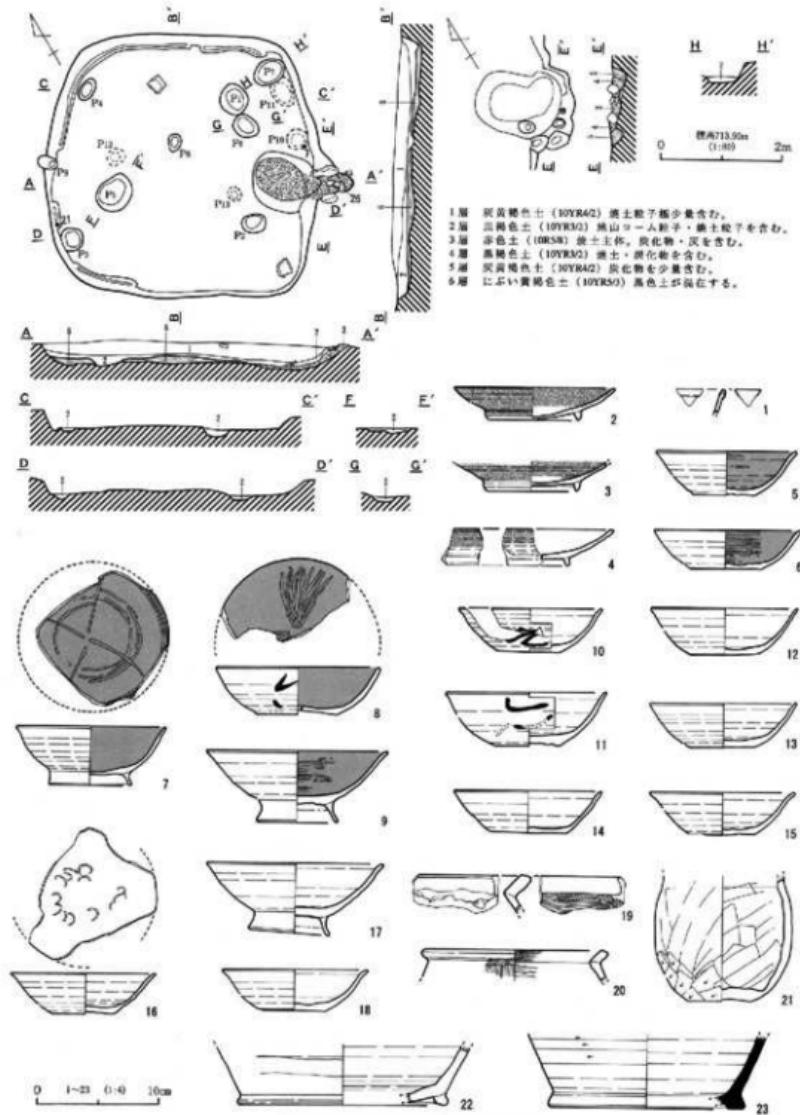


第28図 H8号住居址及び出土遺物実測図

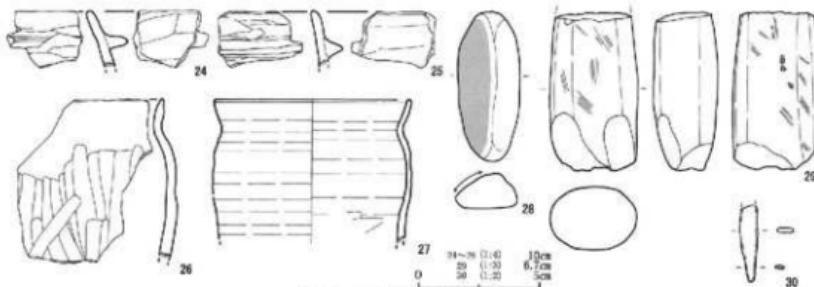
H4号住居址からの出土遺物はカマドから多く出土し、3と4はその特徴から甲変型土器の甕に似る。本址は10世紀前半に位置づけられる。

(4) H5号住居址 (第24図、写真図版三)

本址は調査区のほぼ中央西よりに位置する。今回調査された平安期の住居址の中では遺物の出土量が非常に多かった。カマドは火床部のみの残存であったが、H4号住居址と同じく北壁側と南東コーナー付近に検出された。火床部は良く焼けていた。床は全体に貼られていたが軟質であり、主柱穴も確定できなかった。



第29図 H9号住居址及び出土遺物実測図



第30図 H9号住居址出土物実測図

H5号住居址からの出土遺物は多く、特に土師器の内黒坏が主体を占める。7.17.24に墨書きがあり、17は「万」の可能性がある。1は灰釉陶器の耳皿である。8は皿とも考えたが口縁部の形態より蓋として今回は報告する。また、35.36.37.39は甲変型土器の厚口縁型蓋に似る。本址はこれらの出土遺物より10世紀前半に位置づけられる。

(5) H 6号住居址 (第26図、写真図版二)

本址はH7号住居址と重複関係にあり本址の方が古い。カマドは東壁にあり、煙道部が長く伸びるタイプのカマドである。袖等は確認されなかった。出土遺物は少なく、覆土中からの出土がほとんどであった。本址は10世紀の前半に位置づけられる。

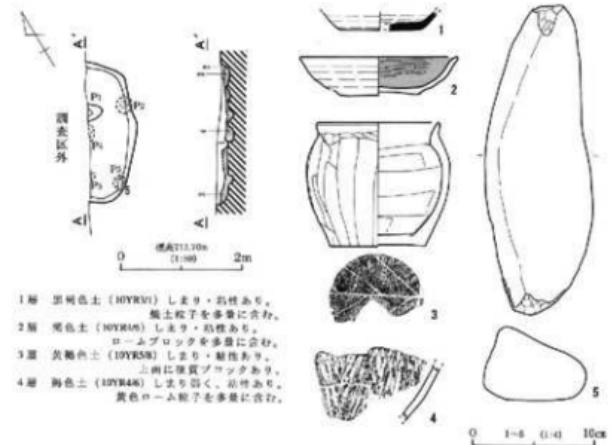
(6) H 7号住居址 (第26図、写真図版四)

本址は調査区中央部に位置し、H6号住居址と重複関係にある。カマドは北壁中央にあり、北壁の一部を除いて壁溝がめぐる。床は地山を蔽いたような床で、住居址中央部が硬質化していた。カマドの袖部は検出できず、小さな火床部が検出された。火床部は表面があまり硬質化しておらず使用頻度の低さが感じられた。ピットは掘り方時に3箇所が確認され、P1とP2は入り口ピットと考えられる。掘り方は南側が一段低く堀り込まれている。

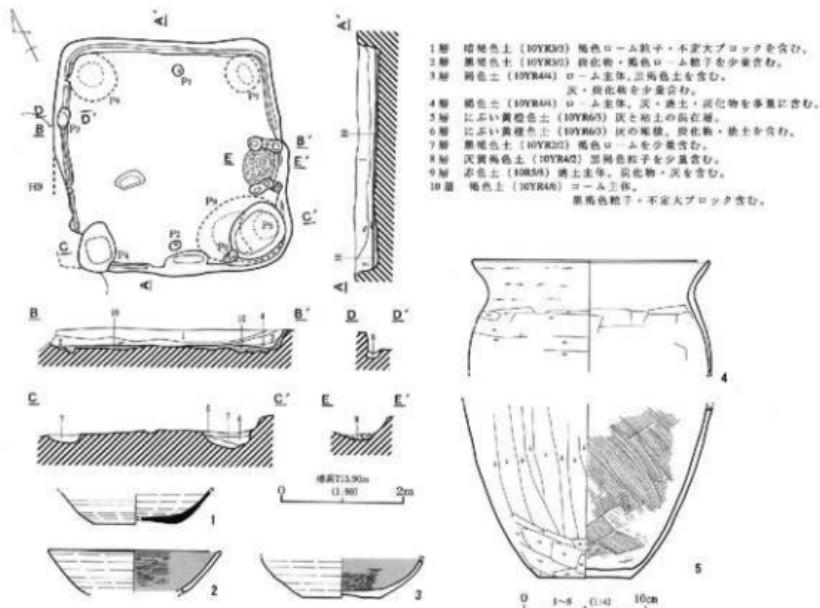
出土遺物は比較的多く、覆土中からの出土であった。1と2は灰釉陶器、3~12は土師器坏類である。7~10は外面に墨書きが確認できるが、いずれも判読は不明である。13~17は土師器蓋である。13は甲変型土器蓋に似るが内面にハケ目成形がない。18は羽釜である。胎土は良く精練され、色調は明るい橙色を呈する。19~24は竈形土器の破片である。この他に接合関係が見いだせない破片が6片ある。胎土は赤色に近く金色雲母を含む。19は焚口部で底は粘土を貼付している。20~22は掛け口部の破片で、口唇部は軽い面取りが行われている。23は基部破片と考えられ、基底部が重みのかかったように変形している。24は胴部の破片で焼成前の穿孔がある。いずれの破片も外面縦方向、内面横方向の細かなハケ目によるナデが施されている。顯著な煤の付着は見受けられない。これらの竈形土器はその特徴から甲変型土器の範疇に含まれると考えられる。本址はこれらの出土土器から10世紀後半に位置づけられる。

(7) H 8号住居址 (第28図、写真図版四)

本址は調査区の南端に位置し、南側半分が調査区域外となる。カマドは東壁に造られており袖は糠を使用している。出土遺物はあまり多くない。1は綠釉陶器碗で、胎土から東濃系と考えられる。4は土師器坏であるが意図的なゆがみが指向されている。6と7は羽釜で、良く焼成されており色調が須恵器質となる部分もある。本址はこれらの出土遺物より10世紀後半に位置づけられる。



- 1層 黒褐色土 (10YR5/2) しまり・粘性あり。
塊状粒子を多量に含む。
- 2層 黄褐色土 (10YR4/6) しまり・粘性あり。
ロームブロックを多量に含む。
- 3層 黄褐色土 (10YR5/2) しまり・粘性あり。
上面に優質フックがあり。
- 4層 海色土 (10YR4/6) しまり弱く・粘性あり。
黄色ローム粒子を多量に含む。



第31図 H110.H111号住居址及び出土遺物実測図

(8) H 9号住居址 (第29図、写真図版五)

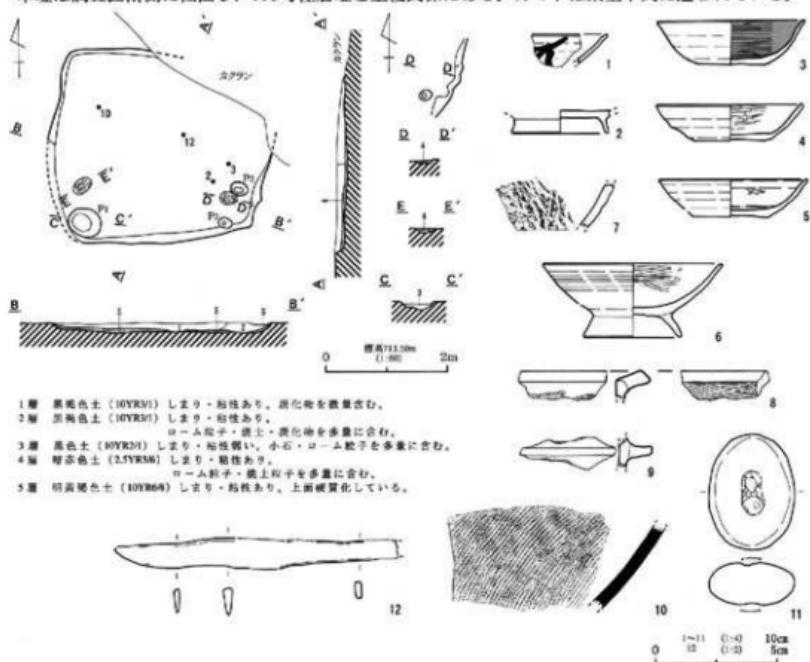
本址は調査区南側に位置する。H11号住居址と重複関係にあり本址の方が新しい。カマドは東壁中央に造られている。ピットは全体で13箇所検出され、P1~4が主柱穴、P9が入り口施設と考えられる。床面は住居中央を中心には硬質であった。壁溝は北壁と南壁の一部にめぐる。カマドは煙道部が住居址外にやや飛び出るタイプで、煙道の部分には石を構築材として使用していた。火床部は良く焼けて硬質化していた。本址からの出土遺物は多く、主に覆土中とカマドから出土した。1は白磁碗の口縁部で口唇部が玉縁状を呈する。I・II類と考えられる。2~4は灰釉陶器皿である。5~18は土師器の壺で8と10.11に墨書が確認できるが判読不明。19.20は小型の土師器壺口縁部であるが、形態と調整が甲斐型土器に似る。22は灰釉陶器壺、23は須恵器壺のそれぞれ底部である。29は磨製石斧の欠損品と考えられる。本址はこれらの出土遺物より10世紀前半に位置づけられる。

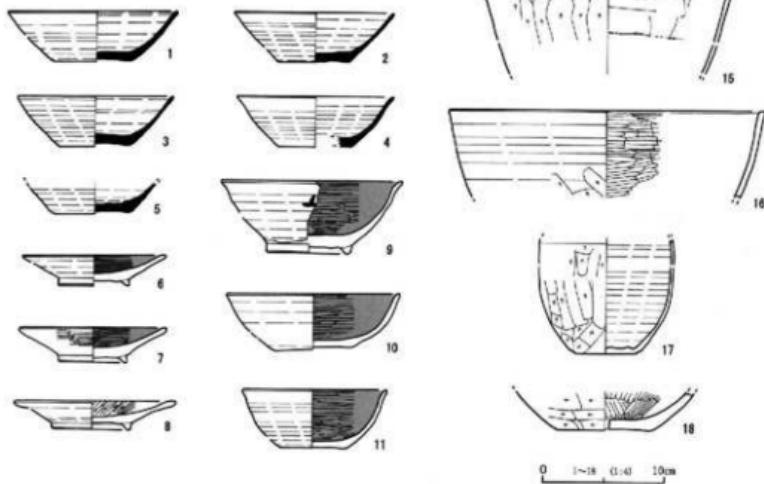
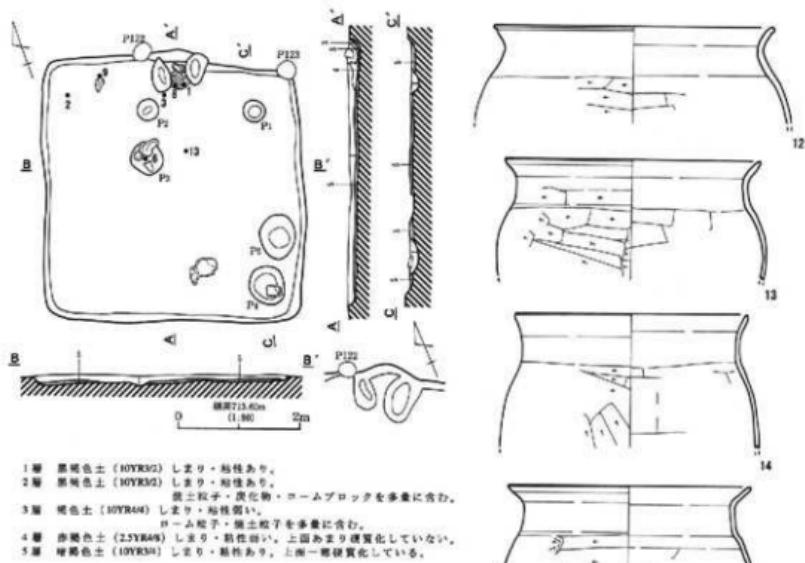
(9) H 10号住居址 (第31図、写真図版四)

本址は調査区の西端に位置する。床面が存在したため住居址としたが規模は非常に小さい。遺物はいずれも覆土中からの出土であり、4は土師器壺と考えられるが須恵器の蔽き技法が観察できる。本址はこれらの遺物より10世紀代に位置づけられると考える。

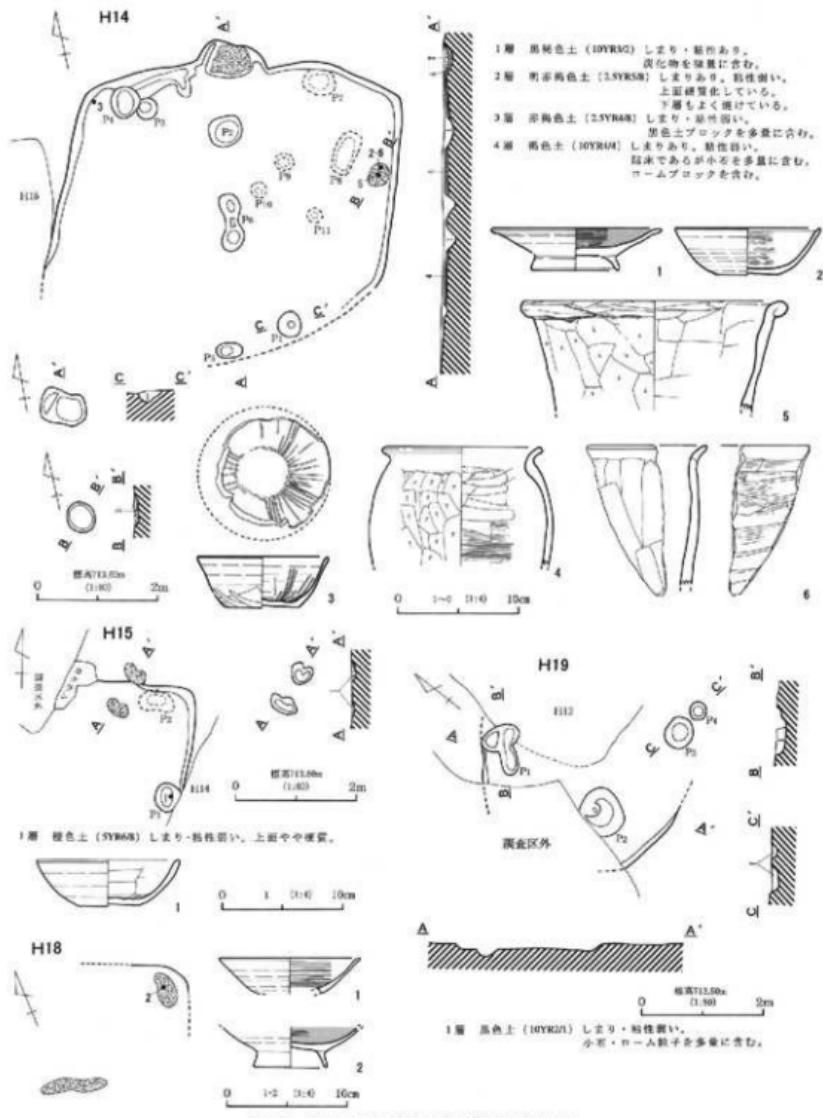
(10) H 11号住居址 (第31図、写真図版五)

本址は調査区南側に位置し、H9号住居址と重複関係にある。カマドは東壁中央に造られている。





第33図 H13号住居址及び出土遺物実測図



第34図 H14.15.18.19号住居址及び出土遺物実測図

H11号住居址の壁溝はほぼ全周する。また住居四隅に土坑状の掘り込みが確認された。本址からの出土遺物は少なかった。よって所産時期も不明である。

(11) H12号住居址 (第32図、写真図版六)

本址は調査区の北西隅に位置する。焼土は2箇所床面上に確認されたがカマドは不明である。出土遺物は12点図示できた。本址は10世紀前半に位置づけられる。

(12) H13号住居址 (第33図、写真図版五)

本址は調査区の北寄りに位置し、H16号住居址と重複関係にあり本址の方が新しい。北壁中央にカマドがあり、火床部のみ残存していた。床は貼床が施されていたが軟質で床面上に大型の礫が散在していた。出土遺物は比較的多く須恵器壺と土師器壺が共に出土した。土師器壺は武藏窯のみであった。本址はこれらの出土遺物より9世紀後半に位置づけられる。

(13) H14号住居址 (第34図、写真図版五)

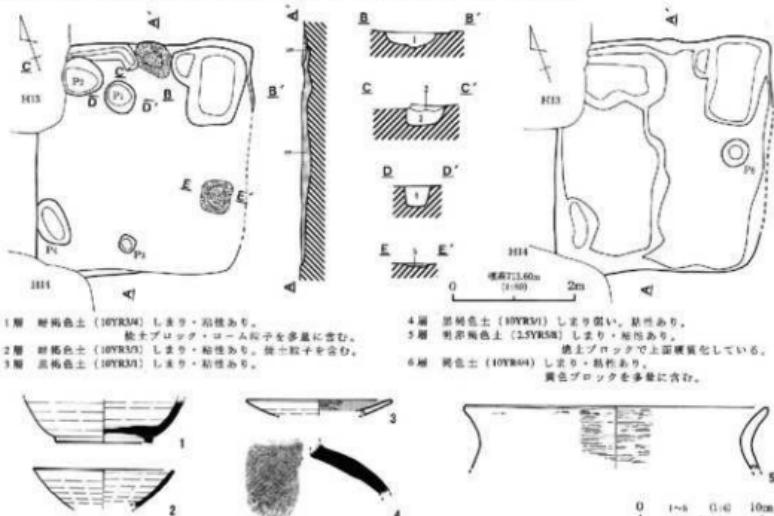
本址は調査区中央西よりに位置する。北壁と東壁にそれぞれ火床部があり、壁ラインも不確定のため或いは2軒が重複しているとも考えられる。出土遺物は少なく、3は甲斐型壺に形態がよく似る。

(14) H16号住居址 (第35図、写真図版六)

本址は調査区の中央北寄りに位置する。北壁と東壁にカマドの痕跡と考えられる火床部が確認された。出土遺物は少ないが、本址は9世紀後半に位置づけられる。

(15) H15.18.19号住居址 (第34図、写真図版六)

これら3軒の住居址は残存状況が良くなく、住居址の詳細は不明である。



第35図 H16号住居址及び出土遺物実測図

(494) (495)

第3水 火 燃 焼 穴 柱 柱 通 過	高橋名 称	出位置	形狀	盤長	地盤			地盤 高さ (m)	地盤 構成 物	地盤 性質 (m)	地盤 改良 方法	地盤 改良 率	地盤 (YPSM)			地穴 (m)	備考・特徴
					堅土 層	軟弱 層	砂 層						長さ 幅	地盤 改良 率	改良 率		
H.1	7-13-14 火	440 455	西10.4 東27.7	42	1.8	22~50	3~22	23.2	N 16° W	中砂より 粘土	改良 率	10	N 70° E	0.44~1.19	0.08~1.15 0.02~0.15	P14~20より火 燃文書記載	
H.2	7-12-13 火	4476 4412	西33.5 東33.18	33	1.8	17~23	5~7	17.3	N 70° W	北・中央 砂	-	-	12	N 70° E	0.70~4.42 0.28~2.22	P5~9より火 燃文書記載	
H.3	7-8 火	-	西 東	26.0 16.0	9	9	17~28	1~9	(0.7)	N 17° W	-	-	15	N 70° W	0.05~2.15 0.02~0.11	人11.2 AD 0.05~1.11	
H.4	7-9-10 火	北132 南135	西 東	29.6 31.5	1.8	18~35	1~8	0.1	N 9° E	(1.0)E 改良 率	61	-	7	N 60° W	0.20~15 0.02~12	P3~12より火 燃文書記載	
H.5	7-10-11 火	4476 南447	西14.4 東14.4	13	1.9	18~25	3~8	23.4	N 18° E	(1.0) (2.0) 改良 率	53	-	6	N 35° W	0.35~1.3 0.02~1.0	内10.4 火燃文書記載	
H.6	7-12 火	4560 4536	西27.7 東33.6	27	7	17~32	2~5	(3.8)	N 61° W	東	61	4	6	N 22° E	0.39~1.7 0.02~1.0	P4~7より火 燃文書記載	
H.7	7-11-12 火	北361 南361	西26.5 東31.8	25	8	12~41	1~9	12.3	N 25° E	北・中央 砂	68	8	58	W	0.18~17 0.02~1.3	10.8 火燃文書記載	
H.8	7-13-14 火	北360 南360	西26.5 東31.8	26	6	-	-	(4.4)	N 61° W	東	65	11	8	N 31° E	0.46~12 0.02~1.7	P1~3より火 燃文書記載	
H.9	7-11-12 火	北330 南330	西30.0 東33.6	31	16	15~33	1~3	15.3	N 59° W	東・中央 砂	78	-	7~16	K 67° W	0.28~14 0.02~1.0	10.8 火燃文書記載	
H.10	7-7-8 火	北052 南052	西 西	8	10	-	-	(1.2)	-	-	-	40	-	N 65° W	0.23~15 0.02~1.0	P10~13より火 燃文書記載	
H.11	7-12-13 火	北350 南350	西35.0 東35.0	35	6	13~40	1~13	(2.1)	N 25° E	東・中央 砂	-	-	10	N 65° W	0.17~21 0.02~1.2	10.8 火燃文書記載	
H.12	7-4-5 火	北36 南36	西36 東36	10	11	-	-	(8.6)	N 89° W	地盤コーナー 改良	-	-	61	W	0.05~7.18 0.02~5.6	西の1.7 m 10.8 火燃文書記載	
H.13	7-6-7 火	北460 南460	西36.0 東36.0	16	3	-	-	16.5	N 18° E	北・中央 砂	-	-	4	N 20° E	0.06~17 0.02~18	P12~13より火 燃文書記載	
H.14	7-7-8-9 火	北510 南510	西50.7 東49.9	10	1.5	24~28	3~7	(1.9)	N 22° E	北	-	-	7	N 15° E	0.54~39 0.02~1.19	P7~11より火 燃文書記載	
H.15	7-7-8 火	北115.0 南115.0	西 西	6	1.1	-	-	-	改良 率	改良 率	50×28	4	-	0.48~1.0 0.02~1.3	0.48~21 0.02~1.3	P11.3~14より火 燃文書記載	
H.16	7-7-8 火	北254.0 南254.0	西254.0 東254.0	10	1.5	24~28	3~7	(1.9)	N 22° E	北	-	-	7	N 15° E	0.54~39 0.02~1.19	P7~11より火 燃文書記載	
H.17	8-9-10 火	-	火 燃	23.8 23.8	14	9	-	(8.1)	N 49° W	改良 率	-	10	N 15° E	0.35~15 0.02~1.5	P14~15より火 燃文書記載		
H.18	8-12 火	-	北 火	-	-	-	-	-	改良 率	改良 率	50×34	2	-	S	0.20~8	0.02~1.2	P11.2~12より火 燃文書記載
H.19	8-5 火	-	北 火	10	6	-	-	-	改良 率	改良 率	10.0×23	3	-	0.04~22 0.02~1.8	10.8 火燃文書記載		
															0.02~14		

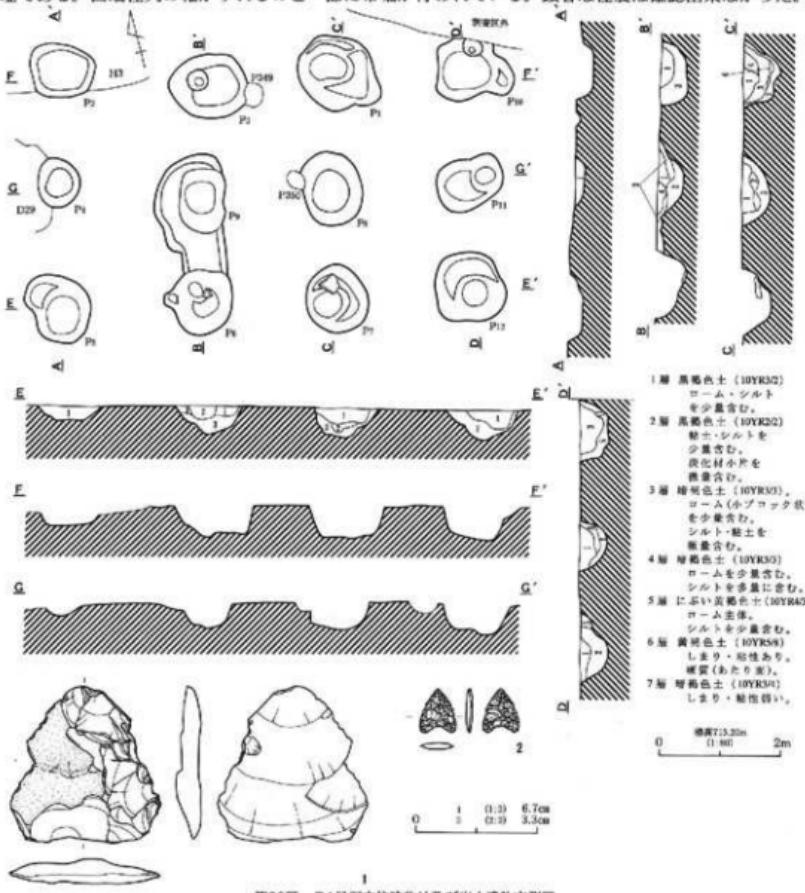
- 38 -

4. 挖立柱建物址

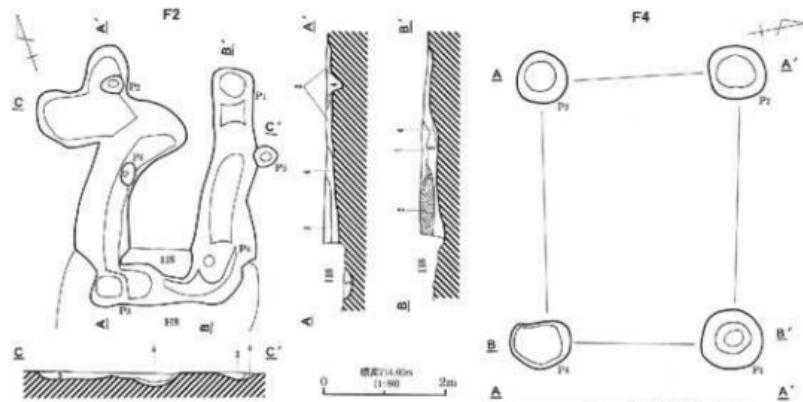
今回の調査では掘立柱建物址が4棟検出された。形態は3種あり、まず1種としてF1号掘立柱建物址が示す総柱式掘立柱建物址、次に2種がF3.4号掘立柱建物址のような側柱式掘立柱建物址、そして3種が柱穴間が布堀りで繋がったような掘立柱建物址がF2号掘立柱建物址とD43.44.46.49号土坑として報告した一画も掘立柱建物址の可能性がある。以下各掘立柱建物址について概略を記す。

(1) F1号掘立柱建物址 (第36図、写真図版七)

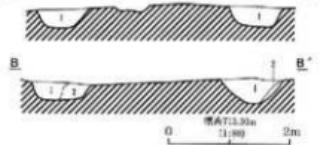
本址は調査区の北端に位置する。ほぼ全体が調査され東西方向に桁行をもつ2間×3間の掘立柱建物址である。西端柱列の軸がずれるとの一部に布堀が行われている。顯著な柱痕は確認出来なかつた。



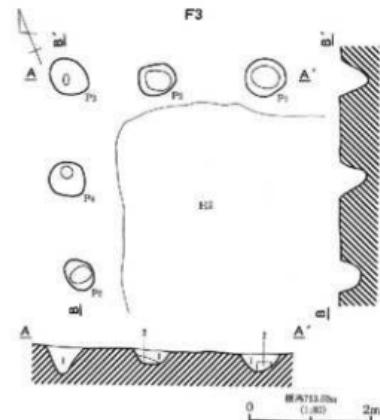
第36図 F1号掘立柱建物址及び出土遺物実測図



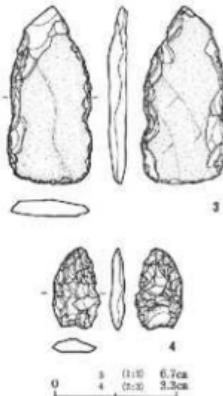
- 1層 黒褐色土 (10YR3/2) 硅土粒子・炭化物を少量含む。
- 2層 布色土 (10B4/8) 硅土を多量に含む。
- 3層 反黄褐色土 (10YR4/2) 黄色のローム粒子を少量含む。
- 4層 黑褐色土 (10YR3/2) 炭化物を少量含む。
- 5層 に赤い黄褐色土 (10YR4/4) 泥炭ローム粒子を多量に含む。



- 1層 黑褐色土 (10YR3/2) しまり・粘性あり。小石・炭化物を多量に含む。
- 2層 布色土 (10YR4/4) しまり・粘性あり。黄色ブロック・小石を含む。



- 1層 黑褐色土 (10YR3/2) しまり・粘性あり。小石を多量に含む。
- 2層 布色土 (10YR4/6) しまり弱く・粘性あり。ロームブロックを多量に含む。



第37図 F2.3.4号掘立柱建物址及び出土遺物実測図

また、西端の柱列は他の物に比べて深さが浅く、或いは西側の片側底の可能性もある。

F1号掘立柱建物址からの出土遺物は少なく、図示した石器類の他にはP1から須恵器坏片、P5からいわゆる武藏窯の土師器表片、P7から土師器表片、P8から内面黒色処理の土師器坏片がそれぞれ出土している。よって本址の時期は10世紀前半に位置づけられるH3号住居址よりは新しいことから平安時代後半が想定できる。

(2) F2号掘立柱建物址 (第37図、写真図版七)

本址は調査区の南側に位置する。H8号住居址と重複関係にあり、本址の方が古い。形態は「コ」の字の様な掘り込みにピットを配するような掘立柱建物址であり規則性は感じられない。覆土中に焼土層を持つのが特徴で炭化物も少量含まれる。顯著な柱痕は確認出来なかった。

出土遺物は図示した石器2点と小片であるが縄文中期の土器片20点程が出土し、古代の上器片は混ざらなかった。これらのことから本址の帰属時期は縄文中期の可能性を指摘できる。また、先に述べたようにD43.44.46.49号土坑も各土坑として調査したが、平面形態からはF2号掘立柱建物址に近似し、同じように縄文時代の掘立柱建物址とすべき遺構とも考えられる。

(3) F3号掘立柱建物址 (第37図、写真図版七)

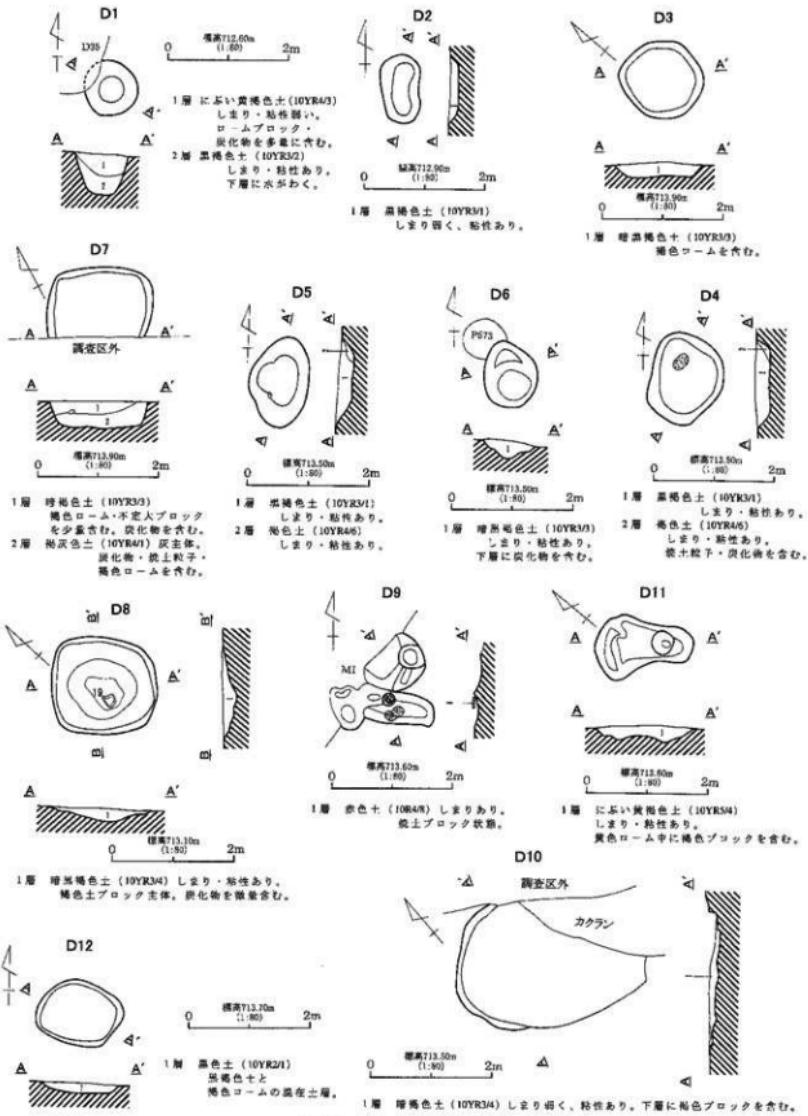
本址は調査区中央南側で検出された。H2号住居址と重複関係にあり本址の方が古い。残存状況は北辺と西辺の柱列のみである。出土遺物はP2より土師器坏片、P4から縄文中期土器片がそれぞれ出土したことである。これらのことから本遺構の帰属時期は不明である。

(4) F4号掘立柱建物址 (第37図、写真図版七)

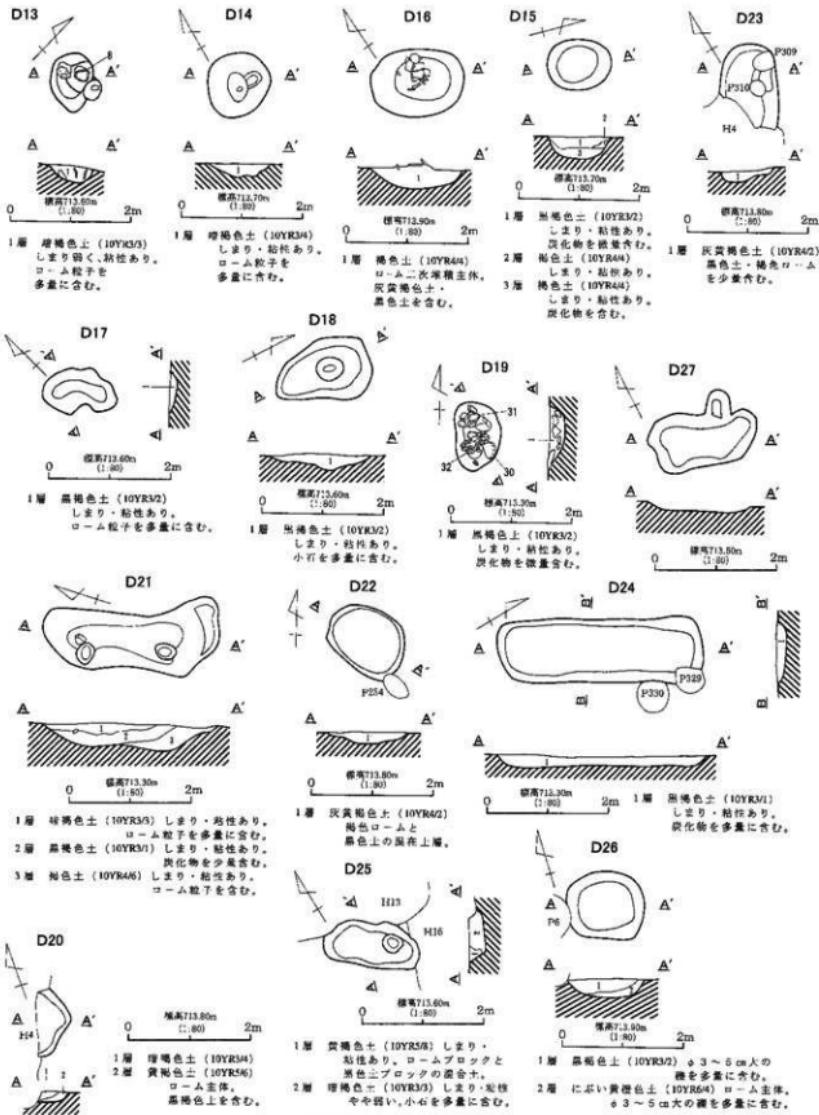
本址は調査区北より中央で検出された。規模は1間×1間の側柱式掘立柱建物址と考えられ、柱穴はほぼ円形である。柱痕は確認出来なかった。出土遺物はP2から縄文土器片と上器片、P3より縄文土器片がそれぞれ出土している。よってこれらのことから本遺構の帰属時期は不明である。(後序)(後半)

遺構名	検出位置	形態	面積 (m ²)	桁行長 (m)	梁行長 (m)	面積 (m)	方位	桁行横幅寸法 (cm)	梁行横幅寸法 (cm)	柱穴 (高×幅×深)	備考
F 1	9-8-9 9-8-9 9-8-9	長方形 複数	2×3 6.80 P5～P12 P3～P5	3.94 25.7 N:76°W				P1～P10 2.37	P1～P8 1.80	①147×120×69	P9～P6は壠立ち。
								P2～P1 2.12	P2～P9 1.90	②129×106×50	113-D29-P349-P350に
								P3～P2 2.22	P3～P4 1.86	③108×90×33	
								P4～P9 2.23	P4～P5 2.08	④89×70×17	
								P5～P6 2.24	P6～P7 1.95	⑤121×100×28	
								P6～P7 2.12	P9～P6 1.55	⑥115×108×55	
								P7～P12 2.44	P10～P11 1.76	⑦108×102×47	
								P8～P11 2.40	P11～P12 1.89	⑧125×97×47	
								P9～P8 2.21		⑨105×75×40	
										⑩133×102×57	
										⑪144×88×81	
										⑫113×112×49	
F 2	Y 12-13 Y 12-13	?	1×2 個柱	3.30 P2～P3 P1～P2	1.98 5.6 N:21°E			P1～P5 1.81	P1～P2 1.98	⑬70×58×8	全体に壠立ち。
								P2～P6 1.46	P3～P4 1.67	⑭34×28×22	11Rに切られる。
								P3～P4 1.62		⑮58×36×26	
								P6～P3 1.84		⑯68×60×15	
										⑰38×33×21	
										⑱98×23×22	
F 3	T-11-12 T-11-12	-	2×2 無柱	3.30 P1～P3 P3～P5	3.30 N:66°W			P1～P2 1.79	P3～P4 1.80	⑲65×62×31	H2に切られる。
								P2～P3 1.51	P4～P3 1.70	⑳60×53×24	
										㉑70×60×47	
										㉒60×54×46	
										㉓57×45×35	
F 4	3 8-9 4-7-B	長方形 1×1	4.38 P1～P2 P2～P3	3.25 14.0 N:79°W				P3～P4 4.33	P1～P4 3.18	㉔103×100×31	
										㉕94×87×37	
										㉖85×85×32	
										㉗100×80×32	

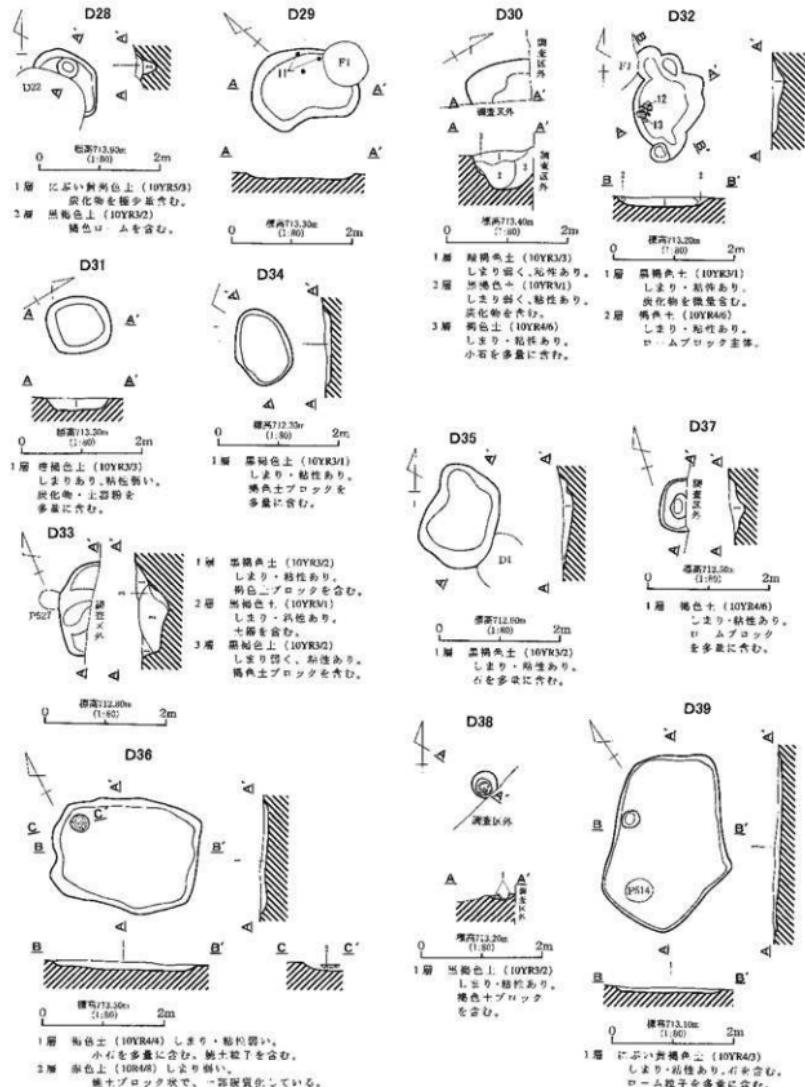
第4表 掘立柱建物址計測一覧表



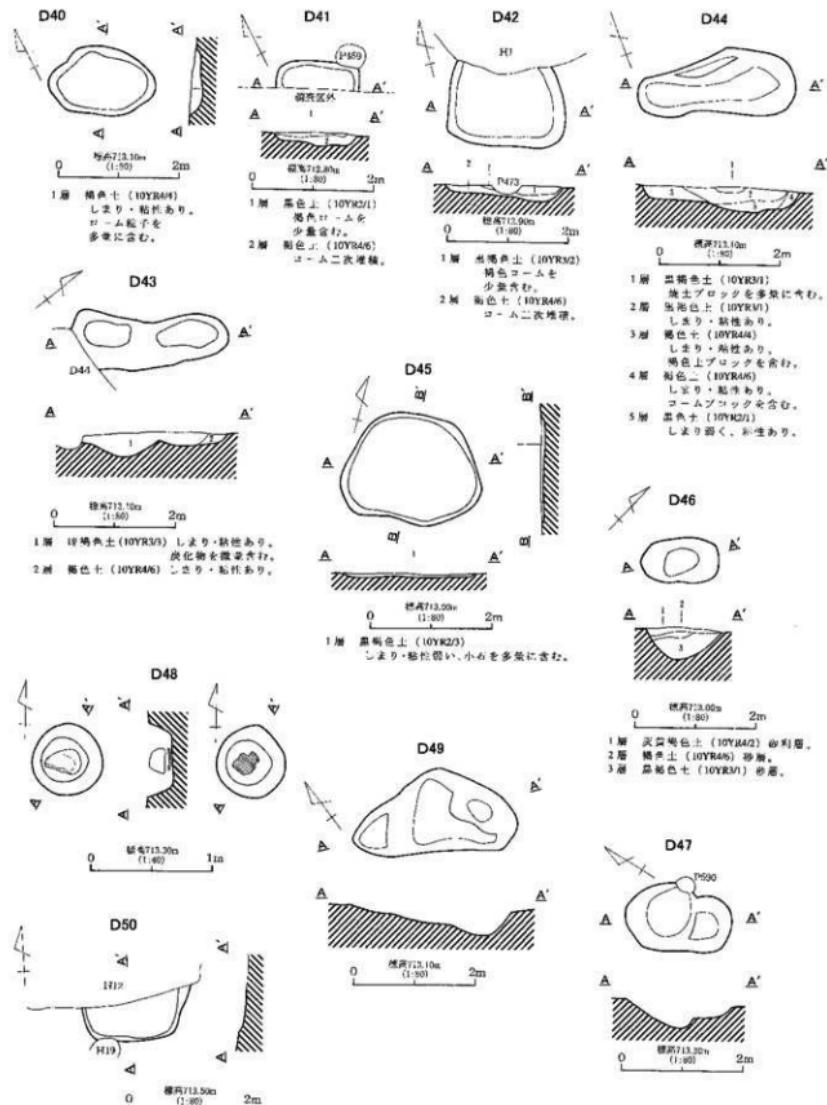
第38図 D1~12号土坑実測図



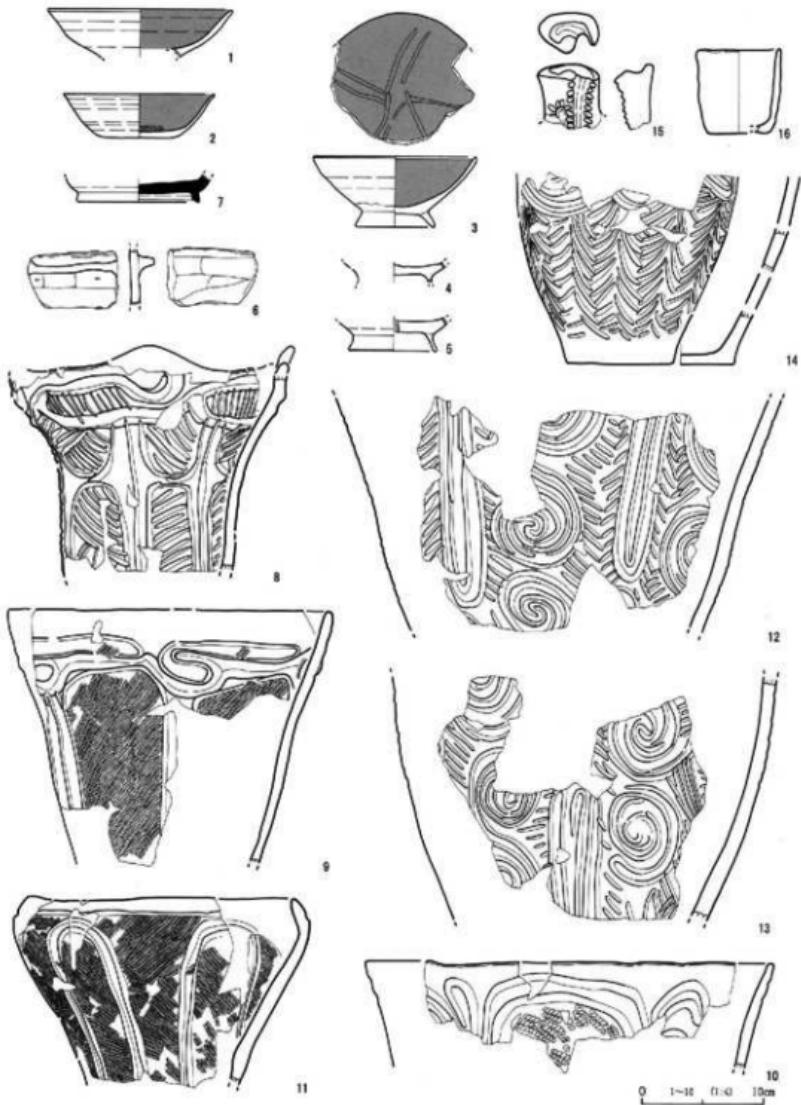
第39図 D13～27号土坑実測図



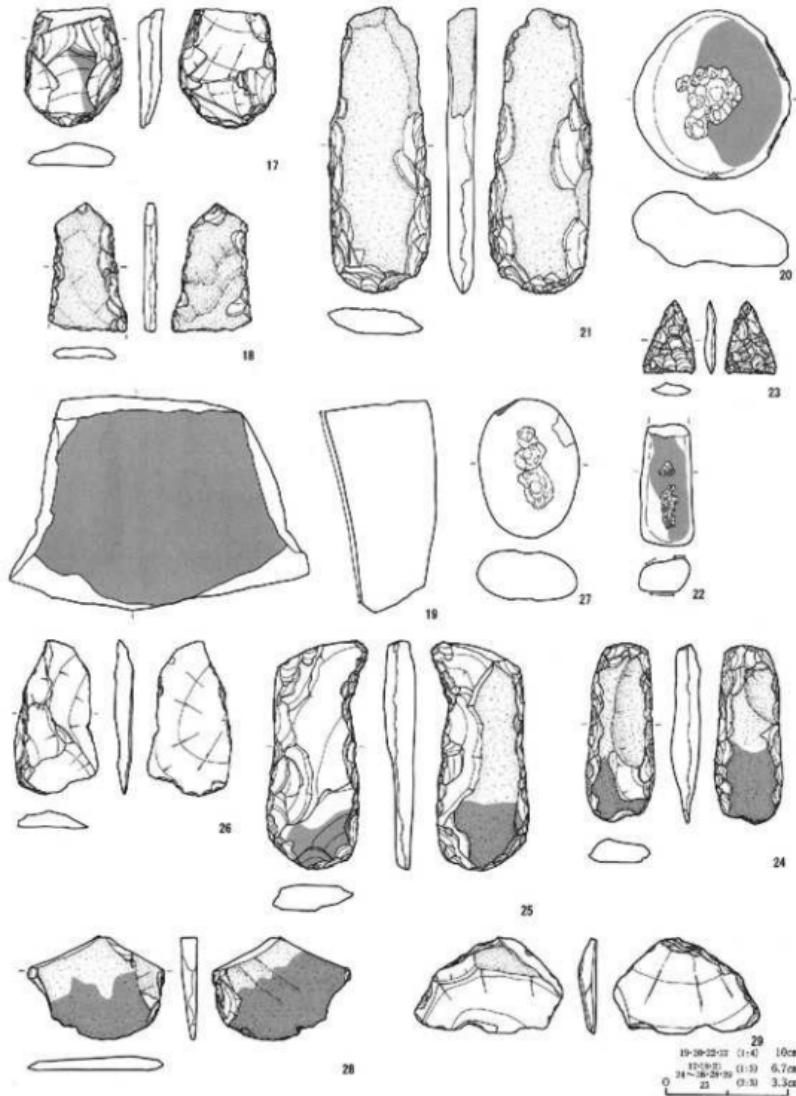
第40図 D 28~39号土坑実測図



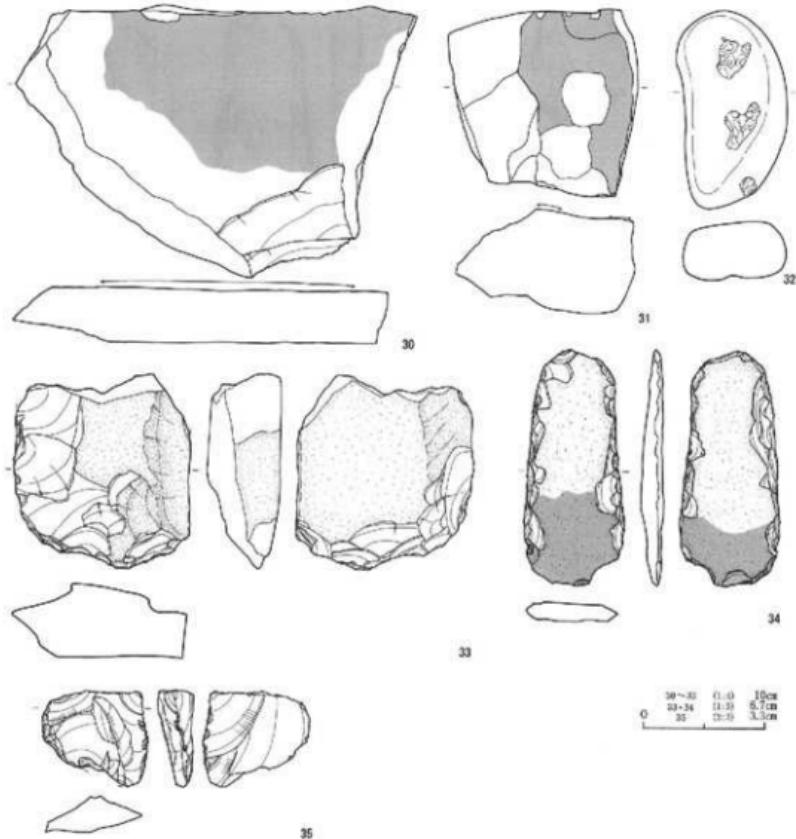
第41図 D40~50号上坑案剖面



第42图 土坑出土遗物实测图(1)



第43圖 土坑出土遺物實測圖 (2)



第44図 土坑出土遺物実測図 (3)

5. 土 坑

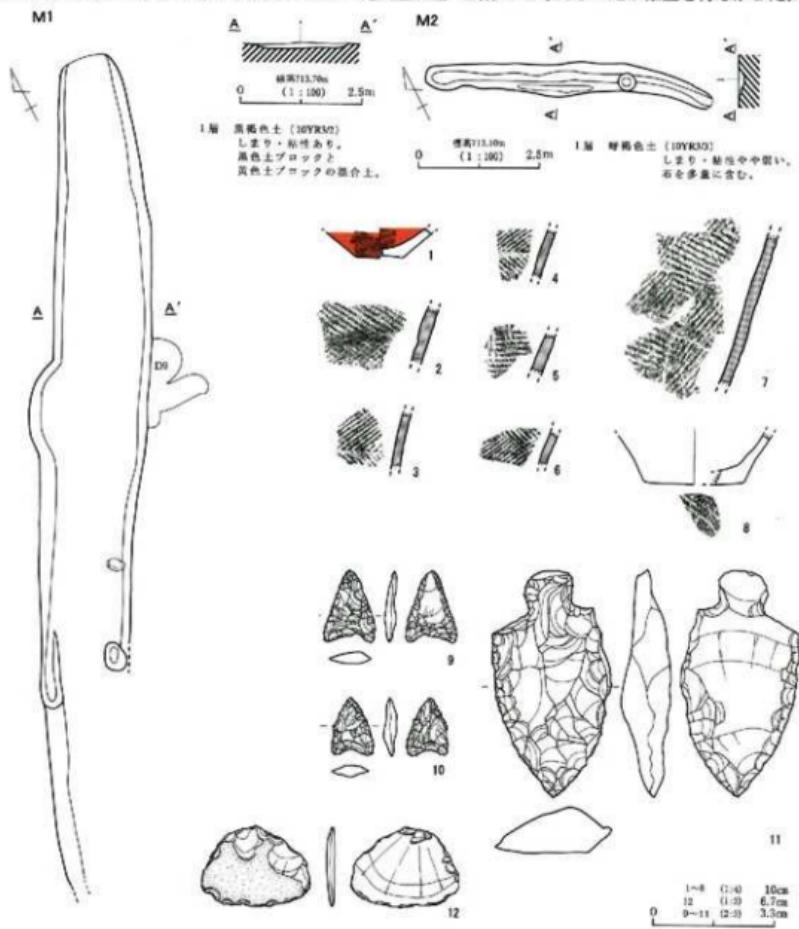
今回の発掘調査では50基の土坑を調査した。規模や形態は千差万別で、検出位置に関しても調査区全体に広がっていた。これらの事から個々の土坑について使用目的や所産時期を確定することは難しいものの、埋糞が検出されたD13.38号土坑や石組み炉の様な形態で検出されたD19号土坑はいずれも縄文中期の所産と考えられ使用目的も推測できる数少ない例である。この他には先の掘立柱建物址の項でも触れたがD43.44.46.49号土坑などはその配置や覆土から焼土が検出されていることなどから掘立柱建物址の可能性も指摘できる。また、D48号土坑は人頭大の礫の下に木製の板があり歯が検出されたことから墓壙と考えられる。以上、検出された土坑についてまとめてみたが周辺部に広がる各期の集落址調査が進めば新たなる見知も得られると考えられる。

通構名	グリット	形態	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	厚さ (cm)	長軸方位	重複関係	土坑内ピット (長・深・cm)	備考
D 1	タ-15	円形	92	87	72	N-53° W	D35→D1		
D 2	タ-13	楕円形	112	61	17	N-5° W			
D 3	タ-13・14	円形	132	124	26	N-9° E			
D 4	タ-9・14	不整形	143	118	27	N-26° E			地上有
D 5	タ-14・15	楕円形	148	98	29	N-6° E			
D 6	タ-14・16	楕円形	112	90	38	N-15° W	P573→D6		
D 7	タ-7・14	方形	173	14	50	N-63° W			
D 8	タ-14・15	方形	174	161	28	N-38° W			
D 9-A	タ-12	不整形	(100)	(76)	17	N-30° E	M1→D9	48-20	
D 9-B	タ-12	不整形	(175)	(56)	25	N-81° W	*	20-5	
D 10	タ-5 タ-4・5	不整形	(308)	(161)	25	N-8° W	H12→D10		
D 11	タ-6・7	不整形	163	72	24	N-36° W		39-10	
D 12	タ-14	楕円形	132	107	21	N-70° W			
D 13	タ-6・7	不整形	98	70	26	N-43° W		33-12	
D 14	タ-8・9	円形	110	103	26	N-37° E		26-9	
D 15	タ-8	楕円形	107	86	37	N-14° E			
D 16	タ-12	楕円形	154	113	18	N-58° W			七器有
D 17	タ-10	不整形	120	65	28	N-37° W			
D 18	タ-7	不整形	162	97	23	N-1° W		45-8	
D 19	タ-5・7	楕円形	112	75	27	N-4° W			行多有
D 20	タ-9・10		(113)	(54)	26	-	H4→D20		
D 21	タ-8・9	不整形	287	87	46	N-15° W		北 36-31 南 35-20	
D 22	タ-9・10	楕円形	136	102	26	N-57° W	P254→D22		
D 23	タ-9・10	楕円形	(120)	94	30	N-31° E	P309-P310→ H4→D23		
D 24	タ-9・10 タ-10	長方形	337	103	22	N-30° E	P329-P330→D24		
D 25	タ-7	不整形	169	72	34	N-47° W	H13-H16→D25	34-23	
D 26	タ-10-11	楕円形	128	112	30	N-74° W	P6→D26		
D 27	タ-7	不整形	176	85	19	N-72° W		40-9	
D 28	タ-9-10	?	130	38	15	N-45° W	D22→D28	37-31	
D 29	タ-8	不整形	174	117	14	N-47° W	F1-P4→D29		
D 30	タ-4-9	?	(105)	(65)	57	-			
D 31	タ-3-9	方形	103	94	215	N-20° E			
D 32	タ-9-10	不整形	190	114	22	N-11° W	F1-P12→D32	33-17	
D 33	タ-14・15 タ-15	?	(154)	(62)	57	N-31° E	P527→D33		
D 34	タ-15	楕円形	130	92	17	N-21° W			
D 35	タ-14-15	不整形	158	117	29	N-24° E			
D 36	タ-11 タ-10-11	方形	240	180	15	N-54° W			
D 37	タ-15	?	88	41	20	N-23° E		42-13	
D 38	タ-10	円形	(44)	42	8	N-38° W			上器有
D 39	タ-11-12	不整形	290	184	17	N-39° E		29-15	
D 40	タ-11	楕円形	176	115	22	N-61° W			
D 41	タ-15	?	(135)	(47)	26	N-62° W	P459→D41		
D 42	タ-14	方形	190	(118)	31	N-72° W	P473→H1→D42		
D 43	タ-12-13	不整形	(250)	74	49	N-37° E	D44→D43		
D 44	タ-13	?	260	95	49	N-72° W			
D 45	タ-13	楕円形	220	178	14	N-80° E			
D 46	タ-13	楕円形	127	73	57	N-45° E			
D 47	タ-12-13	不整形	175	114	44	N-23° W	P590→D47		
D 48	タ-12	円形	60	57	22	N			
D 49	タ-12	三角形	272	135	46	N-60° W			石・板
D 50	タ-5	?	184	68	15	-	H12→D50		

第5表 土坑計測一覧表

6. 溝状遺構

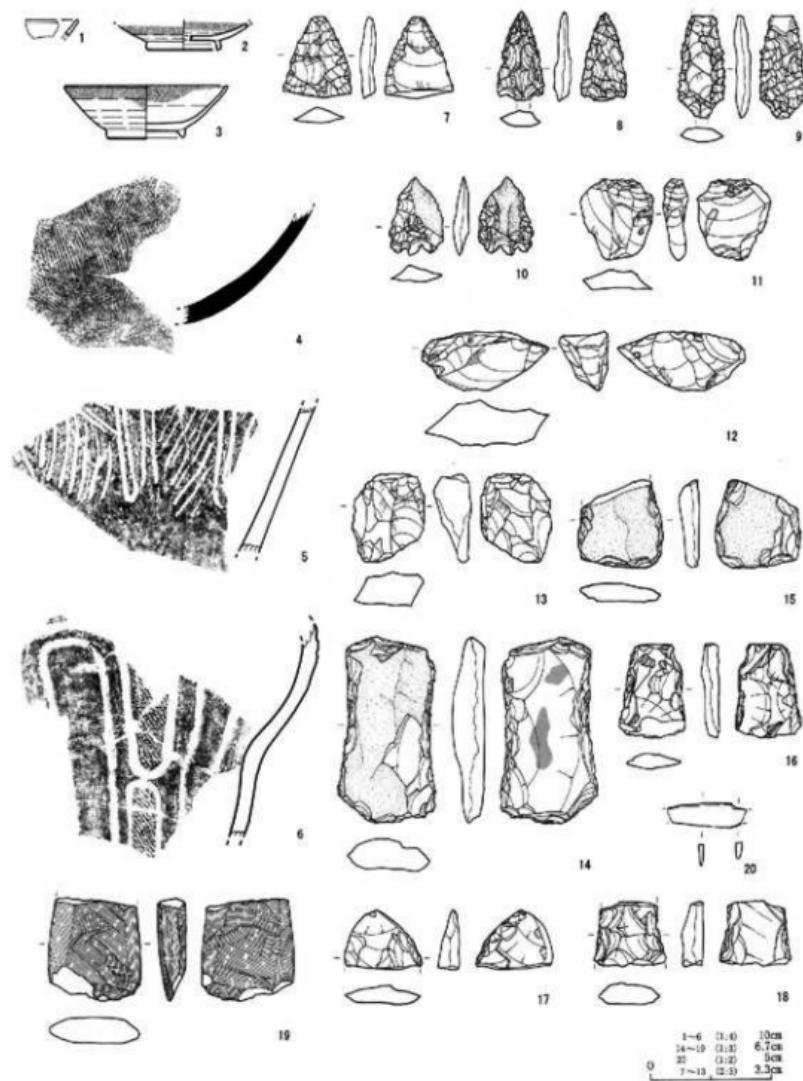
調査では2本の溝状遺構が確認された。M1号溝状遺構は南北に、M2号溝状遺構は東西に伸びる遺構と考えられるがいずれも両端は自然に消える状態であった。用途は不明である。また、H5とH11号住居址の間に細い湾曲した溝が検出されたが、縄文住居址の残存とも考えられたが確証を得なかった。



第45図 M1.2号溝状遺構及び出土遺物実測図

7. ピット

ピットは576個検出された。主に調査区南西側と南東コーナーに多く検出されたが、使用目的を積極的に推測しうるものはなかった。詳細はピット計測表を参照されたい。



第46図 ピット出土遺物実測図

遺構名	出土位置	高さ×幅×奥行き	形態	土	出土物	監視範囲
P1	ト-11	91×65×21	箱型	灰青褐色土 (10YR4/2)	銅文前周・中期	
P2	ト-11	38×35×24	円筒	栗褐色土 (10YR2/2)		
P3	ト-11	61×45×25	方形容			
P4	ト-11	75×53×20	方形容	灰青褐色土 (10YR4/2)		
P5	ト-11	87×65×25 (テラス16)	箱型	*		
P6	ト-11	85×75×13	円筒	灰青褐色土 (10YR3/2)	鉢文前、上層器坏	D26を含む。 P6を切る。
P7	ト-11	37×36×25	円筒	栗褐色土 (10YR2/2)		
P8	ト-11	65×50×25	箱型	栗褐色土 (10YR3/2)		P7に切られる。
P9	ト-11	25×22×7	円筒			
P10	チ-11	24×22×16	箱型	灰青褐色土 (10YR4/2)	唐文初期・中期	
P11	チ-11	24×22×16	円筒	栗褐色土 (10YR2/2)	横文前	P126を切る。
P12	ト-11	53×48×19	箱型	灰青褐色土 (10YR4/2)	横文中期	P126を切る。
P13	ト-12	52×40×19	箱型	栗褐色土 (10YR2/2)	横文前	
P14	ト-12	71×45×22 (テラス11)	箱型	灰青褐色土 (10YR4/2)	横文前	
P15	ト-12	35×33×16	円筒	栗褐色土 (10YR3/2)		
P16	ト-12	34×36×20	箱型	灰青褐色土 (10YR4/2)	横文中期	
P17	ト-12	71×62×12	箱型			
P18	ト-12	84×56×18 (テラス20)	箱型	灰青褐色土 (10YR2/2)		
P19	ト-12	62×55×21	箱型			
P20	ト-12	58×35×11	箱型	栗褐色土 (10YR3/2)	上層器坏	調査区外にかかる。
P21	ト-12	45×43×13	円筒			十脚脚序
P22	ト-12	28×20×12	円筒			土脚蓋(内見)
P23	ト-12	57×27×16	箱型	灰青褐色土 (10YR4/2)		
P24	チ-11	45×35×19	箱型	栗褐色土 (10YR3/2)	調査区外にかかる。	
P25	ト-11	70×35×10	円筒	*		
P26	ト-11	43×36×7	箱型	*		縦文
P27	チ-11	38×21×6	箱型	*		横文初期
P28	チ-11	47×44×10	箱型	灰青褐色土 (10YR4/2)		
ト-11	50×25×11	箱型	栗褐色土 (10YR2/2)	横文中期		
P29	ト-11	22×25×14	箱型	栗褐色土 (10YR3/2)	縦文	
P31	チ-11	38×53×12	円筒	*		灰地画、縦文
P32	チ-11	32×31×9	円筒	*		縦文
P33	チ-11	30×29×7	円筒	*		
P34	チ-11	46×33×7	箱型	*		
P35	チ-11	40×38×8	箱型	*		縦文
P36	チ-11	72×43×17 (テラス6)	箱型	*		横文初期・中期
P37	チ-11	41×44×13	円筒	*		
P38	チ-11	48×46×16	円筒	*		
P39	ト-13	35×31×11	円筒	*		
P40	ト-13	27×25×6	円筒	*		
P41	ト-13	28×27×18	円筒	*		
P42	ト-13	36×32×20	円筒	*		
P43	チ-13	30×25×16	方形容	灰青褐色土 (10YR4/2)		F2を切る。
P44	チ-13	40×35×26	箱型	栗褐色土 (10YR2/1)		
P45	チ-13	73×48×26	箱型	栗褐色土 (10YR3/2)	縦文	
P46	チ-13	65×52×19	方形容	*		横文初期・中期
P47	チ-13	22×42×46	方形容	*		横文中期
P48	ト-13	80×74×12	円筒	*		
P49	チ-13	35×35×24	小袋形	栗褐色土 (10YR3/2)	縦文	
P50	チ-14	40×37×29	箱型	*		
P51	シ-13	82×65×21	方形容	* ロームブリック多合。	横文中期	
P52	シ-13	200×75×30	箱型	*		
P53	シ-14	82×27×10	箱型	*		横文中期
P54	シ-15	70×70×30	円筒	*		横文中期
P55	シ-13	72×55×11	箱型	*		
P56	シ-13	30×38×9	円筒	*		
P57	シ-13	85×33×13	円筒	*		
P58	シ-14	30×35×14	箱型	*		
P59	シ-14	28×27×12	円筒	*		
P60	シ-14	93×85×22	円筒	*		
P61	シ-14	97×82×18	円筒	*		土脚跡地、雨道廻
P62	シ-14	73×42×16	小袋形	*		縦文
P63	シ-15	100×93×30	箱型	*		土脚跡地、縦文
P64	チ-13	18×18×23	円筒	*		上層器坏
P65	チ-13	33×33×39	円筒	*		
P66	チ-13	50×42×26 (テラス12)	箱型	*		
P67	リ-13	69×44×27	箱型	*		縦文
P68	リ-14	49×45×16	円筒	*		
P69	リ-14	56×44×30 (テラス17)	箱型	*		
P70	チ-13	38×34×23	箱型	*		
P71	チ-13	120×63×32	不規則凹面	※ 民居多合。	横文中期・中周	
P72	セ-12	97×65×38 (テラス23)	箱型	栗褐色土 (10YR3/4) 布地土粒子。	土脚蓋、上層器坏	
P73	セ-12	56×48×14	箱型	栗褐色土 (10YR4/4)		
P74	シ-11	75×89×43	箱型	栗褐色土 (10YR4/4)		
P75	チ-11	46×46×39	円筒	栗褐色土 (10YR2/1)	縦文・土脚蓋	
P76	ス-11	67×55×20 (テラス10)	不整地凹面	*		縦文
P77	ス-11	73×70×32	円筒	栗褐色土 (10YR4/4)	雨道廻	
P78	ス-11	80×80×7	箱型	*		縦文
P79	チ-14	80×60×31	円筒	栗褐色土 (10YR3/2)	横文中期	

第6表 ピット計測表(1)

P80	ツ-14	27×20×22	円形	黒色土 (10YR2/1)			
P81	ツ-14	34×32×19	円形	*			
P82	ツ-14	52×52×18	円形	*			
P83	ツ-14	38×36×26	円形	*			
P84	ツ-13	70×48×18	方型	にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 湿山ローム多含。	調文改版・中層		
P85	ツ-14	40×40×31	円形	黑色土 (10YR2/1)			
P86	ツ-14	43×38×19 (テラス13)	円筒内面	にぶい黄褐色土 (10YR4/3)			
P87	ツ-14	30×30×27	円形	黒褐色土 (10YR3/2)			
P88	ツ-13	43×45×17	楕円形	にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	調文初期		
P89	チ-13	38×35×15	楕円形	黒褐色土 (10YR3/2)	土脚留跡		
P90	チ-13	42×30×18	楕円形	黑色土 (10YR2/1)	発生中期西半		
P91	タ-7	55×40×18 (テラス9)	方型	褐灰色土 (10YR4/1) やや凸ぼけ。			
P92	タ-7	38×32×22	方型	*			
P93	タ-7	20×19×4	円筒	*			
P94	リ-7	47×45×20	楕円形	*			
P95	セ-6	35×35×21	円形	*			
P96	セ-6	31×31×7	円形	*			
P97	タ-7	32×30×9	円形	黒褐色土 (10YR3/2) 耐候性。			
P98	リ-6	33×27×17	楕円形	*			
P99	ジ-13	20×20×29	円形	黑色土 (10YR2/1)			
P100	ジ-13	24×30×31	楕円形	*			
P101	リ-7	20×20×8	円形	*			
P102	ツ-18	45×40×49	円形	黒褐色土 (10YR3/2)	調文中期		
P103	ツ-13	48×40×30 (テラス24)	楕円形	黒褐色土 (10YR4/2)	調文中期		
P104	ツ-13	41×42×19	不規則円形	黒褐色土 (10YR3/2)	上脚留跡 (凹型)		
P105	ツ-13	35×32×24	楕円形	黒褐色土 (10YR3/2)	続文小窓・土脚留跡		
P106	ツ-13	30×30×18	方型	*			
P107	ツ-13	42×35×22 (テラス14)	不規則円形	*			
P108	ツ-13	34×32×21	円形	*			
P109	ツ-13	36×38×24 (テラス21)	楕円形	*			
P110	ツ-13	40×42×45	不規則円形	黒褐色土 (10YR2/2) 花紋物多含。			
P111	ツ-14	55×45×19	楕円形	黒褐色土 (10YR3/2) 黒色ローム多含。	P127を切る。		
P112	ツ-14	72×55×36	楕円形	*			
P113	ツ-13	17×11×20	不規則円形	黒褐色土 (10YR2/2)			
P114	ツ-14	67×53×20	不規則円形	黒褐色土 (10YR4/1)	土脚留跡		
P115	ツ-6	38×30×18	方型	黒褐色土 (10YR3/2)	白脚跡		
P116	セ-6	15×52×29	方型	*			
P117	セ-6	31×28×16	楕円形	*			
P118	セ-6	33×30×16	楕円形	*			
P119	セ-6	71×57×17	楕円形	*			
P120	セ-6	39×28×23	円形	*			
P121	セ-7	34×35×20	楕円形	*			
P122	リ-6	81×29×16	円形	*			
P123	リ-6	83×29×15	円形	*			
P124	リ-7	22×19×6	楕円形	*			
P125	リ-7	110×58×39	楕円形	*			
P126	リ-11	58×65×12	不規則形	*			
P127	リ-13	62×55×31	不規則形	*			
P128	リ-7	58×33×35	円形	*			
P129	リ-7	30×25×17	椭円形	*			
P130	リ-13	40×34×29	不規則形	*			
P131	リ-12	37×34×24	円形	黒褐色土 (10YR2/2)			
P132	リ-11	112×42×20	不規則形	*			
P133	リ-11	22×30×18	円形	*			
P134	リ-11	48×32×18	円形	*			
P135	セ-6	32×32×11	円形	黒褐色土 (10YR3/2)	調文中期		
P136	リ-13	41×40×24	不規則形	*			
P137	リ-12	27×25×28	円形	黒褐色土 (10YR2/1)			
P138	リ-12	22×20×17	円形	灰褐色土 (10YR4/2)			
P139	リ-12	30×30×15	円形	*			
P140	リ-12	45×47×17	椭円形	*			
P141	リ-12	85×60×26 (テラス15)	楕円形	黒褐色土 (10YR3/2)	上脚留跡 (土壁裏)		
P142	リ-12	23×30×13	椭円形	*			
P143	リ-13	33×35×41	円形	*			
P144	リ-13	40×24×9	椭円形	*			
P145	リ-14	83×72×10	椭円形	*			
P146	リ-14	48×45×10	椭円形	*			
P147	リ-8	29×25×18	円形	褐色土	調文中期		
P148	リ-8	45×25×8	不規則形	*			
P149	リ-8	25×21×7	不規則形	*			
P150	リ-8	19×20×12	円形	*			
P151	リ-8	33×30×23	椭円形	*			
P152	リ-11	84×60×29	楕円形	黒褐色土 (10YR3/2)	調文初期・中層		
P153	リ-11	110×74×30	椭円形	*			
P154	リ-11	30×29×18	円形	*			
P155	リ-11	24×29×28	円形	*			
P156	リ-12	48×39×14	不規則形	褐色土 (10YR2/1)			
P157	リ-12	77×47×23 (テラス12)	不規則形	黒褐色土 (10YR3/2)	調文		
P158	リ-12	40×27×22 (テラス14)	椭円形	褐色土 (10YR2/1)	土脚留跡		
P159	リ-12	35×35×32	不規則形	黒褐色土 (10YR3/2)	灰褐色		
P160	リ-13	56×40×23 (テラス13)	楕円形	*			
P161	リ-14	61×34×33 (テラス15)	椭円形	灰褐色土 (10YR3/2)	灰褐色、表面剥落、土脚留跡、調文		
P162	リ-15	38×26×17	不規則形	黑色土 (10YR2/1)			

第7表 ピット計測表 (2)

P163	タ-12	34×19×12 (テラス7)	砂円形	*			
P164	タ-12	27×19×12	砂円形	灰黃褐色土 (10YR4/2)	體型十級、上部腐坏		
P165	タ-12	24×22×13	円形	*			
P166	タ-12	21×24×22	円形	黑色土 (10YR2/1)	調査		
P167	タ-12	32×32×16	円形	灰黃褐色土 (10YR4/2)	測定器具		
P168	タ-12	30×30×15	円形	黑褐色土 (10YR3/2)			
P169	タ-13	36×20×25	砂円形	黑色土 (10YR2/1)	下部腐坏(内窓)・上部腐坏		
P170	タ-13	25×23×6	円形	灰黃褐色土 (10YR4/2)			
P171	タ-13	35×25×15	砂円形	*			
P172	サ-7	21×21×9	円形	黑褐色土 (10YR3/2)			
P173	サ-6	34×34×32	円形	*	調査中間		
P174	サ-6	31×29×20	砂円形	*			
P175	サ-12	30×24×36	円形	黑色土 (10YR2/1)	P177-P178を切る。		
P176	サ-12	32×31×18	円形	灰黃褐色土 (10YR4/2)			
P177	サ-12	29×24×24	不整砂円形	*	P175に切られる。		
P178	サ-12	27×17×21	不整砂円形	黑色土 (10YR2/1)	*		
P179	タ-13	30×16×19	砂円形	灰黃褐色土 (10YR3/2)	土壤剖面(内窓)、調査		
P180	タ-13	57×27×7	砂円形	灰黃褐色土 (10YR4/2)			
P181	タ-13	25×24×39 (テラス21)	円形	黑色土 (10YR2/1)	下部腐坏		
P182	タ-13	29×27×13	円形	灰黃褐色土 (10YR3/2)			
P183	タ-13	20×20×6	円形	*			
P184	タ-13	52×25×14	砂円形	*	調査前期		
P185	タ-13	47×35×40	砂円形	*	上部解度		
P186	タ-13	28×23×7	砂円形	*			
P187	タ-13	33×24×15	不整方形	黑色土 (10YR2/1)	土壤剖面	P127に切られる。	
P188	タ-13	27×16×20 (テラス12)	砂円形	*			
P189	タ-14	63×44×8	不整砂円形	*			
P190	タ-14	36×27×20 (テラス14)	砂円形	*	土壤剖面、調査		
P191	タ-14	45×28×12	砂円形	灰黃褐色土 (10YR4/2)			
P192	タ-14	51×58×38	砂円形	*			
P193	タ-14	50×48×26	円形	暗褐色土 (10YR3/3)	土壤剖面		
P194	タ-14	30×39×21	円形	*			
P195	タ-11	40×33×8	不整砂円形	*	H11に切られる。		
P196	タ-11	42×19×18	不整砂円形	*	*		
P197	タ-12	43×18×16	不整砂円形	*	*		
P198	タ-14	38×35×29	砂円形	黑色土 (10YR2/1)	P200を切る。		
P199	タ-14	52×30×19	砂円形	*	調査前期、上部腐坏(内窓)		
P200	タ-14	38×30×12	不整円形	黑褐色土 (10YR3/2)	P198に切られる。		
P201	タ-14	30×21×8	砂円形	*			
P202	タ-14	82×38×27 (テラス17)	砂円形	*	調査記録		
P203	タ-14	32×30×36	円形	*	調査剖面		
P204	タ-14	37×25×21	不整砂円形	黑色土 (10YR2/1)	調査外にかかる。		
P205	タ-12	46×27×22	不整砂円形	黑褐色土 (10YR3/2)	H11に切られる。		
P206	タ-13	86×63×13	刀形	*			
P207	タ-14	57×60×20	円形	黑色土 (10YR2/1)			
P208	タ-8	45×38×13	砂円形	黑褐色土 (10YR3/3)			
P209	タ-12	28×28×6	円形	黑色土 (10YR2/1)			
P210	タ-13	85×53×8	砂円形	灰黃褐色土 (10YR4/2)	調査前期		
P211	タ-13	45×35×15	砂円形	黑色土 (10YR2/1)	P216を切る。		
P212	タ-8	24×23×11	円形	黑褐色土 (10YR3/2)			
P213	タ-8	33×33×20	砂円形	*	土壤剖面(内窓)		
P214	タ-8	64×43×15 (テラス8)	砂円形	*	第Ⅲ層		
P215	タ-8	42×35×18	円形	*			
P216	タ-12	96×53×21	不整砂円形	*	P211に切られ、P218を切る。		
P217	タ-12	55×47×28	砂円形	*			
P218	タ-12	48×32×9	不整砂円形	*	P216に切られる。		
P219	タ-12	20×19×7	円形	黑色土 (10YR2/1)	H7に切られる。		
P220	タ-12	35×28×14	砂円形	黑褐色土 (10YR3/2)			
P221	タ-12	27×25×12	砂円形	*			
P222	タ-12	48×45×28	砂円形	*			
P223	タ-11	50×36×34	不整砂円形	黑色土 (10YR2/1)			
P224	タ-12	30×30×32	円形	*			
P225	タ-7	27×24×20	方形	黑褐色土 (10YR3/2)			
P226	タ-8	43×30×46	砂円形	褐色土、炭化物質、	土壤剖面(内窓)		
P227	タ-7	44×42×20	砂円形	*	調査		
P228	タ-7	74×44×14	不整砂円形	*	調査		
P229	タ-5	44×33×15	砂円形	黑褐色土 (10YR3/2) 無機物質。	調査初期		
P230	タ-6	36×32×21	円形	黑褐色土 (10YR3/2)	土壤剖面		
P231	タ-5	67×34×6	砂円形	*			
P232	タ-5	34×24×6	方形	*			
P233	タ-7	29×28×21	円形	*	土壤		
P234	タ-12	25×20×10	砂円形	灰黃褐色土 (10YR4/2)			
P235	タ-12	44×43×20	円形	黑色土 (10YR2/1)			
P236	タ-12	43×43×14	円形	黑褐色土 (10YR3/2)			
P237	タ-11	54×34×26	不整砂円形	灰黃褐色土 (10YR4/2)	P153に切られる。		
P238	タ-11	26×23×11	不整砂円形	*	*		
P239	タ-11	52×21×15	不整方形	*	*		
P240	タ-7	15×39×9	砂円形	黑褐色土 (10YR3/2)			
P241	タ-7	47×39×17	砂円形	黑色土 (10YR2/1)			
P242	タ-6	40×26×11	砂円形	褐色土 (10YR4/4)			
P243	タ-7	35×34×19	円形	*			
P244	タ-5	35×33×4	方形	黑褐色土 (10YR3/2) 小石多數。			
P245	タ-5	33×33×5	円形	黑褐色土 (10YR3/2)			

第8表 ピット計測表 (3)

P246	七-5	30×28×25	楕円形	*			
P247	シ-7	34×33×20	円形	黒色土(10YR4/4)	調文初期		
P248	コ-8	50×47×16	円形	*			F4内。
P249	シ-10	28×25×9	円形	にぶい黒色土。(10YR5/3)			
P250	シ-10	24×20×9	円形	黒褐色土。(10YR2/2)			
P251	ツ-10	39×36×29	円形	黒褐色土。(10YR2/2)			
P252	ツ-10	55×36×13	楕円形	赤色土。(10YR2/1)	調文中期		
P253	ツ-10	67×59×15	円形	黒褐色土。(10YR3/2)			
P254	ツ-10	52×35×15 (テラス18)	楕円形	にぶい黒色土(10YR5/3)			
P255	ツ-9	68×42×22 (テラス14)	楕円形	黒褐色土(10YR2/2)			
P256	ツ-9	51×45×14	円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P257	ツ-10	60×39×8	楕円形	灰黄褐色土。(10YR4/2)			
P258	ツ-9	55×50×13	円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P259	ツ-9	16×14×14	円形	黒色土。(10YR2/1)			
P260	ツ-10	33×25×9	円形	*			
P261	ツ-10	37×30×10	楕円形	灰褐色土(10YR4/2)			
P262	チ-10	37×36×16	円形	*			
P263	チ-10	60×58×19 (テラス13)	円形	*			
P264	ツ-9	37×30×31	円形	黒色土。(10YR2/1)			
P265	ツ-9	53×30×33	円形	*			
P266	ツ-10	16×15×19	円形	*			
P267	ツ-10	28×20×9	不整円形	黒褐色土(10YR3/2)			P264に切られる。
P268	ツ-10	45×39×34	円形	*	調文中期		
P269	ツ-10	46×34×19	円形	*			
P270	ツ-10	38×32×24	円形	出色土。(10YR2/1)			
P271	チ-10	20×18×21	円形	*			
P272	チ-10	41×29×10	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P273	チ-9	24×22×30	円形	*			
P274	ツ-10	49×42×31 (テラス7)	楕円形	黒色土。(10YR2/1)	土器出現(内窓)		
P275	ツ-10	46×38×21 (テラス4)	楕円形	*			
P276	ツ-10	34×25×5	小盤円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P277	ツ-10	28×25×19 (テラス12)	楕円形	*			
P278	チ-10	170×31×24 (テラス13)	不整塊円形	*			
P279	ツ-10	32×32×18 (テラス7)	円形	黒色土。(10YR2/1)			
P280	ツ-9	42×38×9	円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P281	チ-10	46×37×12	楕円形	*			
P282	チ-7	34×32×11	円形	*	土器出現		
P283	チ-6	45×34×13	楕円形	*			
P284	チ-10	104×69×18	不整円形	黒色土。(10YR2/1)	調文初期		
P285	ツ-10	56×45×20 (テラス8)	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)	調文中期		
P286	ツ-10	61×61×10	円形	*			
P287	チ-9	38×19×13	不整塊円形	*	調文初期	調査区外にかかる。	
P288	チ-10	50×29×10	円形	*			
P289	チ-10	46×37×11	楕円形	*			
P290	チ-10	36×32×23	楕円形	*			
P291	チ-9	19×14×7	円形	黒色土。(10YR2/1)			
P292	チ-8	40×36×16	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P293	チ-9	40×36×13	楕円形	*			
P294	チ-9	66×39×28	円形	*			
P295	チ-10	70×65×21	楕円形	*			
P296	チ-2	74×50×34	不整塊円形	*			
P297	チ-10	59×48×14	楕円形	*			
P298	チ-10	77×27×9	楕円形	*			
P299	チ-9	23×32×20	円形	黒色土。(10YR2/1)	調文中期		
P300	チ-6	77×57×16	楕円形	*			
P301	チ-5	32×28×9	円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P302	チ-10	44×42×11	円形	*			
P303	チ-11	36×45×18 (テラス9)	楕円形	*			
P304	チ-10	25×21×7	不整円形	黒色土。(10YR2/1)			H1に切られる。
P305	チ-11	28×19×20	不整塊円形	*			H9Cに切られる。
P307	チ-10	50×36×7	楕円形	黒色土。(10YR2/1)			P341を切る。
P308	チ-11	37×35×14	円形	*	調文中期		D23を切る。
P309	チ-9	38×30×39	楕円形	*			D23を切る。
P310	チ-9	26×25×14	円形	*			D22を切る。
P311	チ-10	51×29×19	楕円形	*			D22に切られる。
P312	チ-9	38×36×8	楕円形	黒褐色土(10YR3/2)			H4Eに切られる。
P313	チ-10	34×32×25	円形	*	調文中期		
P314	チ-10	25×24×12	円形	*	調文中期		
P315	チ-10	61×45×46	円形	*			D22に切られる。
P316	チ-11	72×42×12	不整円形	灰黃褐色土。(10YR4/2)			H5Hに切られる。
P317	チ-11	56×33×16	楕円形	*			
P318	チ-11	30×26×21	円形	*			
P319	チ-11	29×26×10	円形	*			
P320	チ-11	55×45×34	楕円形	黒褐色土。(10YR3/2)	灰褐色		
P321	チ-11	82×8×17	不整円形	*			I17に切られる。
P322	チ-11	95×37×10	不整塊円形	*	調文中期		H7に切られる。
P323	チ-11	58×37×16	楕円形	*			
P324	チ-11	74×57×24	楕円形	黒色土。(10YR2/1)	調文中期		
P325	チ-12	76×71×35 (テラス24)	不整円形	黒褐色土。(10YR3/2)	土器出現、商业跡跡		
P326	チ-11	41×38×32	円形	灰褐色土。(10YR4/2)			P324に切られる。
P327	チ-10	52×49×53	円形	黒褐色土。(10YR3/2)			
P328	チ-9	60×48×22	円形	*	調文中期		
P329	チ-9	49×44×25	円形	*	苏生中點燃土		D24を切る。

第9表 ピット剖面測定 (4)

P330	コ-9	54×52×23	円形	*	英文小題	D24を見る。
P331	コ-10	54×53×26	円形	*	英文中用面下	
P342	ト-11	21×20×33	円形	高色土(10YR2/1)		
P353	ソ-10	25×24×10	円形			
P354	ソ-10	45×40×7	円形	高色土(10YR3/2)		
P355	ソ-11	105×82×17 (テラス8)	不規則形	黒色土(10YK2/1)	英文中題	
P356	セ-11	59×55×10	扁円形	*		
P357	セ-11	134×36×21 (テラス17)	不規則形	*		
P358	フ-9	61×19×18 (テラス7)	円形	*		
P359	ソ-11	44×39×16 (テラス8)	円形	灰褐色土(10YR4/2)		
P360	ト-11	33×10×11	不規方形	黑色土(10YR2/1)	H9-P324に切られる。	
P361	ト-11	65×54×6 (テラス9)	不規則形	黑色土(10YR3/2)	P307-P308に切られる。	
P362	キ-9	21×23×29	不規形	*	土堆部分	
P363	キ-9	29×25×39	円形	黑色土(10YR3/2)		
P364	キ-9	38×26×23	扁円形	*		
P365	キ-9	49×32×18	扁円形	*		
P366	キ-9	31×32×22	円形	*		
P367	ク-9	28×21×14	円形	*		
P368	ク-9	34×30×17 (テラス11)	円形	*		
P369	ク-9	40×31×41	不規方形	*		
P370	ク-9	129×115×45	不規形	*		
P371	ク-9	75×75×19	円形	# 植生地	英文中題	
P373	ソ-11	304×89×37	不規形	灰褐色土(10YR4/2) 小石多數。	土堆部分	
P384	コ-7	40×19×14	円形	灰褐色土(10YR4/2) 小石多數。		
P385	コ-7	28×24×8	円形	*		
P386	タ-8	37×33×2	円形	*		
P387	コ-8	34×30×7	円形	*	英文中題	P1-22-P31-P37に切られる。
P388	タ-8	38×35×33	円形	褐色土		
P389	タ-8	42×20×5	円形			
P390	タ-9	40×35×12	扁円形	灰褐色土(10YR3/2)		
P391	タ-9	53×40×10	扁円形	灰褐色土(10YR3/2) 植生有。		
P392	コ-10	50×54×23	不規形	灰褐色土(10YR3/3) 保水性有。	上層部分	
P393	コ-10	41×34×18	不規形	*		
P394	タ-9	102×41×20	扁円形	*	英文中題	
P395	タ-9	84×61×18	扁円形	灰褐色土(10YR3/3) 保水性有。	英文中題	
P396	タ-9	60×35×15	円形	*		
P397	タ-9	21×21×15	円形	*		
P398	タ-9	16×15×12	円形	*	英文中題	
P399	タ-9	58×55×21 (テラス14)	方型			
P400	タ-9	36×36×6	円形	褐色土		
P401	タ-9	75×44×6 (テラス9)	椭円形	*		
P402	タ-10	84×59×19 (テラス9)	椭.円形	*	發生中帶面下	
P403	タ-10	53×46×15	円形	*	英文中題、發生中帶面下	
P404	タ-8	35×33×46	円形	*		
P405	タ-9	97×37×20	不規則円形	*		
P406	タ-9	82×41×15	扁円形	*		
P407	タ-10	24×33×17	円形	*		
P408	タ-11	29×31×13	椭.圓形	暗褐色土(10YR3/4)		
P409	タ-11	49×32×21	円形	中褐色土(10YR3/2)		
P410	タ-11	47×38×15	椭.圓形	褐色土！		
P411	タ-11	64×56×12	円形	*		
P412	タ-11	61×50×5	円形	*	英文中題	
P413	タ-11	45×43×19	円形	*	英文中題	
P414	タ-11	47×43×28	圓形	*	英文中題	
P415	タ-10	53×19×9	椭.圓形	生褐色土(10YR3/1)		
P416	タ-10	17×16×7	円形	*		
P418	タ-16	33×28×8	円形	*		
P419	タ-16	38×34×12	円形	*		
P420	タ-16	54×45×22 (テラス14)	椭.圓形	*	英文中題	
P421	タ-17	44×35×19	椭.圓形	*		
P422	タ-15	44×36×18	椭.圓形	*		
P423	タ-15	47×42×12	円形	*		測定区外にかかる。
P424	タ-15	53×47×14	円形	暗褐色土(10YR3/4)		
P425	タ-15	89×73×17	椭.圓形	深褐色土(10YR3/1)		
P426	タ-17	47×38×17	椭.圓形	暗褐色土(10YR3/4)		
P427	タ-13	128×30×12	不規形	褐色土(10YR3/1) 小石多數。		
P428	タ-16	36×34×20	円形	*		
P429	タ-16	36×34×18	円形	*		
P430	タ-15	65×39×16	椭.圓形	*		
P431	タ-14	44×31×27 (テラス18)	椭.圓形	褐色土(10YR3/1)	P339を見る。	
P432	タ-14	36×38×22 (テラス14)	円形	*	P403を見る。	
P433	タ-14	44×38×28 (テラス14)	不規則円形	*		
P435	タ-16	34×53×11	円形	*	P405に切られる。	
P436	タ-16	26×30×11	円形	*		
P437	タ-15	39×40×11	円形	*		
P438	タ-15	41×35×27 (テラス15)	椭.圓形	暗褐色土(10YR3/4)		
P439	タ-14	49×48×16	円形	*		
P440	タ-15	37×33×13	円形	褐色土(10YR4/6)	P451を見る。	
P441	タ-14	33×33×13	円形	*		
P442	タ-14	114×66×12	椭.圓形	赤褐色土(10YR3/1)		
P443	タ-14	141×50×28	椭.圓形	*		
P445	タ-11	79×63×15	椭.圓形	褐色土(10YR4/6)		

第10表 ピット計測表 (5)

P419-ケ-11	59×50×19	円形	*			
P419-ケ-10	108×54×7	楕円形	*			
P419-ケ-10	104×58×14	不整椭円形	*			
P419-ケ-10	28×26×18 (クラス1.2)	円形	*			
P419-ケ-10	127×68×25	楕円形	黒褐色(10YR3/1)			
P419-ケ-10	40×39×9	円形	褐色(10YR4/3)			
P420-ケ-11	54×46×7	円形	黒褐色(10YR3/2)			
P421-ケ-12	15×28×16 (クラス1.0)	楕円形		純文部類		
P422-ケ-12	30×28×13	円形	*			
P423-ケ-11	63×49×15	円形	*			
P424-ケ-11	32×31×8	円形	*			
P425-ケ-11	28×21×8	円形	*			
P426-ケ-11	34×29×18	円形	*			
P427-ケ-11	41×28×10	楕円形	*			
P428-ケ-11	30×35×19	楕円形	*			
P429-ケ-11	63×56×14	楕円形	*			
P430-ケ-11	36×59×18	円形	*			
P431-ケ-10	64×31×14	不整椭円形	*			
P432-ケ-10	53×47×11	楕円形	*			
P433-ケ-10	29×26×12	円形	*			
P434-ケ-10	24×23×10	円形	*			
P435-ケ-10	37×34×11	円形	*			
P436-ケ-11	208×79×20	不整椭円形	*			
P437-ケ-10	133×71×17	不整椭円形	褐色上			
P438-ケ-10	36×32×15	円形	出血色土(10YR2/2)			
P439-ケ-10	24×20×10	円形	*			
P440-ケ-10	37×37×17	円形	*		III-7より新しい。	*
P441-ケ-9	32×28×13	円形	*			
P442-ケ-10	62×47×9	円形	*		共生虫眼前手	
P443-ケ-11	34×38×14	円形	*			
P444-ケ-11	38×36×12	楕円形	*			
P445-ケ-11	31×28×32	円形	*			
P446-ケ-11	35×29×10	楕円形	*			
P447-ケ-11	61×30×11 (クラス1.0)	楕円形	*			
P448-ケ-11	72×60×19	不整椭円形	*			
P449-ケ-14	54×31×24 (クラス7)	楕円形	*		純文部類	
P450-ケ-9	28×27×15	円形	*			
P451-ケ-14	51×33×17	楕円形	*			P412に切られる。
P452-ケ-14	36×33×17	円形	*			
P453-ケ-15	45×40×14	円形	*			
P454-ケ-15	58×56×14	楕円形	*			
P455-ケ-9	58×44×23	不整椭円形	*			P408・P411に切られる。
P456-ケ-10	35×29×20	楕円形	*		III-7を切る。	
P457-ケ-10	70×46×16	楕円形	*			
P458-ケ-9	35×36×15	楕円形	*			
P459-ケ-15	50×35×18 (クラス8)	楕円形	*			
P460-ケ-15	38×35×10.2	円形	黑色土(10YR2/1)		純文部類	
P461-ケ-14	47×44×14	不整椭円形	*		純文小品	
P462-ケ-14	49×33×20 (クラス1.3)	不整椭円形	黒褐色土(10YR2/2)			III-1に切られる。
P463-ケ-14	20×18×5	円形				III-1に切られる。
P464-ケ-14	26×32×22 (クラス1.6)	不整椭円形	*			P466に切られる。
P465-ケ-15	30×28×14	円形	褐黃褐色(10YR4/2)			
P466-ケ-14	38×36×16	円形	*			
P467-ケ-14	39×35×51	円形	*			
P468-ケ-14	44×40×2	円形	*			
P469-ケ-14	58×32×7 (クラス2.5)	楕円形	*			
P470-ケ-14	35×39×9	楕円形	黑色土(10YR2/2) 特・レキ多含。			
P471-ケ-14	21×39×21	楕円形	黑色土(10YR4/2)			
P472-ケ-14	19×16×5	円形	*			
P473-ケ-14	49×47×30	円形	黑色土(10YR2/1)			D42を切る。
P474-ケ-15	89×79×23	円形	灰黃褐色土(10YR4/2)			P412を切る。
P475-ケ-14	36×30×28	楕円形	灰褐色土(10YR3/2)			H11Cに切られる。
P476-ケ-14	53×45×14	不整椭円形	*			P510に切られる。
P477-ケ-14	24×24×17	円形	黑色土(10YR2/1)		純文	
P478-ケ-14	26×24×14	円形	褐黃褐色土(10YR4/1)			
P479-ケ-12	34×25×11	円形	*			
P480-ケ-12	30×25×9	円形	*			
P481-ケ-13	19×15×15	円形	*			
P482-ケ-13	28×29×26 (クラス2.1)	円形	黒褐色土(10YR3/2) 特色斑多含。			
P483-ケ-11	21×20×16	円形	*		純文部類	
P484-ケ-13	36×32×26	楕円形	*			
P485-ケ-12	43×26×21	楕円形	*			
P486-ケ-12	58×32×8	円形	*			P487に切られる。
P487-ケ-12	27×24×32	円形	*			P488に切る。
P488-ケ-12	69×62×5	円形	*			
P489-ケ-12	20×18×10	円形	*			
P490-ケ-12	33×32×33	円形	*			
P491-ケ-11	28×25×23	円形	*			
P492-ケ-12	77×69×10	不整椭円形	* 11-ムソック多含。			
P493-ケ-12	69×66×16	円形	黑色土(10YR3/2) ローム粒多含。		純文小品	
P494-ケ-12	18×17×18	円形	*			
P495-ケ-11	60×28×14	楕円形	*			
P496-ケ-11	90×5×6	楕円形	にぶ・青色土(10YR4/3)		純文小品	

第11表 ピット計測表 (6)

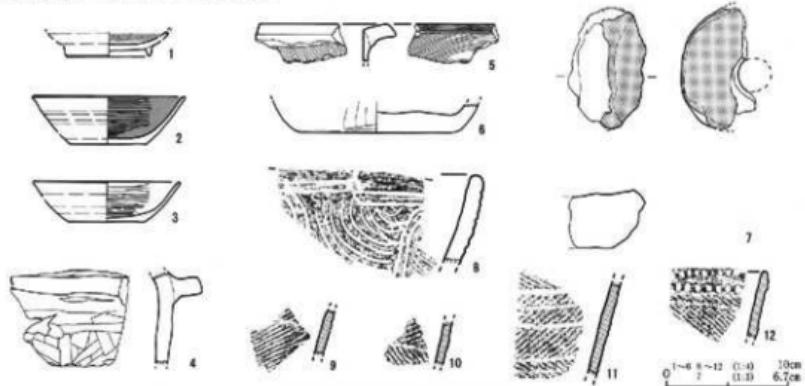
P597	丰-11	47×34×12	横円形	黒褐色土(10YR3/1)			
P498	ク-11	38×33×9	円形	にぶい黒褐色土(10YR4/3)			
P499	ク-11	31×41×21	円形	黒褐色土(10YR3/1)			
P500	2-15	28×25×30 (テラス24)	円形	黒褐色土(10YR2/1)			
P501	コ-15	67×60×13	円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P502	コ-15	44×38×18 (テラス14)	横円形	"			
P503	サ-14	55×55×22	横円形	"			
P504	コ-15	39X53×19	不整地円形	"			P500に切られる。
P505	コ-15	67×59×27	円形	"			
P506	コ-15	31×28×12	横円形	黒褐色土(10YR2/1)			
P507	コ-15	30×30×19	円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P508	コ-15	36×35×14	円形	"			P447に引かれ、P515を切る。
P509	コ-15	25×24×28	円形	"			
P510	サ-15	73×55×19	横円形	"			P459に引かれ、P476を切る。
P511	コ-15	36×30×15	円形	"			
P512	コ-15	39×30×97 (テラス 9)	横円形	"			
P513	サ-15	59×44×25 (テラス 6)	不整地円形	"			調文小窓
P514	ク-14	44X51×17	円形	黒褐色土(10YR3/2)			(調文前段・中段)
P515	コ-15	53×50×11	不整地円形	"			P447・P508に切られる。
P516	サ-14	54×51×20 (テラス13)	不整地円形	"			
P517	サ-14	31×24×23	横円形	"			
P518	コ-15	61×43×9	不整地円形	"			P474に切られる。
P519	ク-14	19×18×20	円形	黒色(10YR2/1)			
P520	ク-14	67×47×17	横円形	灰黒褐色土(10YR4/2)			
P521	ク-14	25×22×5	円形	"			調文中段前半
P522	ク-14	32×28×13	横円形	"			
P523	ク-14	28×24×11	円形	"			
P524	ク-14	43×35×30	円形	"			
P525	ク-14	30×24×5	横円形	"			十四瓣环
P526	ク-14	25×18×7	横円形	黒色(10YR2/1)			
P527	丰-14	31×32×16	不整地円形	黒褐色土(10YR3/2)			D33に切られる。
P528	ク-14	44×34×16	不整地円形	"			P530に切られる。
P529	ク-14	21×19×15 (テラス 4)	円形	黒褐色土(10YR2/1)			
P530	ク-15	67×54×22	不整地円形	黒褐色土(10YR3/2)			P528に引く。
P531	ク-14	27×24×18	横円形	"			
P532	ク-14	47×23×33 (テラス14)	横円形	"			
P533	ク-14	18×19×13	円形	黒褐色土(10YR2/1)			
P534	コ-13	70×43×9	不整地円形	"			
P535	丰-10	38×37×10	円形	黒褐色土(10YR3/2)			
P536	ク-11	37×38×10	円形	"			
P537	ク-14	21×20×8	不整地円形	灰黒褐色土(10YR4/2)			
P538	ク-13	39×28×10	円形	"			
P539	ク-14	23×20×8	円形	黒褐色土(10YR2/1)			
P540	ク-13	21×16×13	円形	"			
P541	ク-14	43×37×33 (テラス10)	円形	"			
P542	ク-14	53×48×16	円形	"			
P543	ク-14	43×29×13	横円形	"			P533に切られる。
P544	丰-13	21×20×8	不整地円形	灰黒褐色土(10YR4/2)			
P545	ク-13	29×28×10	円形	"			
P546	ク-14	23×20×8	円形	黒褐色土(10YR2/1)			
P547	ク-14	27×22×11	円形	"			
P548	ク-14	22×19×8	円形	"			新生中期西半?
P549	丰-14	18×7×7	円柱	"			
P550	丰-13	16×5×9	円柱	"			
P551	ク-13	15×14×6	円柱	"			
P552	ク-13	14×9×6	円柱	"			
P553	ク-14	49×36×12	円柱	"			P544を切る。
P554	ク-13	20×17×19	円柱	黒褐色土(10YR3/2) 黒色に近い。			
P555	ク-13	20×18×20	円柱	"			
P556	ク-11	49×36×12	不整地円柱	"			
P557	ク-13	40×29×12	横円形	黒色土(10YR2/1)			
P558	セ-9	38×33×12	円柱	黒褐色土(10YR3/2)			
P559	セ-9	31×28×6	円柱	"			
P560	セ-9	28×26×8	円柱	"			
P561	ソ-9	75×44×4	横円形	" 硫土石。			上新層B(内窓)
P562	ソ-8	30×29×13	円柱	"			土壤混入
P563	ソ-14	71×64×14	円柱	"			
P564	セ-13	54×43×16	円柱	"			
P565	セ-11	41×33×23 (テラス 4)	円柱	黒色土(10YR2/1) 混合物含。			
P566	ソ-15	25×28×21	円柱	灰黒褐色土(10YR4/2)			
P567	ソ-14	73×39×34	横円形	"			
P568	セ-12	64×28×11	横円形	砂利			土崎器裏
P569	セ-13	30×24×12	方柱	黒褐色土(10YR3/2)			調査区外にかかる。
P570	セ-12	36×32×34 (テラス24)	円柱	黒色土(10YR2/1)			
P571	セ-13	28×27×39	円柱	黒褐色土(10YR3/2)			調文中部
P572	セ-13	60×47×26 (テラス13)	横円形	"			
P573	ソ-13	30×59×28	横円形	"			
P574	ソ-13	34×27×5	横円形	"			
P575	ソ-14	35×23×34	横円形	"			
P576	ソ-14	32×28×14	円柱	"			
P577	ク-11	80×56×30	横円形	黒褐色土(10YR4/4)			
P578	ソ-15	73×62×27	円柱	"			
P579	コ-13	33×30×38	円柱	"			D17を切る。
P580	サ-6	32×30×7	円柱	"			
P581	サ-7	41×30×9	横円形	"			

第12表 ピット計測表 (7)

8. 遺構外出土遺物

ここでは表土除去並びに遺構確認時と試掘調査の折りに出土した遺物について記載する。今回の調査では、調査区西側が遺構確認面まで浅かった為、表土除去時に遺物が多く採集された。また調査区東側においては地形が片貝川側に落ち込んでいたため基本層でも述べたが遺構確認面上の第V層 黒褐色土が遺物包含層化しており多量の縄文土器と石器が検出された。これら遺物の内、特徴的なものを抽出し図示した。

1は灰釉陶器碗である。2と3は土師器杯で、2は内面黒色処理が施されている。4は羽釜の羽の部分で胎土はやや荒く、色調は赤化している。5は土師器甕で、内外面それぞれ縦方向と横方向のハケ目のあるナデが行われている。特徴は甲斐型土器の厚口縁型甕に似る。6は土師器鍋の底部と考えられる。厚く重量感がある。4の羽釜の胎土に似る。7は土製品の羽口である。8は縄文中期のいわゆる佐久系土器の口縁部である。9～12は纖維の混入した縄文前期初頭を中心とする土器群である。12は口縁部が肥厚し指突が2段おこなわれている。特徴から塙田式と考えられる。13からは石器類で、石鎌については無茎と有茎がそれぞれ存在する。この他には石錐、削器、打製石斧、凹石等があった。29は磨製石斧の未成品と考えられる。



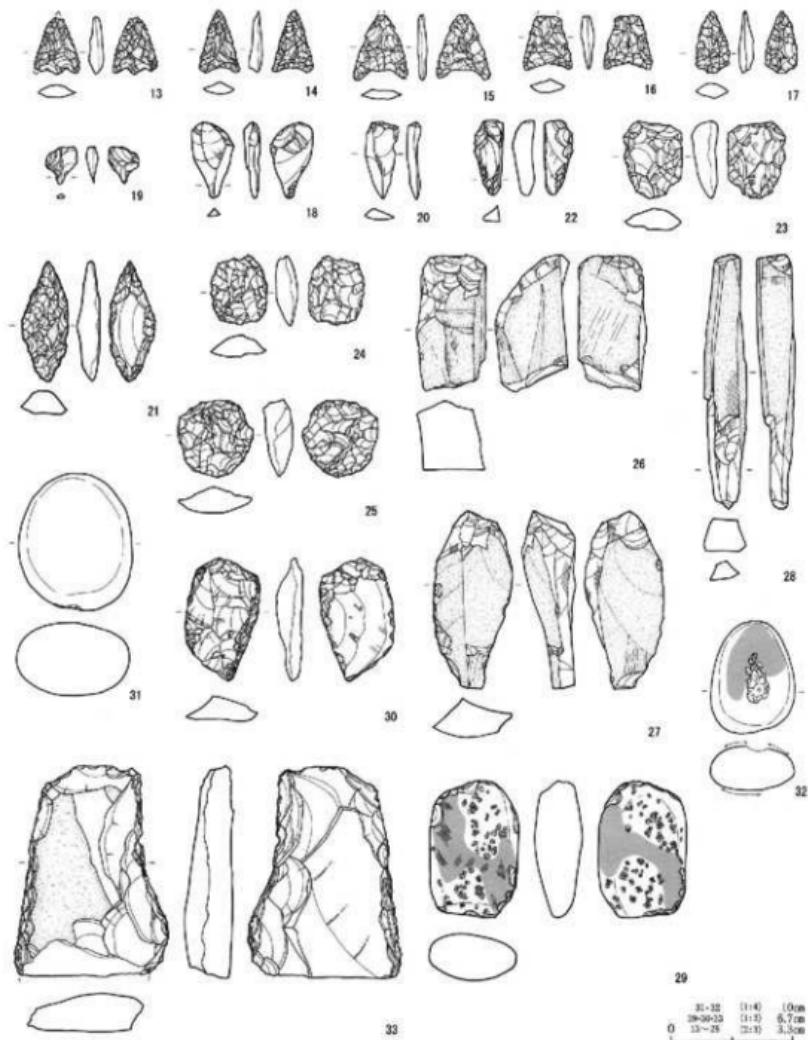
第47図 遺構外出土遺物実測図(1)

9. 調査のまとめ

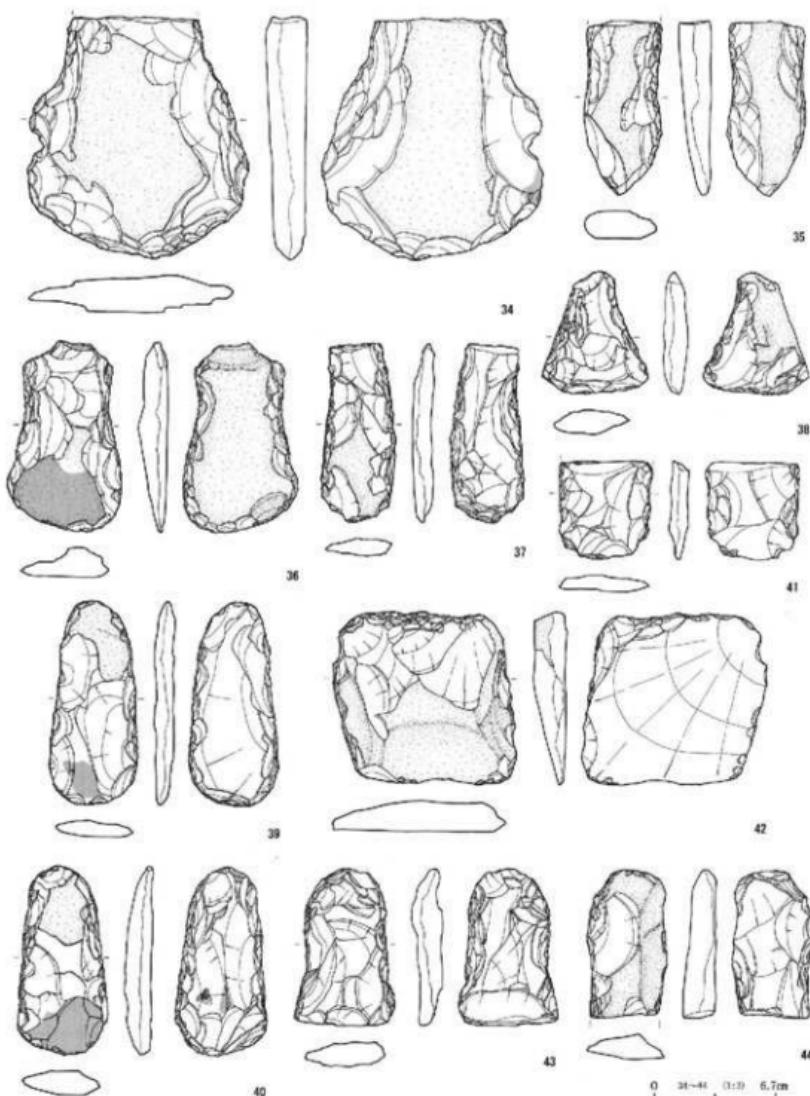
今回の発掘調査は小田切地区で初めての本格的な埋蔵文化財調査となった。よって、調査成果も数多くのものがあり、また新たな課題も見いだされた。本項ではそれら時代を追い概略的に記し調査のまとめとしたい。

まず、縄文時代としては中期後半の住居址から加曾利EⅢ式、曾利式、佐久系のそれぞれの土器群が出土し、供伴関係が押さえられたことである。また佐久系土器の分布域についても新たな資料の追加となった。次に弥生時代としては、今まで佐久平で空白となっていた中期中葉の資料が発見されたことである。今までも前山の瀬の下遺跡等で断片的には存在したが、まとまった資料報告は今回が初めてとなる。最後に平安時代であるが、非常に多くの成果があった。まず、東信地域で初となる竈形土器の出土、白田地域以南では初めてとなる皇朝十二銭の出土、白磁や緑釉陶器といった希少品の出土や甲斐型土器の出土などである。これらの出土品の示すものは反田遺跡に存在した平安集落の性格論に及ぶが、これら出土品のみを持って郷家的ないし駅家の結論に導くのはあまりにも早計である。当遺跡発見の普遍的な住居形態や集落構成を考えれば慎重な考察が望まれるのは明らかである。

以上、難泊なまとめであるが新たな課題を提示したことでまとめとしたい。



第48图 造構出土遺物実測図 (2)



第49図 道構外出土遺物実測図(3)

第3表 H1弓件器皿出土遺物觀察表

名 稱	形 狀	規 格	備 註		出 土 地 點
			器 物	外 形	
1 滅 文	漆 杯	7件(1) 高脚杯(高5.0) (27.9)	口緣部有缺口 1.0cmから削下 手	陶器口沿部 漆器	加古川台日一 塚
2 滅 文	漆 杯	- 8.8 (29.7)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 -20cm
3 滅 文	漆 杯	(19.0) - (1.5)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 1.0cm
4 滅 文	漆 杯	(1.5) - (1.5)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 IV区・I区
5 滅 文	漆 杯	1.5.4 - (17.2)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区・III区 1.0cm
6 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
7 滅 文	漆 杯	(17.0) 6.8 (16.6)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区・III区 1.0cm
8 滅 文	漆 杯	22.2 - (1.6)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区・III区 1.0cm
9 滅 文	漆 杯	- 7.9 (6.9)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
10 滅 文	漆 杯	2.5.5 - (16.5)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
11 滅 文	漆 杯	32.1 - (22.0)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
12 滅 文	漆 杯	- 8.6 (22.0)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
13 滅 文	漆 杯	- 6.6 (23.4)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
14 滅 文	漆 杯	- 6.0 (26.6)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
15 滅 文	漆 杯	- 6.0 (6.0)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
16 滅 文	漆 杯	- 6.0 (9.0)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
17 滅 文	漆 杯	- 6.0 (8.4)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
18 滅 文	漆 杯	(12.6) - (19.1)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
19 滅 文	漆 杯	12.5 - (12.3)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
20 滅 文	漆 杯	- 6.0 (12.3)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
21 滅 文	漆 杯	- 6.0 (16.0)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
22 滅 文	漆 杯	- 7.0 (6.0)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
23 滅 文	漆 杯	- 6.0 (5.6)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
24 滅 文	漆 杯	- 3.4 (3.2)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
25 滅 文	漆 杯	- 10.6 (6.2)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
26 滅 文	漆 杯	- 6.0 (6.6)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
27 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
28 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
29 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
30 滅 文	漆 杯	(24.0) - (16.0)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
31 滅 文	漆 杯	- 6.0 (20.3)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
32 滅 文	漆 杯	- 7.7 (2.3)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
33 滅 文	漆 杯	- 10.7 (7.4)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
34 滅 文	漆 杯	- 9.0 (5.9)	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
35 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
36 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
37 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
38 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
39 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
40 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
41 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
42 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
43 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
44 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
45 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
46 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm
47 滅 文	漆 杯	- -	口縫部交差削下 手	陶器口沿部 漆器	日向・日之塚 II区 1.0cm

87	石林	砂岩	無變色	1/1	4.6	4.7	3.6	27.6
98	打羅山	變質石	1/1	2.8	1.8	0.8	2.51	
99	打羅山	黑色變質山岩	1/1	17.3	6.6	1.9	299.9	
100	打羅山	黑色變質山岩	1/1	13.7	6.4	1.8	150.5	
101	打羅山	變質砂岩	1/1	4.5	1.9	1.2	10.2	
102	打羅山	無變色山岩	2/3	10.7	6.3	1.3	94.4	
103	打羅山	無變色山岩	1/2	7.6	5.7	1.3	64.3	
104	打羅山	無變色山岩	1/1	10.2	3.2	1.4	92.4	
105	打羅山	無變色山岩	2/3	14.7	7.9	2.1	233.3	
106	打羅山	無變色山岩	1/1	3.6	5.6	1.9	24.1	
107	打羅山	無變色山岩	3/4	10.9	5.5	0.9	179.2	
108	打羅山	無變色山岩	3/4	12.5	6.3	1.4	111.4	
109	打羅山	無變色山岩	1/1	13.0	6.1	1.4	14.0	
110	打羅山	無變色山岩	1/1	13.8	6.1	1.5	14.5	
111	打羅山	無變色山岩	1/1	13.2	5.0	2.2	19.6	
112	打羅山	無變色山岩	1/1	4.5	5.2	1.2	102.8	
113	打羅山	無變色山岩	1/1	4.5	4.9	1.3	138.1	
114	打羅山	無變色山岩	1/2	9.5	6.4	1.7	115.4	
115	打羅山	無變色山岩	3/4	13.2	7.0	2.0	127.8	
116	打羅山	無變色山岩	1/1	16.7	5.9	1.1	156.1	
117	角砾	無變色岩	1/1	5.8	7.2	1.5	73.6	
118	角砾	無色變色岩	1/1	5.9	5.8	1.3	56.7	
119	角砾	黑色變色山岩	1/1	6.9	8.5	1.4	82.3	
120	角砾	黑色變色山岩	1/1	6.6	7.8	1.5	91.4	
121	角砾	無變色山岩	1/1	7.6	15.7	1.2	168.2	
122	角砾	無變色山岩	1/1	4.3	9.2	0.9	95.0	
123	角砾	無變色山岩	1/1	5.7	4.1	1.8	141.0	
124	角砾	無變色山岩	3/4	10.7	6.1	1.3	109.7	
125	漂浮	變質山岩	1/1	14.4	4.5	2.6	119.6	
126	漂浮	變質山岩	1/1	17.0	10.8	3.4	119.6	
127	漂浮	變質山岩	1/1	16.2	6.2	6.3	98.0	
128	漂浮	變質山岩	1/1	10.9	5.7	1.7	101.6	
129	漂浮	變質山岩	1/1	3.5	8.5	3.9	95.8	
130	漂浮	變質山岩	1/1	12.4	6.1	4.2	97.3	
131	漂浮	變質山岩	1/1	11.4	7.5	6.3	99.2	
132	漂浮	變質山岩	1/1	18.9	9.5	3.5	71.2	
133	漂浮	變質山岩	1/1	10.9	6.7	3.1	90.0	
134	漂浮	變質山岩	1/1	3.2	6.7	4.7	57.0	
135	漂浮	變質山岩	1/1	7.5	5.3	3.8	186.8	

No.	種別	岩層	底 層	中 層	頂 層	地 質	地 質	地 質
1	深成侵蝕	-	5.6	(1.6)	3.7	黑色變色岩	1/1	黑色變色岩
2	土壤變	土	13.4	4.4	3.7	黑色變色岩	1/1	黑色變色岩
3	土壤變	土	16.8	7.0	6.4	黑色變色岩	1/1	黑色變色岩
4	土壤變	土	13.4	5.0	4.3	黑色變色岩	1/1	黑色變色岩
5	土壤變	土	15.2	7.4	6.1	黑色變色岩	1/1	黑色變色岩
6	土壤變	土	13.4	5.3	4.3	黑色變色岩	1/1	黑色變色岩
7	土壤變	土	12.8	5.2	4.3	黑色變色岩	1/1	黑色變色岩

9 土地園 所	12.7	6.2	牧父一葉色地切	後藤山形朱切り (L)	六合美樹 後金美樹	1.16 - 1.40 - 2.08
10 七浦園 所	13.7	8.8	牧父一葉色地切	クロロゲン・感應地切 (W)	1.05 - 1.40 - 2.08	
11 七浦園 所	-	11.8	4.1	牧父一葉色地切	1.12ロジナード・感應地切 (L)	後金美樹 - 1.38
12 七浦園 所	-	10.4	8.1	七浦園 ドラ	1.12ロジナード・感應地切 (L)	後金美樹 - 1.38
13 七浦園 所	-	11.2	9.9	クロロゲン	1.12ロジナード・感應地切 (L)	後金美樹 - 1.38
14 七浦園 所	-	23.0	8.7	(13.2) 海部ヘリテイヨウヨウゲ	1.12ロジナード・感應地切 (L)	後金美樹 - 1.38
15 小野屋 所	21.0	10.0	2.4	クロロゲン	1.12ロジナード・感應地切 (L)	後金美樹 - 1.38
16 磐 鮎 所	4.4	1.6	感應地切	感應地切 (L)	1.12ロジナード・感應地切 (L)	後金美樹 - 1.38
17 磐 鮎 所	11.1	12.6	6.9	感應地切	感應地切 (L)	後金美樹 - 1.38
18 磐 鮎 所	11.1	12.6	6.9	感應地切	感應地切 (L)	後金美樹 - 1.38
19 土地園 所	14.8	-	感應地切	感應地切 (L)	後金美樹 - 1.38	204
第15块 H3.5号住居地出土植物根莖类						
No.	科名	花	果	茎	葉	外 觀
1	土地園 所	11(20) 15.0	-	(5.0)	ミキモ一葉色地切	17クリナード
2	土地園 所	-	-	-	ハクチバ	感應地切 (L)
3	土地園 所	8.0	-	(2.2)	ミキモ一葉色地切	感應地切 (L)
4	土地園 所	14.2	-	(5.0)	ミキモ一葉色地切	感應地切 (L)
5	土地園 所	8.0	-	(2.8)	クロロゲン	感應地切 (L)
6	土地園 所	25.3	-	(13.9)	ミキモナード一葉色地切	感應地切 (L)
第16块 H4.1号住居地出土植物根莖类						
No.	科名	花	果	茎	葉	外 觀
1	1.058	8.2	-	(1.2)	ミキモ一葉色地切	17クリナード
2	1.058	12.8	5.9	3.8	ミキモ一葉色地切	17クリナード
3	1.058	27.0	-	(7.0)	クロロゲンハカルナダ (L)	感應地切 (L)
4	1.058	26.6	-	(10.8)	クロロゲンハカルナダ (L)	感應地切 (L)
5	1.058	27.0	-	-	ミキモナード	感應地切 (L)
第17块 H5.5号住居地出土植物根莖类						
No.	科名	花	果	茎	葉	外 觀
1	新種植物	11.0	6.2	(1.9)	クロロゲン	感應地切 (L)
2	新種植物	15.8	2.5	6.1	クロロゲン	クロロゲン・感應地切 (L)
3	新種植物	-	6.7	(2.0)	クロロゲン	感應地切 (L)
4	新種植物	-	12.4	(3.7)	クロロゲン	感應地切 (L)
5	新種植物	16.0	-	(2.0)	ミキモナード	感應地切 (L)
6	新種植物	12.6	7.3	3.9	ミキモナード	感應地切 (L)
7	1.058	12.4	8.6	3.8	1.12ロジナード	感應地切 (L)
8	1.058	12.8	6.8	2.4	1.12ロジナード	感應地切 (L)
9	1.058	13.4	5.5	3.8	ミキモ一葉色地切	1.12ロジナード
10	1.058	12.2	5.5	4.4	ミキモ一葉色地切	1.12ロジナード
11	1.058	12.0	4.8	3.7	ミキモ一葉色地切	1.12ロジナード
12	1.058	14.7	6.7	4.9	ミキモ一葉色地切	1.12ロジナード
13	1.058	12.2	6.7	4.0	ミキモ一葉色地切	1.12ロジナード
14	1.058	12.8	5.1	4.2	ミキモ一葉色地切	1.12ロジナード
15	1.058	13.2	6.8	4.3	ミキモ一葉色地切	1.12ロジナード
16	1.058	13.2	4.4	4.3	ミキモ一葉色地切	1.12ロジナード
17	1.058	13.6	5.6	4.1	ミキモ一葉色地切	1.12ロジナード
18	1.058	12.0	4.8	3.9	ミキモナード	感應地切 (L)
19	1.058	14.8	-	(1.7)	1.12ロジナード	感應地切 (L)
第18块 H5.5号住居地出土植物根莖类						
No.	科名	花	果	茎	葉	外 觀
1	新種植物	11(20) 15.0	-	感應地切	感應地切 (L)	後金美樹
2	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
3	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
4	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
5	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
6	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
7	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
8	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
9	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
10	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
11	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
12	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
13	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
14	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
15	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
16	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
17	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
18	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹
19	新種植物	-	-	-	感應地切 (L)	後金美樹

9	上地	井	12.7	6.0	3.5	ミヅキ	コロナリ・ 「遠前川を走るアゲハ」
10	上地	井	12.5	6.7	3.4	ミヅキ	コロナリ・ 「遠前川を走るアゲハ」
11	上地	井	12.4	6.8	4.3	ミヅキ・ 黒色斑	コロナリ・ 「遠前川を走るアゲハ」
12	上地	井	12.5	6.1	3.6	ミクロナリ	ミヅキナリ・ 「遠前川を走るアゲハ」
13	土地	井	24.4	—	(6.7)	ミヅキヨシテ・ 「遠前川を走るアゲハ」	ロクコロナリ
14	土地	井	11.3	—	(11.4)	ミヅキヨシテ・ 「遠前川を走るアゲハ」	ミヅキナリ
15	上地	井	—	3.0	(7.8)	ミヅキナリ	ミヅキナリ
16	上地	井	—	8.0	(6.6)	ミクロナリ	ミヅキナリ
17	上地	井	—	2.5	(20.9)	ミヅキナリ	ミヅキナリ
18	上地	井	22.8	—	(14.3)	ミヅキナリ	ミヅキナリ
19	土地	井	—	—	—	ミヅキナリ	ミヅキナリ
20	上地	井	—	—	—	ミヅキナリ	ミヅキナリ
21	十郎原	井	—	—	—	ミヅキナリ	ミヅキナリ
22	上地	井	—	—	—	ミヅキナリ	ミヅキナリ
23	土地	井	—	—	—	ミヅキナリ	ミヅキナリ
24	上地	井	—	—	—	ミヅキナリ	ミヅキナリ
25	下地	井	60.7	—	—	ミヅキナリ	ミヅキナリ
26	下地	井	60.7	—	—	ミヅキナリ	ミヅキナリ
27	こも石	井	—	—	—	ミヅキナリ	ミヅキナリ

第12表 H8号付見出上遊物相続表

No.	種別	品種	形態	内	外	根	葉	花	果	根	葉	花	果	出力耕種
1	木本植物	木	14.7	6.0	5.5	ミクロナリ	ミヅキナリ	1cm						
2	木本植物	木	15.6	(4.6)	—	ミクロナリ	ミヅキナリ							
3	木本植物	木	10.9	4.7	—	ミヅキナリ	0.5m							
4	木本植物	木	9.2	(4.2)	—	ミクロナリ	ミヅキナリ	0.5m						
5	木本植物	木	12.9	—	(4.6)	ミクロナリ	ミヅキナリ	0.5m						
6	木本植物	木	20.2	—	(12.1)	ミクロナリ	ミヅキナリ	0.5m						
7	木本植物	木	—	—	(11.1)	ミクロナリ	ミヅキナリ	0.5m						
8	木本植物	木	—	—	(11.0)	ミクロナリ	ミヅキナリ	0.5m						
9	木本植物	木	—	—	—	ミヅキナリ	0.5m							
10	木本植物	木	—	—	—	ミヅキナリ	0.5m							
11	木本植物	木	—	—	—	ミヅキナリ	0.5m							
12	木本植物	木	—	—	—	ミヅキナリ	0.5m							
13	木本植物	木	—	—	—	ミヅキナリ	0.5m							
14	木本植物	木	—	—	—	ミクロナリ	ミヅキナリ	0.5m						

15. 士地踏	16.	12.0	5.0	3.5	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
16. 牛脚踏	17.	11.9	5.3	3.4	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
17. 牛脚踏	18.	14.5	6.7	5.9	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
18. 牛脚踏	19.	12.0	5.5	3.5	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
19. 牛脚踏	20.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
20. 牛脚踏	21.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
21. 牛脚踏	22.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
22. 牛脚踏	23.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
23. 牛脚踏	24.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
24. 牛脚踏	25.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
25. 牛脚踏	26.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
26. 牛脚踏	27.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
27. 牛脚踏	28.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
28. 牛脚踏	29.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
29. 牛脚踏	30.	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り(?)	ツクシ	ツクシ
第22表 H10年度出止上等物園野生长								
No.	種別	品種	法	規	法	規	品種	川土の面
1.	苗脚踏	片	—	6.6	(1.6)	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
2.	牛脚踏	片	13.0	6.4	3.2	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
3.	牛脚踏	脚	10.2	7.6	10.2	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
4.	牛脚踏	脚	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
5.	牛脚踏	脚	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
第23表 H11年度出止上等物園野長								
No.	種別	品種	法	規	法	規	品種	川土の面
1.	苗脚踏	片	—	6.6	(1.6)	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
2.	牛脚踏	片	8.6	(2.6)	3.6	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
3.	牛脚踏	片	14.2	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
4.	牛脚踏	脚	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
5.	牛脚踏	脚	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
第24表 H12年度出止上等物園野長								
No.	種別	品種	法	規	法	規	品種	川土の面
1.	牛脚踏	片	—	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
2.	牛脚踏	脚	7.9	—	—	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
3.	牛脚踏	脚	12.2	5.6	3.6	ミガキ	ミガキ	ツクシ
4.	牛脚踏	脚	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ツクシ
5.	牛脚踏	脚	11.9	5.8	3.1	ミガキ	ミガキ	ツクシ
6.	牛脚踏	脚	12.3	6.3	3.2	ロクロコトデ	ロクロコトデ—薄葉切葉系切り	ツクシ
7.	牛脚踏	脚	14.7	7.6	6.1	フサゲ	ロクロコトデ	ツクシ
8.	牛脚踏	脚	—	—	—	ナデ	ロクロコトデ	ツクシ
9.	牛脚踏	脚	—	—	—	ナデ	ロクロコトデ	ツクシ
10.	牛脚踏	脚	—	—	—	ナデ	ロクロコトデ	ツクシ
11.	脚踏	脚	—	—	—	ナデ	ロクロコトデ	ツクシ
12.	脚踏	脚	—	—	—	ナデ	ロクロコトデ	ツクシ

第25表 H13号生産出土壤物質要素表

No.	種別	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)
1	腐葉層	灰	14.0 65 11.0 65	4.2 4.2	4.2 4.2	4.2 4.2	4.2 4.2	4.2 4.2
2	腐泥層	灰	13.2 5.8 12.8 5.8	5.1 5.1	—	—	—	—
3	新根層	灰	12.8 5.8 12.9 6.0	4.2 4.2	—	—	—	—
4	根出層	灰	—	—	—	—	—	—
5	根出層	灰	—	—	—	—	—	—
6	土壌層	灰	11.8 5.8 11.8 5.8	2.6 2.6	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
7	土壌層	灰	11.8 5.8 11.8 5.8	2.6 2.6	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
8	土壌層	灰	13.1 5.9 13.1 5.9	2.1 2.1	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
9	土壌層	灰	14.0 6.7 14.0 6.7	6.0 6.0	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
10	土壌層	灰	14.3 6.3 14.3 6.3	4.8 4.8	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
11	土壌層	灰	11.6 5.4 11.6 5.4	— (7.9)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
12	土壌層	灰	22.9 — 22.9 —	— (7.9)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
13	土壌層	灰	21.0 — 19.6 —	— (7.9)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
14	土壌層	灰	19.0 — 19.0 —	— (11.0)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
15	土壌層	灰	19.8 — 17.5 —	— (17.5)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
16	土壌層	灰	76.9 — 76.9 —	— (9.4)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
17	土壌層	灰	— 4.7 — 4.7	— (9.4)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
18	土壌層	灰	— 7.7 — 7.7	— (9.4)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ

No.	種別	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形
1	上部層	灰	14.0 7.0 14.0 7.0	3.5 3.5	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
2	上部層	灰	12.0 5.9 12.0 5.9	3.9 3.9	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
3	上部層	灰	10.8 6.0 10.8 6.0	4.2 4.2	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
4	上部層	灰	13.3 — 13.3 —	— (9.8)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
5	上部層	灰	22.0 — 22.0 —	— (9.1)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
6	上部層	灰	— 7.5 — 7.5	— (7.5)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ

No.	種別	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形
1	上部層	灰	11.8 5.0 11.8 5.0	3.8 3.8	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
2	上部層	灰	— 11.6 — 11.6	— 11.6	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
3	上部層	灰	— 12.0 — 12.0	— 12.0	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
4	上部層	灰	— 7.5 — 7.5	— 7.5	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ

No.	種別	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形	液 形 (1)液形(充填率) (2)液形(充填率)	固 形
1	腐葉層	灰	8.0 8.0	— (3.5)	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
2	腐泥層	灰	— 11.6 — 11.6	— 11.6	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
3	新根層	灰	— 12.0 — 12.0	— 12.0	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
4	根出層	灰	— 7.5 — 7.5	— 7.5	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ
5	根出層	灰	— 25.1 — 25.1	— 25.1	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ	ミガナ ミガナ

— 69 —

第30表 H18号付印出上遺物図録表										
No.	種別	器 特	性 種	量	所 在					出土地面
					内	外	高	幅	厚	
4	陶文	骨盆	—	—	—	—	—	—	—	第2-3・4号多量に有する地文
5	陶文	高脚	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
6	乳文	高脚	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
7	陶文	骨盆	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
8	陶文	骨盆	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
9	石器	砾石	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
10	石器	砾石	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
11	石器	砾石	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
12	砾石	砾石	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
13	合計	—	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
第31表 土器出土上遺物図録表										出土地面
No.	種別	器 特	性 種	量	内	外	高	幅	厚	出土地面
1	土器器	瓶	17件(16件+1件の付)	—	—	—	—	—	—	第2-3号
2	土器器	瓶	11件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
3	土器器	瓶	6件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
4	土器器	瓶	1件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
5	土器器	瓶	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
6	土器器	瓶	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
7	土器器	瓶	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
8	土器器	瓶	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
9	陶文	深杯	26件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
10	陶文	深杯	33件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
11	陶文	深杯	21件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
12	陶文	深杯	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
13	陶文	深杯	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
14	陶文	深杯	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
15	陶文	深杯	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
16	陶文	深杯	—	—	—	—	—	—	—	第2-3号
17	土器器	盆	1件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
18	打製石	石斧	3件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
19	骨盆	花崗岩	24件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
20	砾石	花崗岩	139件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
21	打製石	花崗岩	7件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
22	打製石	花崗岩	3件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
23	石器	花崗岩	2件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
24	打製石	花崗岩	2件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
25	打製石	花崗岩	1件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
26	打製石	花崗岩	95件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
27	砾石	花崗岩	114件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
28	打製石	花崗岩	50件	—	—	—	—	—	—	第2-3号
29	砾石	花崗岩	63件	—	—	—	—	—	—	第2-3号

No.	類別	基 因	導 向	遺 傳 基 因	遺 傳 基 因		內 部 形 質	外 部 形 質	成 形 方 法		性 別	年 齡	性 別	年 齡	性 別	年 齡	
					雄性	雌性			雄性	雌性							
1	斧介	絲	—	3.8	—	—	三叶牙、小触角形	—	3叶牙、小触角形	—	3叶牙、小触角形	—	2-5月	幼体	2-5月	幼体	2-5月
2	翅文	脉卦	—	—	—	—	翅文(脉卦)	—	翅文(脉卦)	—	翅文(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
3	端文	脉卦	—	—	—	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
4	端文	脉卦	—	—	—	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
5	端文	脉卦	—	—	—	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
6	前文	脉卦	—	—	—	—	前文(脉卦)	—	前文(脉卦)	—	前文(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
7	前文	脉卦	—	—	—	—	前文(脉卦)	—	前文(脉卦)	—	前文(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
8	端文	脉卦	—	—	—	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
9	端文	脉卦	—	—	—	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	端文(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
10	后端	脉卦	—	—	—	—	后端(脉卦)	—	后端(脉卦)	—	后端(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
11	后端	脉卦	—	—	—	—	后端(脉卦)	—	后端(脉卦)	—	后端(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)
12	后端	脉卦	—	—	—	—	后端(脉卦)	—	后端(脉卦)	—	后端(脉卦)	—	—	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)	成虫(成虫)

No.	種別	学名	通称	91-0282 ヒトドリ山植物園分類			所生地図
				日本名	英名	科	
1	苔類		苔類	—	—	無瓣	ヒトコブナ—ヒトコブナモ科
2	蕨類	シダ類	シダ類	シダ類	fern	シダ類	ヒトコブナ—シダ類
3	裸子植物	松	松	松	Pinus	松科	ヒトコブナ—松類
4	被子植物	草	草	草	grass	禾本科	ヒトコブナ—草類
5	木本	樹木	樹木	樹木	tree	木本科	ヒトコブナ—樹木
6	灌木	灌木	灌木	灌木	shrub	灌木科	ヒトコブナ—灌木
7	石垣	岩垣	岩垣	岩垣	rock wall	岩垣科	ヒトコブナ—岩垣
8	石	岩石	岩石	岩石	rock	岩石科	ヒトコブナ—岩石
9	水生植物	浮葉	浮葉	浮葉	water plant	水生植物科	ヒトコブナ—浮葉
10	草花	草花	草花	草花	herb	草花科	ヒトコブナ—草花
11	木花	花木	花木	花木	flowering tree	木花科	ヒトコブナ—木花
12	木	木	木	木	wood	木科	ヒトコブナ—木
13	竹	竹	竹	竹	bamboo	竹科	ヒトコブナ—竹
14	打陳	打陳	打陳	打陳	drum	打陳科	ヒトコブナ—打陳
15	打鼓	打鼓	打鼓	打鼓	drum	打鼓科	ヒトコブナ—打鼓
16	打鼓台	打鼓台	打鼓台	打鼓台	drum stand	打鼓台科	ヒトコブナ—打鼓台
17	打鼓池	打鼓池	打鼓池	打鼓池	drum pool	打鼓池科	ヒトコブナ—打鼓池
18	打鼓房	打鼓房	打鼓房	打鼓房	drum house	打鼓房科	ヒトコブナ—打鼓房

第3回									
第4回									
No.	标题	地名			地名			出亡位置	
		新潟小舟	蛇紋石	1/2 (6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
19	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
20	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
21	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
22	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
23	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
24	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
25	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
26	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
27	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
28	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
29	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
30	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
31	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
32	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
33	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
34	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
35	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
36	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
37	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
38	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
39	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
40	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
41	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
42	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
43	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11
44	新潟小舟	蛇紋石	1/2	(6.3)	(5.7)	(1.7)	(0.45)	完全失明	1-11

反田遺跡出土の縄文土器について -特に中期後葉「佐久系土器」について-

藤森英一

反田遺跡では、縄文時代前期初頭から前半、同じく中期後葉の土器が出土している。

まず前期初頭から前半ではIIII7号住居址、M1号溝状遺構、遺構外からの出土があり、胎土に纖維を多量に含んだ羽状縄文系土器が主体となる。いずれも前期初頭から前半に位置づけられるが、破片資料が多く細かな型式区分は難しい。但しIII7号住居址出土資料については、全体的に纖維の混入量が多く、さらに6では両脇に刻みのある高さのない隆帯（半隆帯か？）を持ち、8からは砲弾型の器形がうかがえるなど、東信地方で前期初頭に位置付けられる塚田式から中道式（賀出1999）と言えようか。さらに遺構外12についても刻み付きの隆帯と口唇部の刻みから、これに類するものとも考えられる。

またH1号住居址からはわずかに纖維を含み、竹管による文様を持った黒浜式に平行すると思われる資料が一点含まれている（87）。

これら以外の資料は全て中期後葉の土器となる。以下この時期の土器について詳しく見ていきたいが、前提として「佐久系土器」とした土器について説明を加えておく。

佐久地域における中期後葉土器研究の流れについて、ここで詳しく述べることは割愛するが、以前から地域的な特色は指摘されていた。特に1990年代以降は、資料の増加などを受け、より具体的な姿が論じられるようになった。総じてこれらでは、加曾利E式や曾利式の中に見いだされる独自性を持つ土器群の把握が問題とされている（百瀬1991・桜井2000・川崎2001・綿田2003・藤森2005等）。

この土器群について、いくつかの名称が提唱されているが、ここでは仮称「佐久系土器」とした（百瀬1991）。尚、その理由については藤森2007を参照して頂きたい。また、筆者はこの「佐久系土器」を以下のように定義している。

1. 口縁部文様帶は脣部に比べ肉厚な傾向があり、梢円+満巻状の印刻風の区画がされ、内部は鱗状あるいは直線の沈線で充填される。口唇部直下は比較的広い無文部を持つ。

2. 脣部は沈線または隆帯による区画を持ち、鱗状または絞杉状の沈線で充填される。

3. 器形はバケツ型あるいはキャリバー型で、平口縁か四単位の波状口縁となる。

本論でもこれに則して分類しているが、実際には曾利式などと区別が付き難い資料も多い。また後に述べる半と関連するように、資料増加による実績にあわせ、今後の修正も必要かとは考えている。

では実際に反田遺跡出土の土器を見ていこう。中期後葉土器は主にH1号住居址の櫛土中、あるいは埋甕として検出されたものである。概観すると加曾利E式と「佐久系土器」に曾利式が伴う構成である。土坑等出土の土器もほぼこれに準ずる。この傾向は近年調査され地理的にも近い佐久市（IHEI町）大奈良遺跡を含め、この時期の佐久地域北部の多くの遺跡と一致する。そこでここでは出土状況などから時期区分も試みられた大奈良遺跡の分析例（藤森2005）を参考に考察を加えていきたい。

まとまった量の出土を見た反田遺跡H1号住居址の資料は、加曾利E式では同Ⅲ式が多く、大奈良遺跡での後葉3段階（加曾利EⅢ式新段階から加曾利EⅢ式はじめ）～4段階（加曾利EⅢ式）に相当する。但し量的には同4段階に該当するものが多い（2~12・40・42~53等）。

一方「佐久系土器」も、上記の定義に当てはめると13~17・21~22・36・68~80等といったようく数多く存在する。さてこの「佐久系土器」は、大奈良遺跡では後葉3段階に多いものの、同2段階（加曾利EⅡ式中段階）と4段階にもわずかではあるが含まれ、さらにこれら自身による型式学的な分類は困難な状況であった。よって反田遺跡の資料を段階分けすることもまた困難であり、加えて本遺構でも少なくともレベルの記録からは両者は渾然とした出土状況にある。つまり本遺構出土の土器を一時期のものと捉えると、多くが大奈良遺跡後葉4段階に属するものと考えるのが一般的な見方である。

しかし、大奈良遺跡での相対的な量からすると、3段階に相当する土器が多数含まれるとも考えら

れる。さらに大奈良遺跡のみならず小諸市郷十遺跡の状況やその分析（桜井2000・川崎2001・綿田2003）を参考にすると、反出遺跡H1号住居址出土の土器は、「佐久系土器」が主になる時期（大奈良遺跡後葉3段階）と、加曾利E式が主体となる時期（同4段階）という時間差を持っていたといふ可能性も大いに考えられる。但しその場合、3基の埋甕については時期差を想定することも必要になる。

また、本遺跡ではこれまで不明瞭だった「佐久系土器」の終末に位置付けられそうな土器が出土していることを指摘しておく。すなわち20や59・64・66・67・85（加えて遺構外の8）等のように、口縁部文様体を失い、全体として曾利V式に似つつも、「佐久系土器」にあった鱗状沈線文が、縦位の沈線区画内に施された土器である。「佐久系土器」の終末については、これまでにも川崎氏や綿田氏が積極的に論じている（川崎2001・綿田2003）。しかし、曾利式や唐草文系土器、あるいは加曾利E式の終末期のものと対比した場合、これらとの峻別が難しい状況にあり、必ずしもその様相が明らかにされてはいなかった。上記の土器はこれらを補完する資料と言えはしないか。先に記した「佐久系土器」に対する定義とは異なる部分もあるが、型式学的にこれらを「佐久系土器」の終段階に置くことは可能と考えられる。但し、本遺跡では層位的にこれを証明出来ていないことは繰り返しておきたい。

なおこれらの資料に対し、存知の土器として最も共通点の多いのは曾利V式である。この曾利V式と加曾利E式の平行関係の捉え方によって時間的位位置付けに相違もあるようだが、H1号住居址でも出土量の多い大奈良遺跡後葉4段階（加曾利E式期）か、あるいはそれ以降に位置付ける事も想定でき、「佐久系土器」の系譜が中期の終末まで続く事も可能性としては浮上する。その意味では、31のような曾利V式を中期終末の土器とするか、本遺跡で大多数を占めるこれ以前のものと捉えるのかが、今後改めて重要な意味を持つと言える。

いずれにせよ、本遺跡の資料についても、今後「佐久系土器」をひとつの土器型式（郷土式土器・桜井2000）として認識出来るか否かの検討材料としていきたい。

主な引用・参考文献

- 百瀬忠幸1991「吹付遺跡」「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐久市内その2」長野県埋蔵文化財センター
綿田弘実1997「绳文土器について」「竜沢遺跡」御代田町教育委員会
賛田 明1999「長野県に於ける縄文前期初頭の様相」「縄文上流論集・縄文セミナー10周年記念論文集・縄文セミナーの会
本橋忠美子2000「宮平遺跡の縄文土器」「宮平遺跡」御代田町教育委員会
桜井秀雄2000「郷戸遺跡」「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書19・小諸市内」長野県埋蔵文化財センター
川崎 保2001「駒込遺跡」「県単農道整備事業(ふるさと) 大野田地区埋蔵文化財発掘調査報告書 浅科村内」長野
県埋蔵文化財センター
綿田弘実2003「長野県千山川流域の縄文中期後葉土器群」「第16回縄文セミナー 中期後半の再検」縄文セミナーの会
藤森英二2005「大奈良遺跡出土の縄文中期後葉土器について」「佐久市埋蔵文化財調査報告書第131集 大奈良遺跡」
白田町・佐久市教育委員会
藤森英二2007「「佐久系土器」と呼ばれる土器 主にその呼称について」「佐久考古通信No.98」佐久考古学会

反田遺跡出土の甲斐型土器について

今回の調査では平安時代を中心に5軒の住居址からいわゆる甲斐型土器が出土した。器種は甕・小型甕・壺であり、住居址の年代は10世紀前半を中心とする。ここでは近年資料の蓄積がなされつつある佐久地域出土の甲斐型土器について若干のまとめをおこなってみたい。

佐久地域において甲斐型土器が出土している遺跡は把握できたものとして別表15遺跡である。出土が集中する遺跡としては今回の反田遺跡と聖原遺跡があるが、遺跡規模から調査住居軒数と出土軒数で比較すると出土出現率は聖原遺跡の1%に比し、反田遺跡が35%であり当遺跡の特殊性が伺える。ただ、この出土量については南佐久郡内において大規模な調査事例が少なく、小海町兩堤遺跡においても1軒の住居址から5点の甲斐型壺が出土しており、山梨県側に近いという地理的要因だけの理由も考えられる。

次に出土遺跡の分布であるが、佐久地域も從来からの「甲斐型土器は古代官道や街道に沿った分布」という指摘通り、南佐久の川上村信州峠（小尾道）直下の横尾遺跡に始まり、小海の兩堤遺跡、今回の反田遺跡と千曲川をドリ、野沢平の辻遺跡、そのまま千曲川を渡河し仙北佐久郡内に入る。先に触れた聖原遺跡周辺にいくつかの分布があり、北限は小諸市の関口B遺跡である。そして、関口B遺跡の先には浅間山麓を通過する「東山道」がある。このルートは起点の信州峠が異なるがまさしく旧佐久甲州街道と重なっている。また、反田遺跡は東山道推定ルートから約16km（30里）の位置にあり興味を持たれる。話題はやや飛躍したが、佐久平における甲斐型土器の分布は古代の街道を示唆するものであり、佐久経由で東山道と甲斐国府をつなぎ、その先の「甲斐路」を経て東海道へ繋がる古代の「中部横断道」の様な位置づけができる。

ただここで疑問なのは、東山道との連絡ルートを考えた場合、都に近い諏訪・富士見経由の方が活用利点がありそうである。現に東海道に属する甲斐国の人京人が帰郷する際に東山道を使っていた資料があり、その理由として当時活動が活発であった富士山の噴火が上げられている。では「佐久路」はいかなる理由により必要であったのか。現時点を考えられるのは律令国家による「東北経営」つまり蝦夷との関係である。信濃も甲斐も鎮兵の派遣や俘囚の受け入れで当時大きな役割を果たしている。甲斐より東北派遣の場合にこの「佐久路」が使われたのではないだろうか。現時点では推測の域を出ないが一考の余地があるようと考えられる。

以上、佐久地域の甲斐型土器の出土について若干の考察を加えた。しかし、長野県全体での分布や時期による器種変化など本来の基礎整理作業がなされていない部分の方が多く、包括的な考察は別稿にゆだね、雑誌ではあるが本稿のまとめとしたい。なお、紙面の都合で参考文献は割愛した。

行政区名	番号	遺跡名	遺跡名	出土品種	土器の年代	遺跡位置	備考
川上村 御所平	1	横尾遺跡	H11号住居址	小型甕?		平安	信州経由下
	2	草切遺跡	古窯	甕			
小海町 貳沢	3	佐佐助門遺跡	H11号住居址	甲斐型		平安	
	4	聖原遺跡	H11号住居址	甕		平安	郊5点
小海町 小海	5	八の森井沢遺跡	H11号住居址	甕		平安	
	6	月夜平遺跡	H11号住居址	甲斐型		平安	佐久平は謎文
下小町 下小町切	7	反田遺跡	H15号住居址	聖原式甕	10世紀後半	10世紀後半	3点
			H17号住居址	聖原式甕	10世紀後半	10世紀後半	6点
佐久市 野沢	8	辻遺跡	H19号住居址	小型甕?	10世紀後半	10世紀後半	2点
	9	聖原遺跡	H12号住居址	甕	10世紀後半	10世紀後半	
佐久市 飯和	10	宮の上遺跡	H14号住居址	甕	10世紀後半	10世紀後半	
	11	東大門先遺跡Ⅱ	H14号住居址	甕	8世紀末から9世紀初頭	9世紀前半	
岩村田	12	聖原遺跡	H25号住居址	甕	9世紀前半	8世紀後半	
			H115号住居址	甕		10世紀後半	
長十上 長十上	13	長十上遺跡群	H4号上	甕	8~9世紀	平安	
			H183号住居址	甕		10世紀前半	
小海町 森山	14	トヨ根遺跡	H1230号住居址	小型甕・甕	10世紀前半	10世紀前半	
	15	H15号住居址	H346号住居址	小型甕	8世紀IV~9世紀初頭		
			H380号住居址	甕	9世紀前半	9世紀前半	波文多文字資料
			H1589号住居址	甕	9世紀前半	8世紀IV~9世紀初頭	
			H610号住居址	甕	8世紀末から9世紀初頭	9世紀前半	
			H1612号住居址	甕	8世紀前半	8世紀前半	
			H183号住居址	甕	8世紀前半	8世紀前半	
			H59号住居址	甕	8世紀末から9世紀初頭	9世紀前半	
			H11号住居址	甕	8世紀前半	8世紀前半	



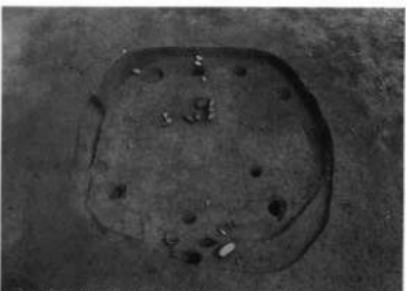
第50図 佐久地域の甲斐型土器出土道路分布図

※前項書の甲斐型土器の年代については(財)山梨文化財研究所 平野 修氏に御教示いただいた。

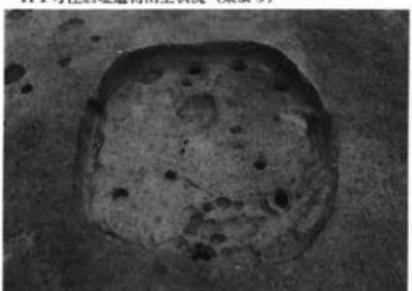
※脱稿後、佐久穂町小山寺道跡より甲斐型甕と考えられる土器が平安住居址より出土している事を知り分布図に載せた。本道跡出土の甕が甲斐型とすると出土道路は16道路となる。



H1号住居址遺物出土状況（東より）



H1号住居址全景（東より）



H1号住居址配置方全景（東より）



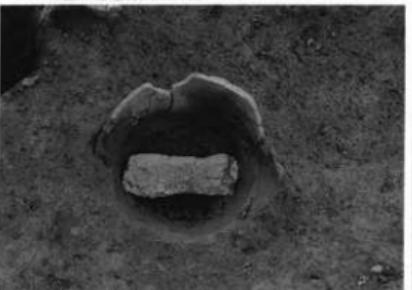
H1号住居址炉全景（東より）



H1号住居址遺物出土状況



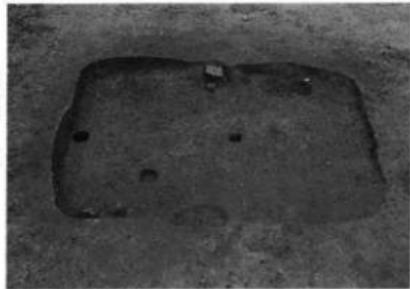
H1号住居址遺物出土状況



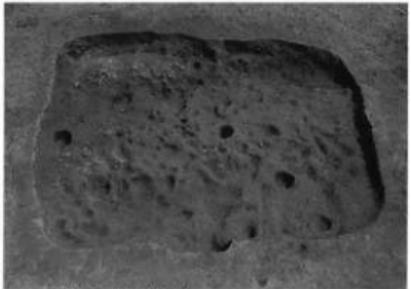
H1号住居址埋甌



H1号住居址埋甌



H2号住居址全景



H2号住居址掘り方全景



H2号住居址カマド全景



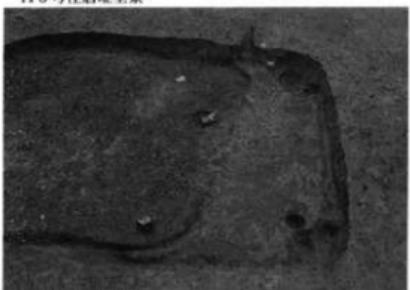
H2号住居址遺物出土状況



H3号住居址全景



H3号住居址掘り方全景



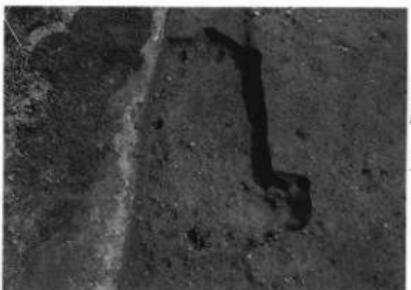
H6号住居址全景



H6号住居址掘り方全景



H4号住居址全景



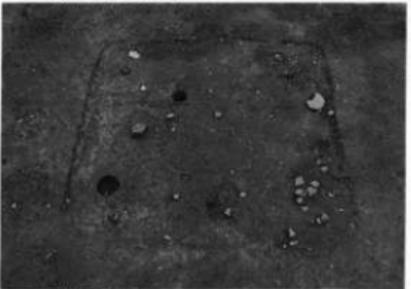
H4号住居址掘り方全景



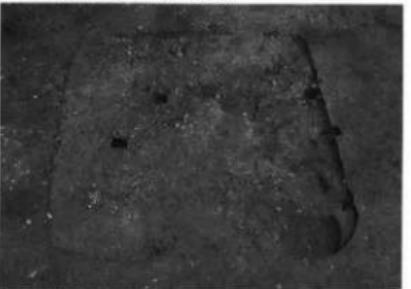
H4号住居址カマド全景



H4号住居址カマド掘り方全景



H5号住居址全景



H5号住居址掘り方全景



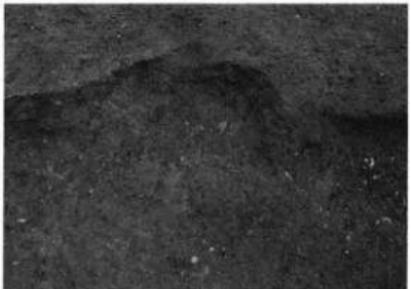
H5号住居址カマド全景



H5号住居址遺物出土状況



H7号住居址全景



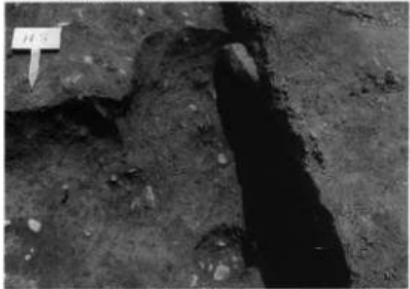
H7号住居址カマド全景



H8号住居址全景



H8号住居址カマド全景



H8号住居址カマド掘り方全景



H8号住居址遺物出土状況



H10号住居址全景



H10号住居址掘り方全景



H9号住居址全景



H9号住居址掘り方全景



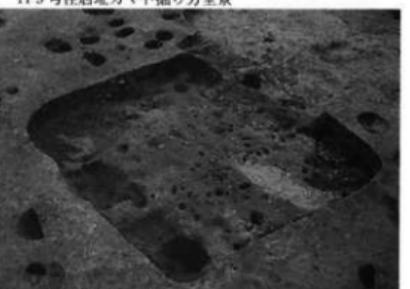
H9号住居址カマド全景



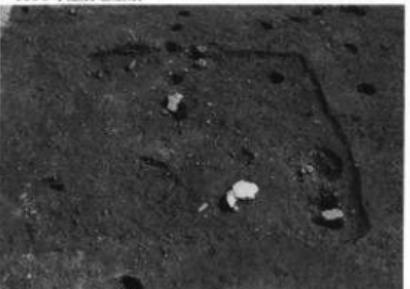
H9号住居址カマド掘り方全景



H11号住居址全景



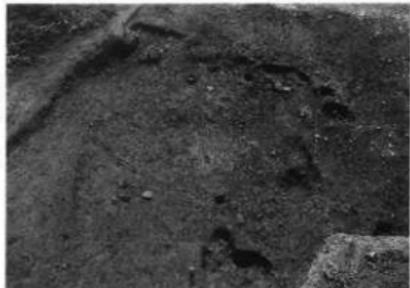
H11号住居址掘り方全景



H13号住居址全景



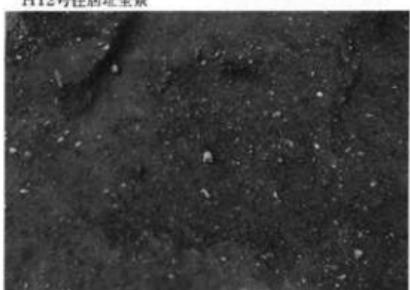
H13号住居址カマド掘り方全景



H12号住居址全景



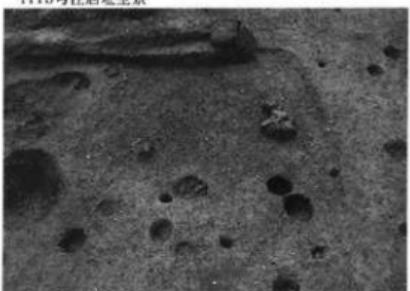
H14号住居址全景



H15号住居址全景



H16号住居址全景



H17号住居址全景



H17号住居址遺物出土状況



H18号住居址全景



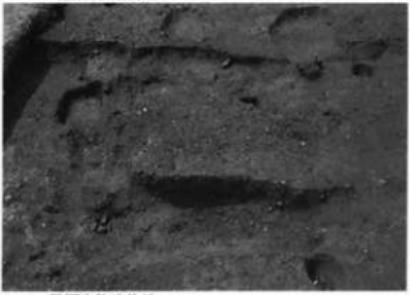
調査風景



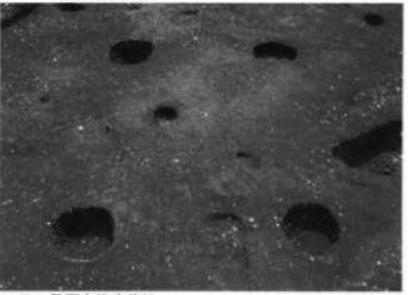
F 1号掘立柱建物址



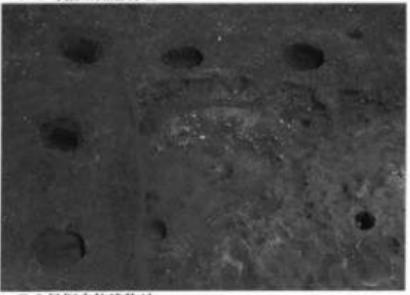
F 1号掘立柱建物址



F 2号掘立柱建物址



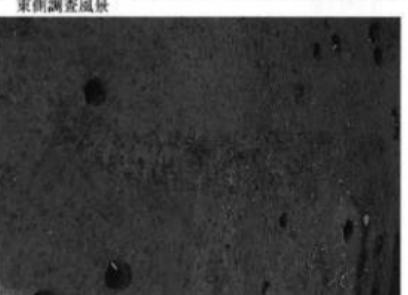
F 4号掘立柱建物址



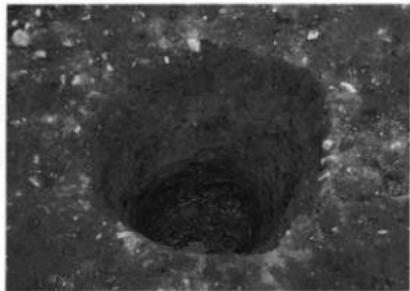
F 3号掘立柱建物址



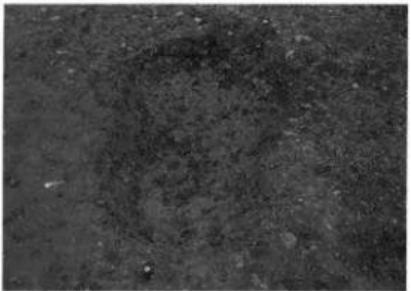
M 1号溝状遺構



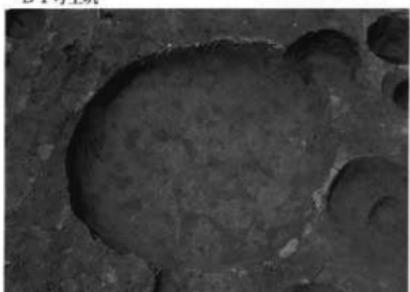
M 2号溝状遺構



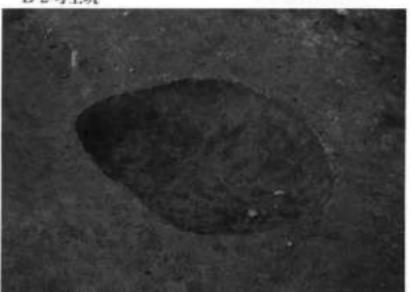
D 1号土坑



D 2号土坑



D 3号土坑



D 4号土坑



D 5号土坑



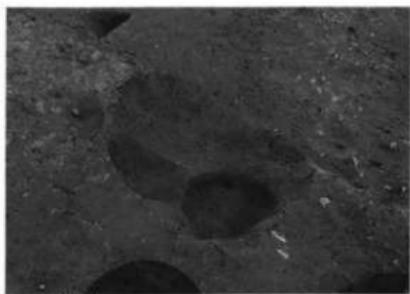
D 6号土坑



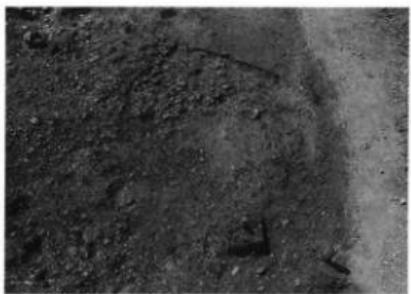
D 7号土坑



D 8号土坑



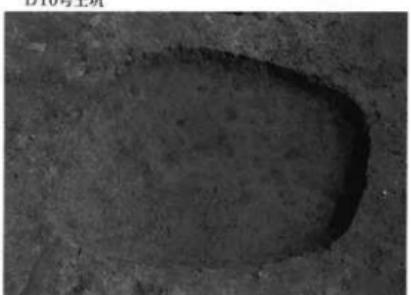
D9号土坑



D10号土坑



D11号土坑



D12号土坑



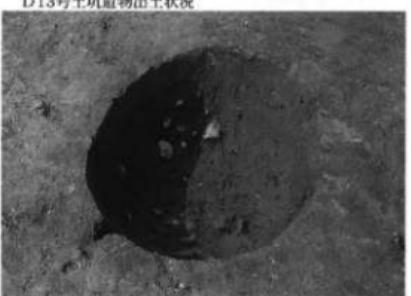
D13号土坑



D13号土坑遺物出土状況



D14号土坑



D15号土坑



D16号土坑



D17号土坑



D18号土坑



D19号土坑



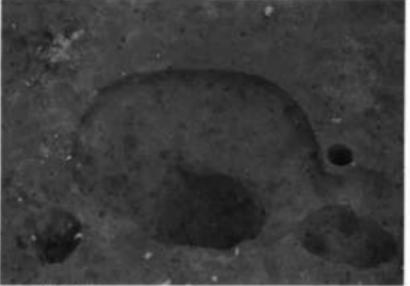
D19号土坑遺物出土狀況



D20号土坑



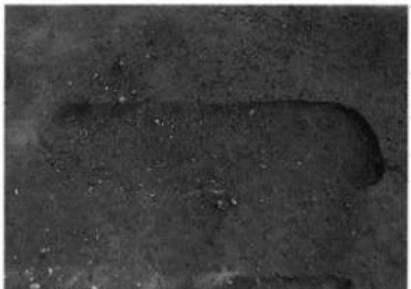
D21号土坑



D22号土坑



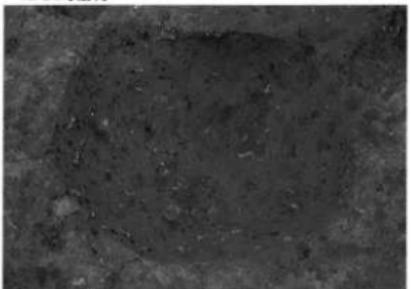
D23号土坑



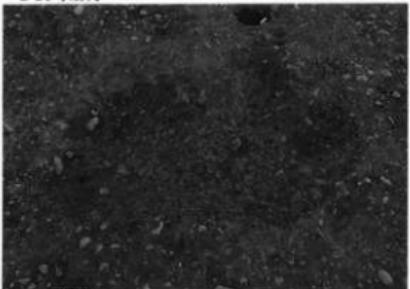
D24号土坑



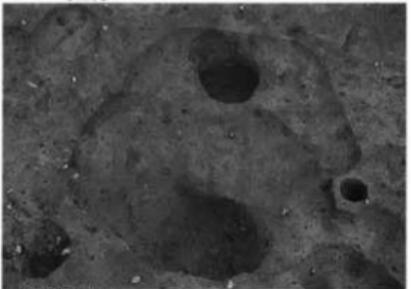
D25号土坑



D26号土坑



D27号土坑



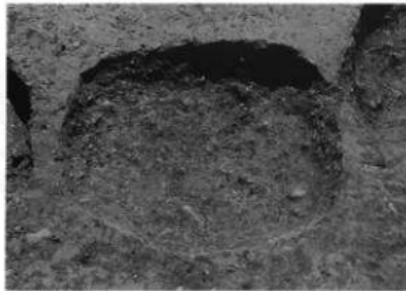
D28号土坑



D29号土坑



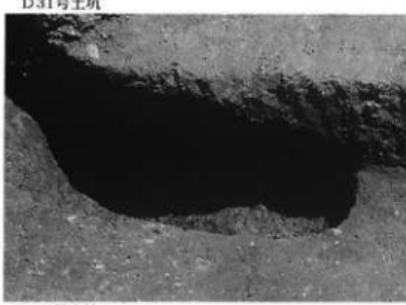
D30号土坑



D31号土坑



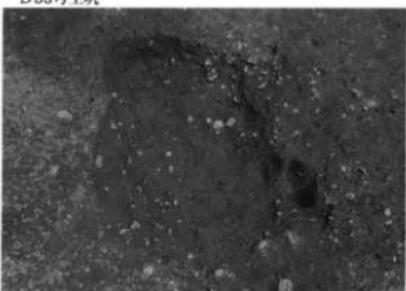
D32号土坑



D33号土坑



D34号土坑



D35号土坑



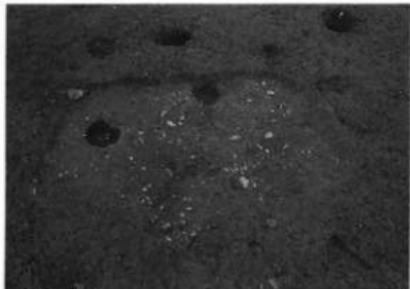
D36号土坑



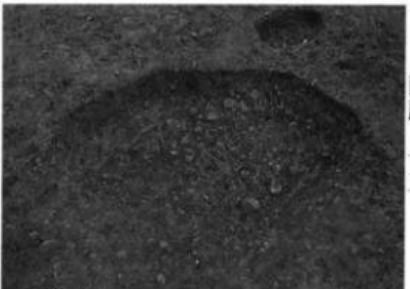
D37号土坑



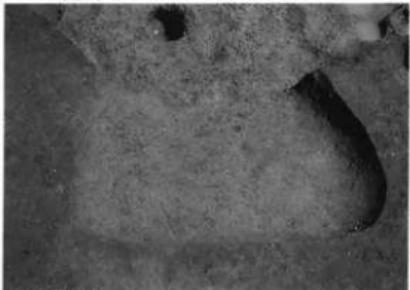
D38号土坑



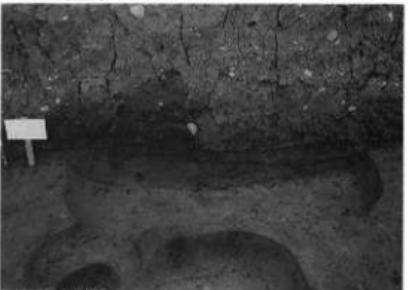
D 39号土坑



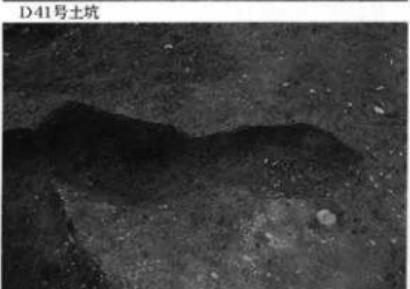
D 40号土坑



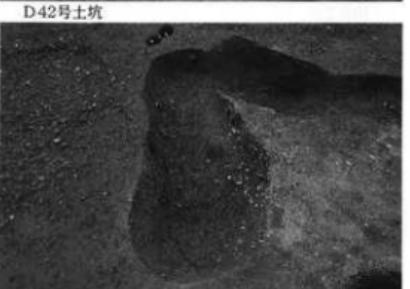
D 41号土坑



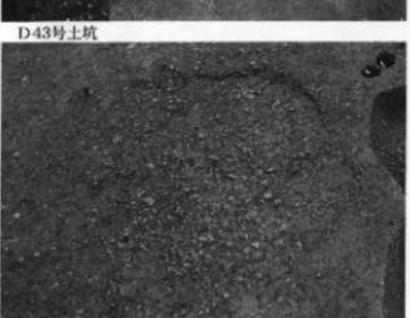
D 42号土坑



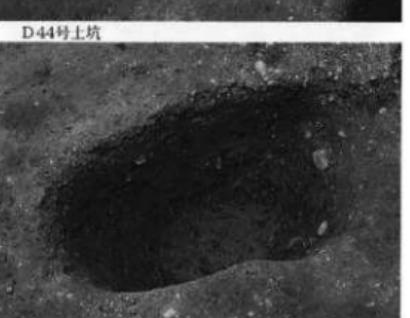
D 43号土坑



D 44号土坑



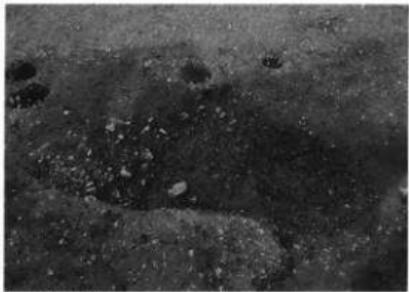
D 45号土坑



D 46号土坑



D 47号土坑



D 49号土坑



D 48号土坑

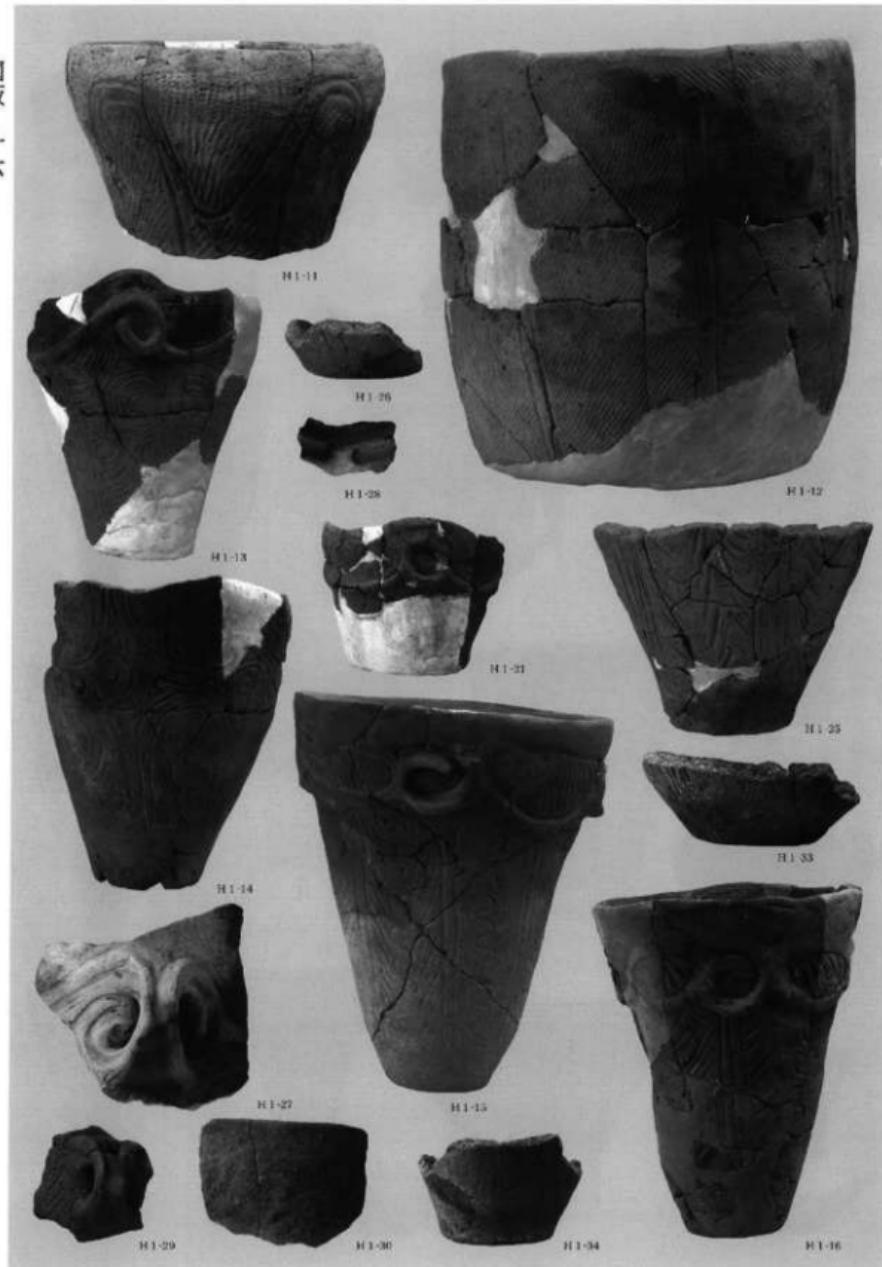


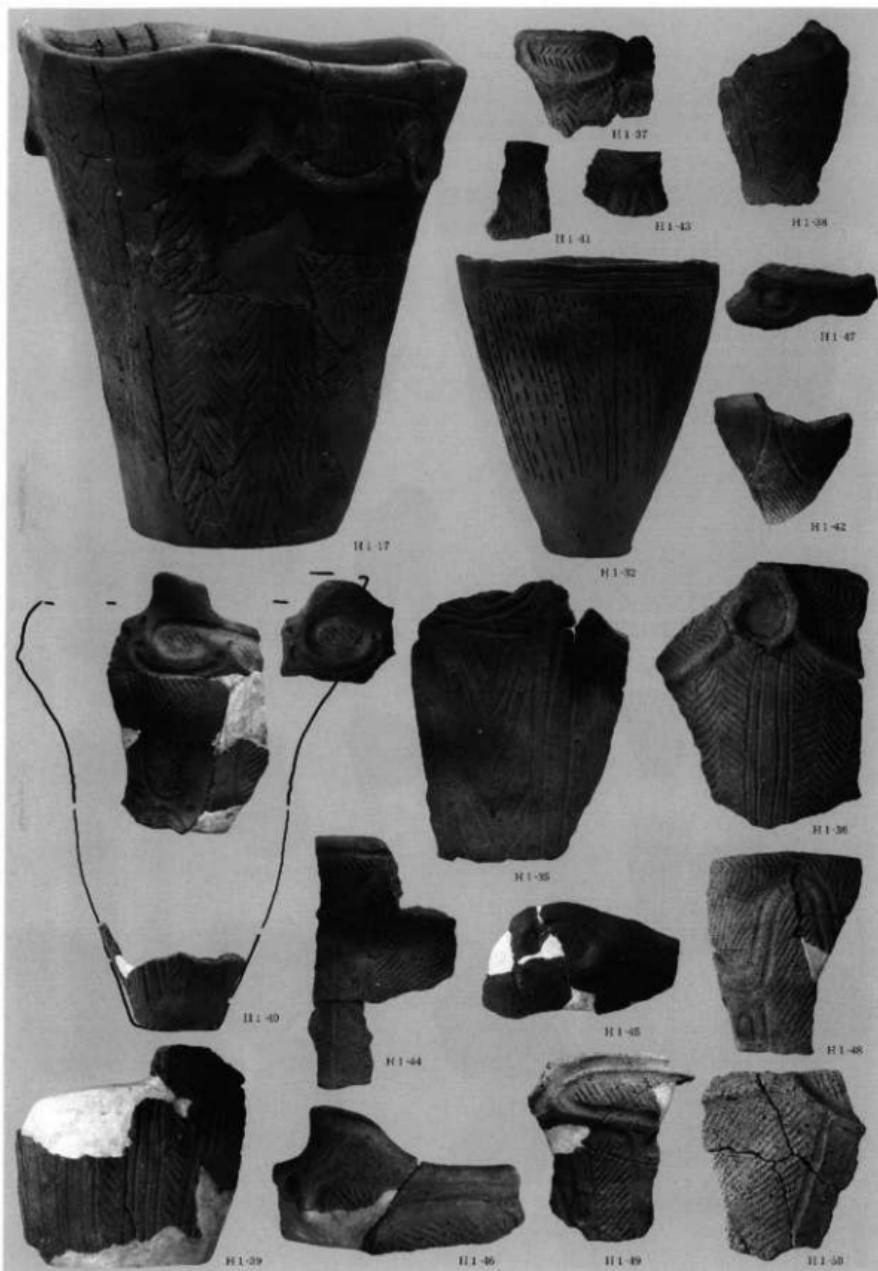
H 2号住居址調査施設

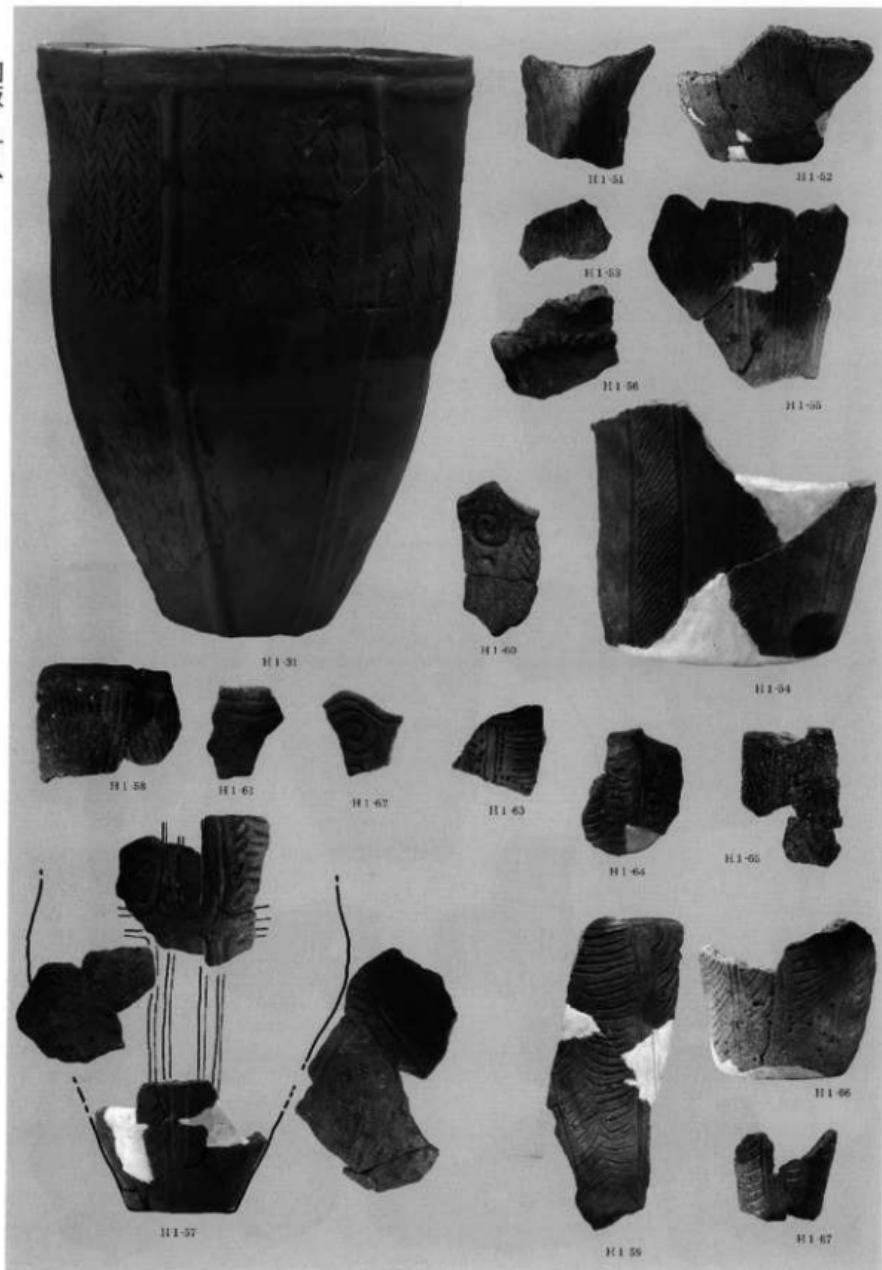


反田遺跡調査区遠景 (東より、矢印部分が調査地点)

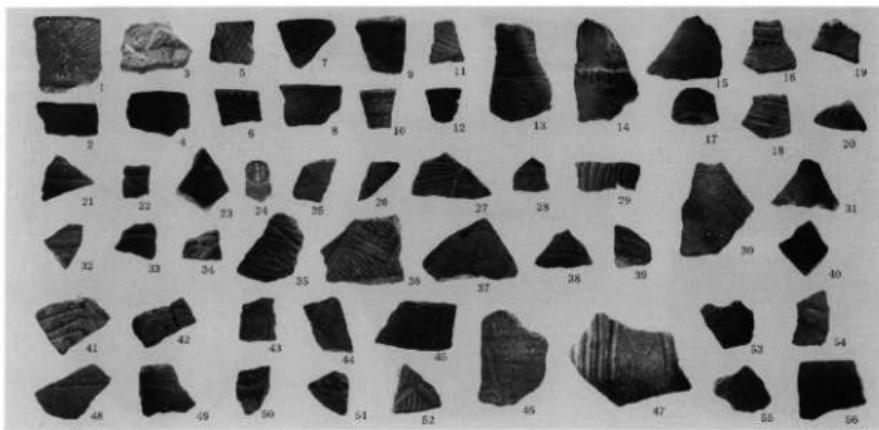
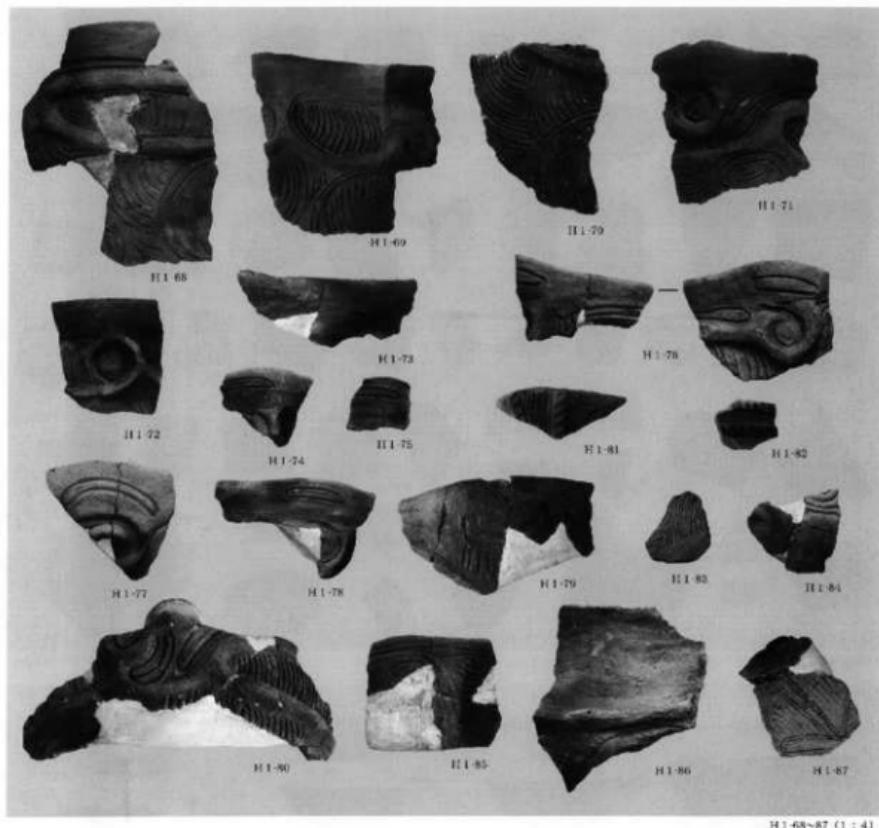






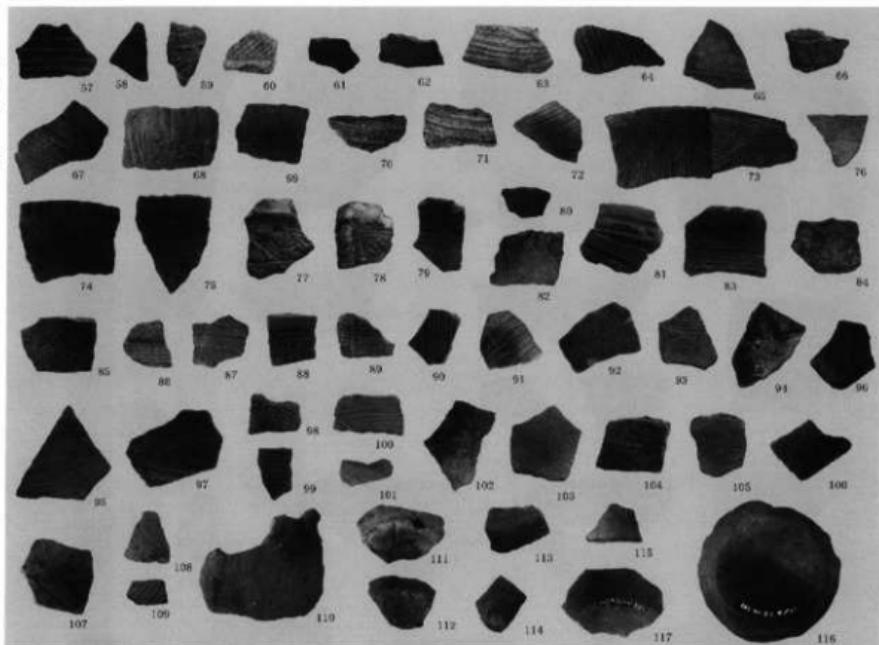


図版
十九

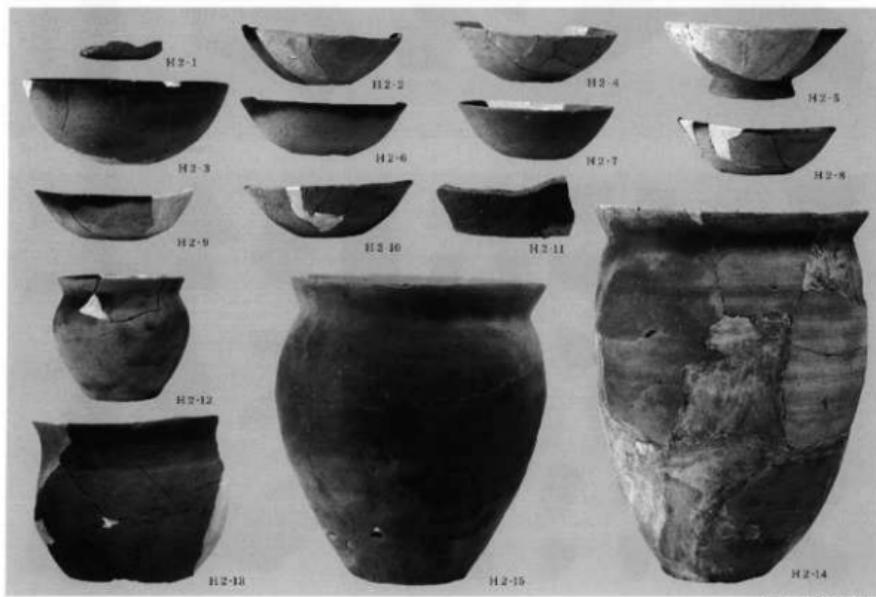


弥生中期土器

弥生1~56 (1:3)



弥生中期土器



H2-1~15 (1:4)



H3-1~6 H4-1~5 H5-1~42 H6-1~7 (1~4)
H5-44~H5-5 (1~2) H5-45 (1~1)

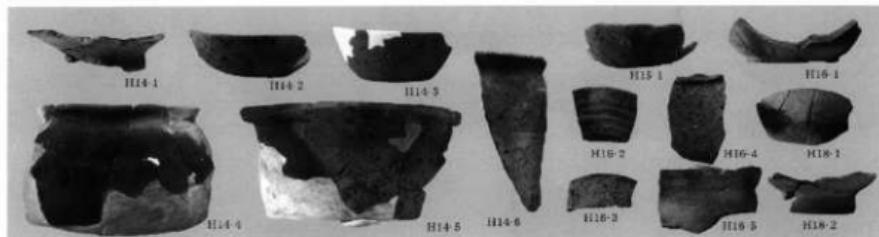


H7-1~24・H8-1~8・H9-1~15 (111)

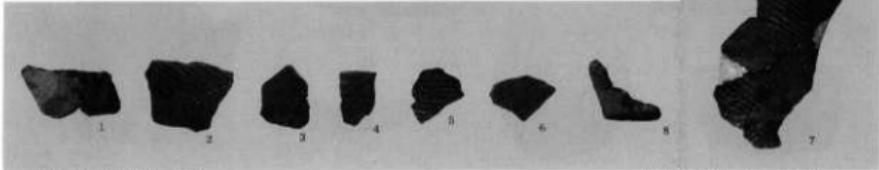


H9-16～27・H10-1～4・H11-1～5・H12-1～10・H13-1～18 (1:1)

(1:1:2)



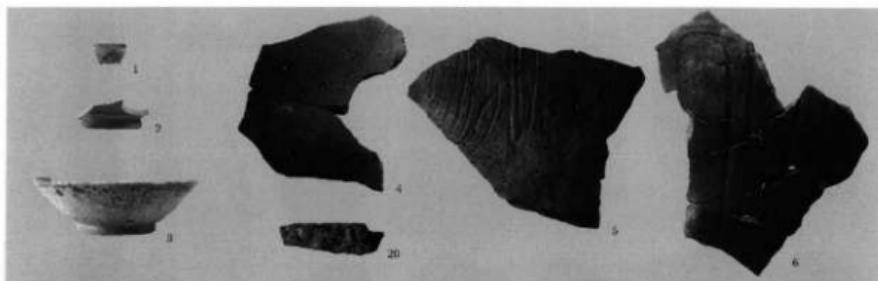
土坑出土遺物 (D)



溝狀遺構出土遺物 (M)

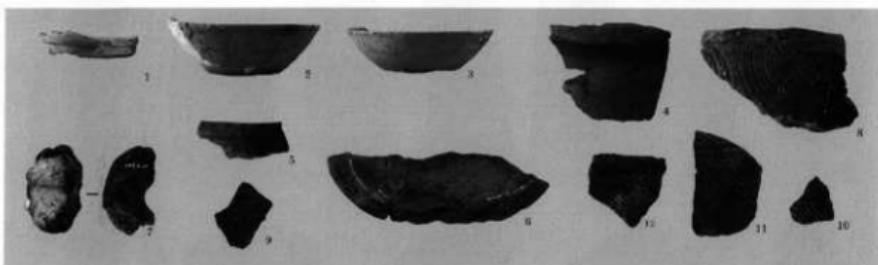
H14-1~6 · H15-1 · H16-1~5 · H18-1~2
◎ 1~16
N 1~8

(1:4)



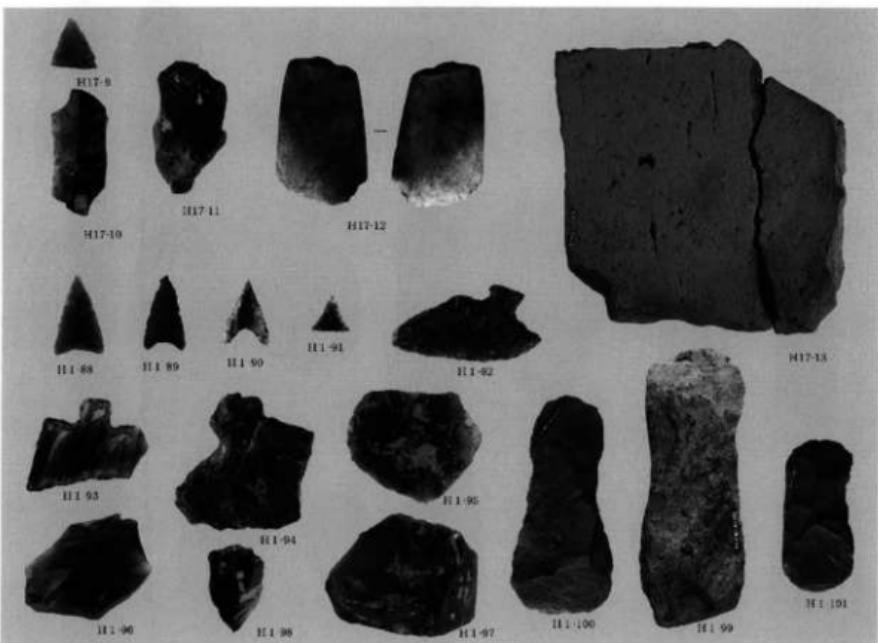
ピット出土遺物

H11-6 (1-4) H11-2 (1-2)

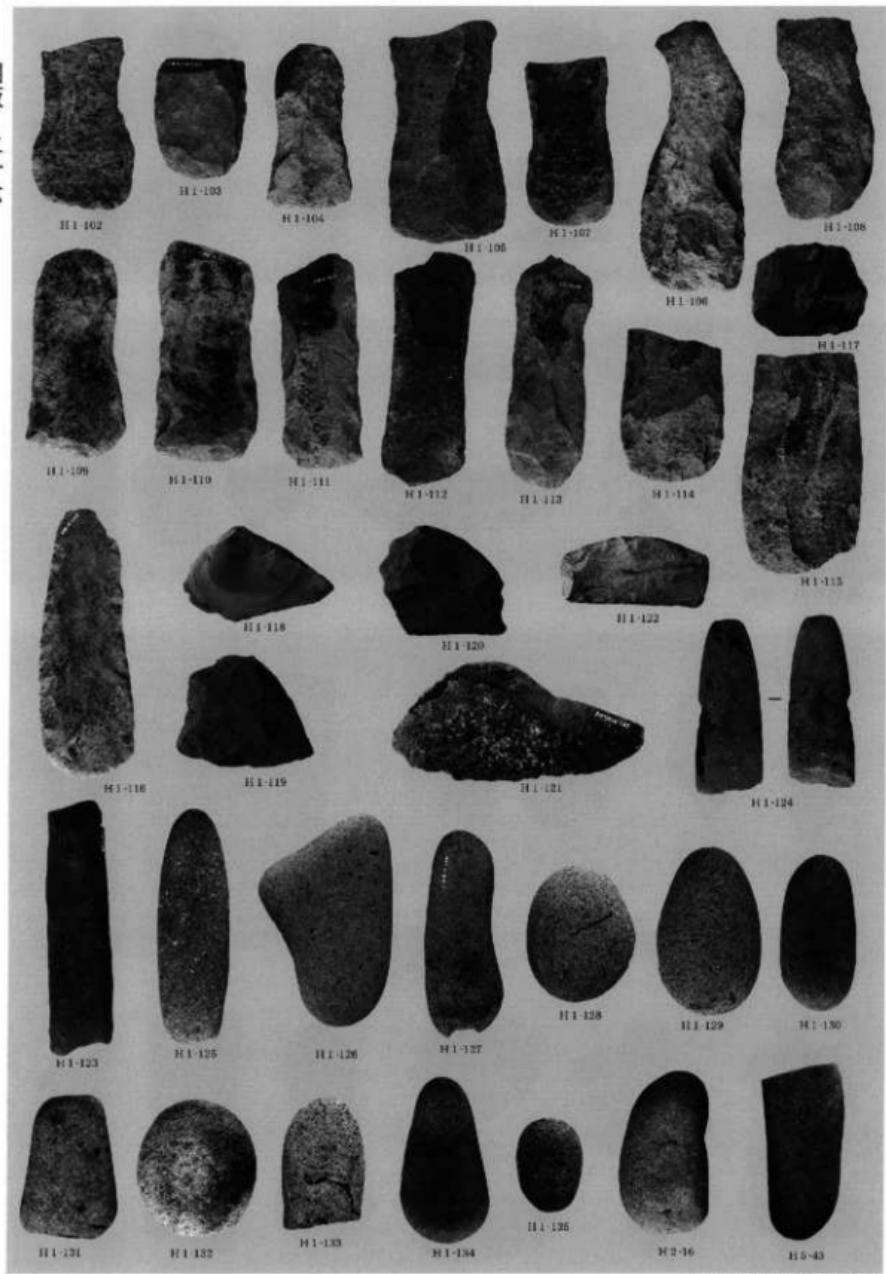


遺構外出土遺物

1-6+8-12 (1-4)
遺構外 7 (1-3)

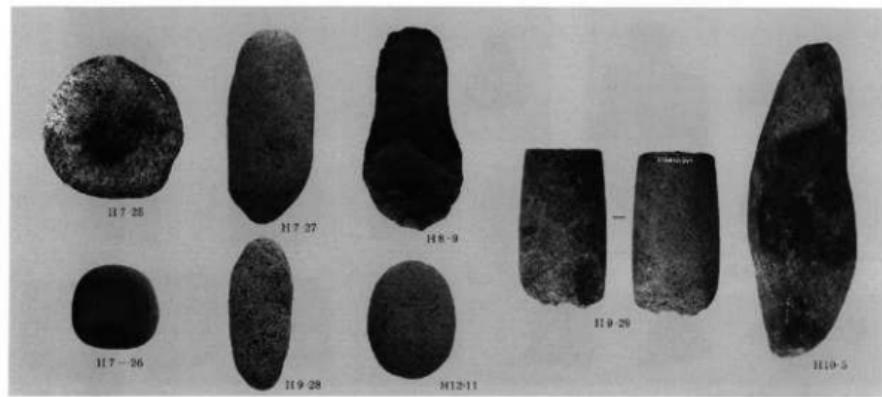
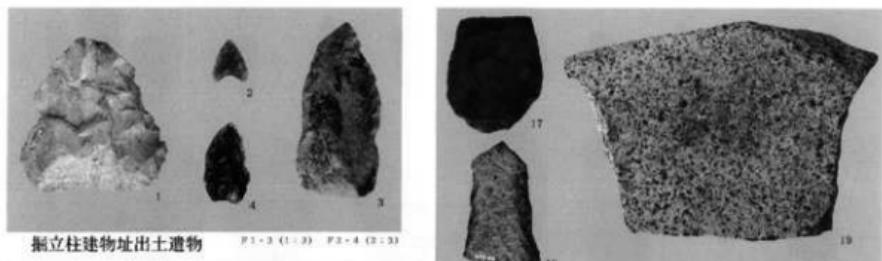


H17-13 (1-4) H11-90-100 (1-3)
H11-9-13+41-46-48 (2-3) H11-12 (1-2)



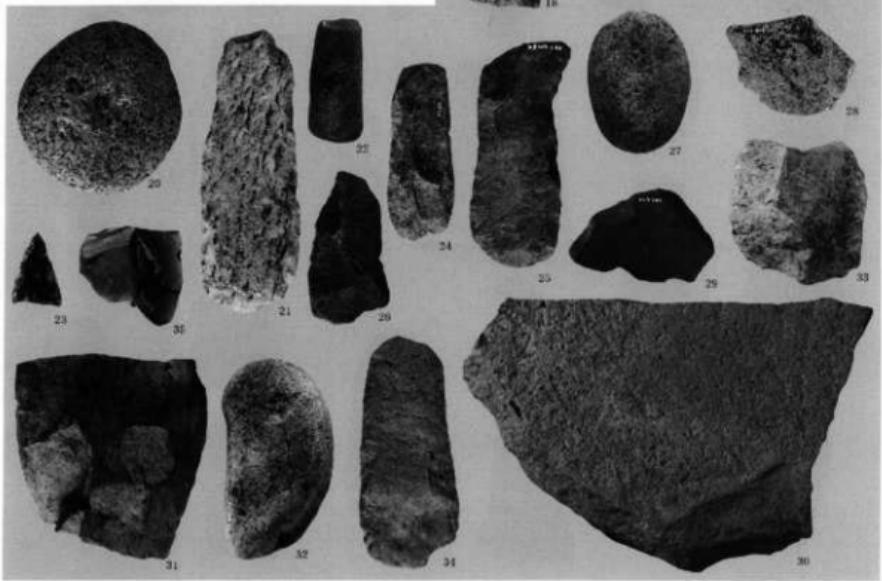
H1-102~125 (3:2:36+7) 5-43 (1:4)

H1-132~135 (1:3)

II7-25~27・II10-5・III2-11 (1:1)
II8-9・II9-28~29 (1:3)

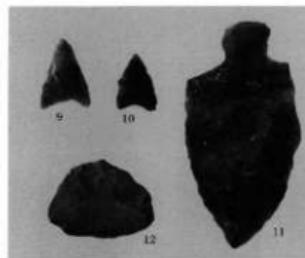
掘立柱建物址出土遺物

II7-25~27 (1:3) II8-9 (2:3)

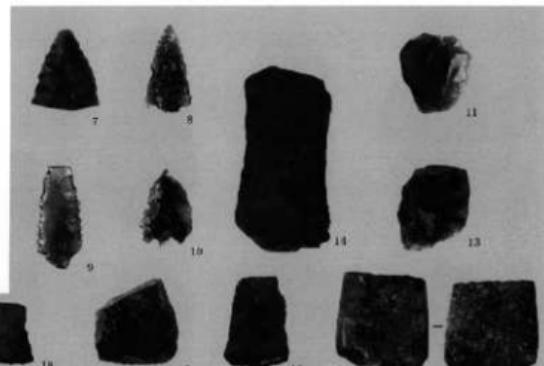


土坑出土遺物 (D)

D15~20・22~27・30~32 (1:4)
D15~18・21~24・26~28・29~33・36 (1:3)
D35~37 (2:3)

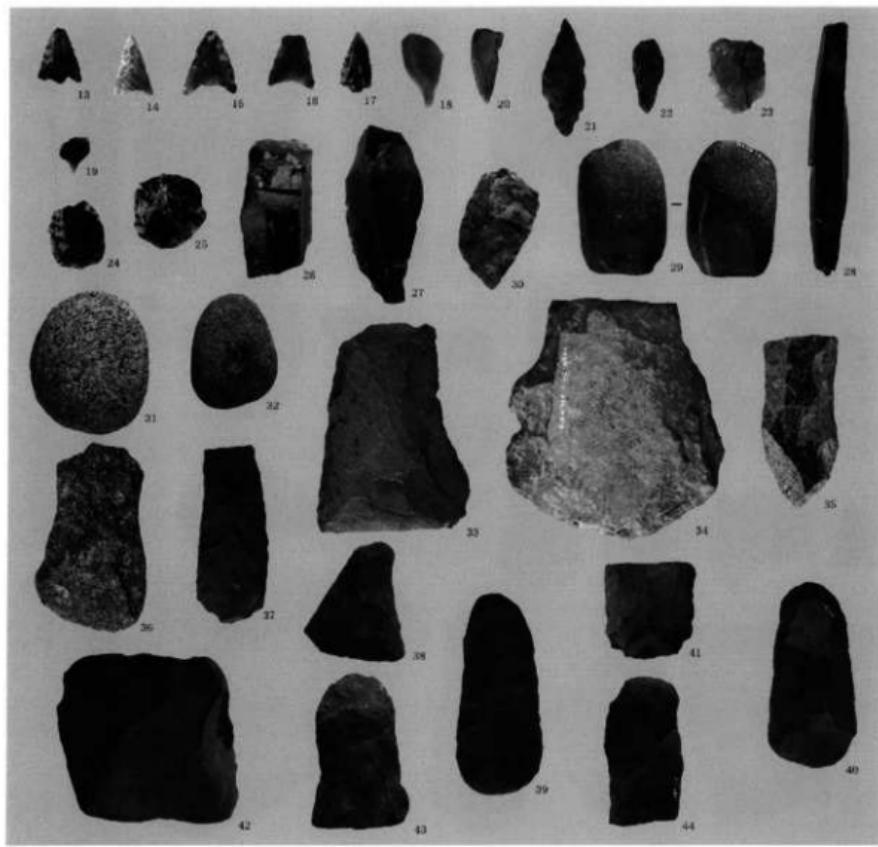


溝状遺構出土遺物 (M)



ピット出土遺物 (Pit)

M12・P14・19 (1:3)
K9・11・P17・18 (2:3)



造構外出土遺物

31・32 (1:1)
39・40・33～44 (1:3)
13～28 (2:3)



第51図 試掘調査全体図 (1 : 800)

報告書抄録

書名	反田遺跡
ふりがな	そりだいせき
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第149集
編著者名	富沢一明
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2008.03.21
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	小山崎遺跡群 反田遺跡 (S K S)
遺跡所在地	佐久市下小田切
遺跡番号	609
経度	138° 27' -34" (日本測地)
緯度	36° 13' -3" (日本測地)
調査期間	2006.07.03~2006.08.25 (現場作業) 2007.04.02~2008.03.21 (整理作業)
調査面積	1765m ²
調査原因	特別養護老人ホーム建設
種別	集落址
主な時代	縄文時代、弥生時代、平安時代
遺跡概要	遺構 硬穴住居址19軒 (縄文2.平安17) 挖立柱建物址4棟 上坑50基 溝状造構2本 ピット576個 遺物 縄文土器 (加曾利EⅢ.曾利佐久系) 弥生土器 (中期中葉 境塗平行) 土師器 瓢忠器 鉄製品 灰釉陶器 緑釉陶器 白磁碗 雕形土器 甲斐型土器
特記事項	佐久市小田切地域では初の本格的な発掘調査となる。弥生中期中葉に比定される上器群の発見や、東信地域では初めてとなる雕形土器などが出土した。また、平安期住居址からは甲斐型土器と考えられる土器群が出土し、遺跡の立地からも信州佐久と山梨間の交流を考える上で新資料となつた。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第149集

反田遺跡

2008年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68 7321

印刷所 キクハライネク(南)